京城日報 新年號 第二

樂し、御代の春

盃を擧げて我皇の鴻恩を謳へ

内務部長官 宇佐美勝夫氏談

＝所謂萬家の春＝

乾坤一轉、吾人は茲に大正五年の新春を迎ふ、新年何ぞ樂しき哉、何を以て樂しと謂ふ乎、凡そ樂の大なる[illegible]より善きは無し、然るに新年の樂みは都鄙を論ぜず貴賤を問はず、四海を擧げて萬家の春を同慶す、其樂み何物か之れに若かむ、且つ夫れ樂は多く苦を伴ふと雖も新年の樂は一盞の屠蘇に[illegible]、數の子、極めて簡易の設けを以て滿腔の祝意を表し得可し、行ふに苦なくして而かも萬人之れを齊にす、何の樂みか之れに過ぎむ

＝人生の新生活＝

人生一年の計は新年に於て之を行ふ、而かも計畫の實行意の如くならざるもの常に十に六七、氣漸く沮み意漸く衰へ、惰氣方に生ぜんとするの際、茲に新年を迎へて新しき計畫、新しき希望、新しき勇氣を以て更に人生の新生活に入る、天地茲に改まりて氣自ら爽也、何の樂か之に若かむ、實に新年の樂は勇氣を加へ、希望を與へ、人生を新にす、吾人は深く新年を樂み切に之を喜ぶ

＝前代未聞の世＝

年改り、曆更る每に衷心欣幸の情禁ずる能はざるは吾皇の聖德鴻恩愈朝鮮半島に光被し、黎民益其生を安ずるを睹るの一事なり、產業の振興、敎育の普及、交通の開發は年と共に隆昌を來し、不逞兇賊の徒は愈其跡を絕つ、生命財產の安固は今更言を俟たず、殊に總督府施政以來、恩賜の金額三千五十餘萬圓に達し、永く黎民の爲め各種の基本金として保藏さるゝもの實に二千百七十三萬二千三百餘圓を算せり、即ち一千七百三十九萬八千圓を以て府郡の產業、敎育、凶歉救濟の資に二十五萬圓を以て經學振興の資に三百三十五萬五千八百圓を以て濟生院並に醫院の基金に、二十一萬三千五百圓を以て行路病人救護基金に、三十一萬五千圓を以て罹災救助基金に充てさせられ、且つ昨秋御即位の大典に際しては養老賑恤の資として二十五萬圓を下賜あらせらる、斯の如く巨額の資金は朝鮮の福祉を增進して未來永劫絕ゆるの期なかる可く皇恩の無量なる洵に朝鮮ありて以來未聞の事に屬せり

□鴻恩眞に無疆

予は此等恩賜金の効果が如何に朝鮮人民の幸福を促進しつゝあるかを說きて此初春に吾皇の聖德を謳はんと欲するもそは一朝一夕を以て盡し得べきにあらざれば左に其一例として濟生院養育部に於ける農場の近況を一言し、以て鴻恩の萬分を語らむとす

＝濟生院養育部＝

濟生院養育部は孤兒の育成に在りと雖も、事實に於ては啻に孤兒而已に止まらず[illegible]感化院に收容す可き者多きが故に之れが敎養に就きては[illegible]一同至大の苦心を拂ひ[illegible]に努め居れり、而して院兒は[illegible]に應じ各適當なる職業を[illegible]きは勿論なるも、之を[illegible]鑑みるに主として農民[illegible]以て彼等將來の生計上[illegible]京畿道楊州郡[illegible]國有未墾地及び同林野地の約百七十町步の交付引繼を受けて大正二年十一月農場を開始せり

＝農場の收容兒＝

然るに院兒は當初勤勞を厭ひて之れに[illegible]、苦心敎導の結果漸く[illegible]名を得たるに過ぎざりしが、今日に於ては二十九名に達し而かも欣然作業に精勵しつゝあるのみならず職員一同の指導訓戒宜しきを得て院兒の氣風頗る良好となり素行の如き附近子弟の範と爲すに足るものあり

＝事業成績顯著＝

事業の成績に就きては一昨年は開始當時のことゝて耕作地を得ること甚だ少かりしが昨年に於ては畓一町四反步、田一町一反步を得、玄米三十二石餘、雜穀四石餘の外尚ほ蔬菜の收穫あり、其反當は玄米約二石二斗に達し、之を南鮮地方に於ける農場に比するに敢て遜色なき好成績を見たり、而して院兒は倍々農事に勵精するの氣風を生じ、昨年中には二名の皆勤者を得て歲末之れを表彰せり、又た院兒には其勤勞の程度に應じて收穫物代價の一部を給與するの制度を採れるが故に彼等の貯金額は年を追うて增加し、今日に於ては既に其額五十圓以上に達す可きものあり、斯くて農作の好績と貯金額の增加とは院兒をして愈々農耕に奮勉せしむるに至り同場經營の目的は漸次到達の階光を見むとす、吾人は光榮ある大正五年の新春に當り先づ盃を擧げて聖恩惠澤の光被を壽がざる可からず、實に新年は樂しきかな

朝鮮の貿易と流入資金

朝鮮銀行理事 水越理庸

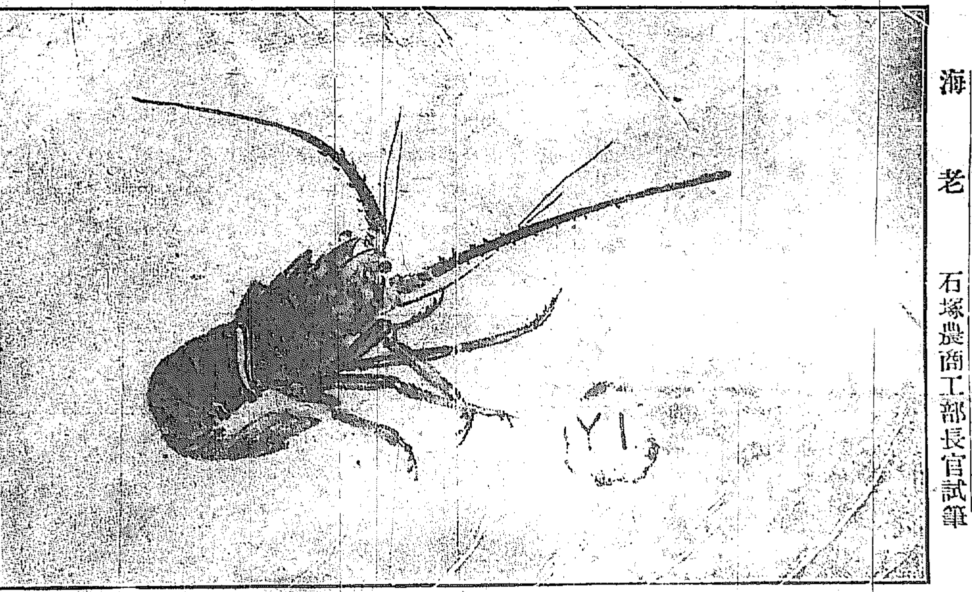
（一）朝鮮の貿易

殖民地の貿易が其開發の初期に當て逆調に苦むは各國の殖民地に於て多く其例を見るところ、我朝鮮の如きも亦此の例に漏れず、其貿易は年年輸入超過を呈し、之が恢復に就て官民の常に苦心するところなり。尤も朝鮮に於ける貿易の逆調は、朝鮮が我版圖に歸したる以後の現象にあらず、遠く韓國時代より繼續せる事實なれども、併合以來其逆調の程度の著しく增大したるは爭ふべからざるなり。唯大正四年の貿易は、從來に比し極めて好調なりしも、是れ歐洲の戰亂に伴ふ殆んど一時的の現象にして、之を以て今後を卜すること能はざるべし。今少しく朝鮮貿易の實狀を述べんに、明治四十三年即ち韓國併合の歲に於ける普通商品の輸入超過は千九百八十六萬圓に過ぎざりしが、明治四十四年には一躍して三千五百二十二萬圓となり、大正元年には更に膨脹して四千六百十二萬圓を示せり。爾來幸にして形勢一轉し、退勢を現し來りしも、尚大正二年には四千七十萬圓、大正三年には二千八百八十四萬圓、大正四年（十一月迄以下同）には千百八十二萬圓の輸入超過に終れり。右の普通商品の輸入超過に對して大に我意を强うするものは朝鮮產金の輸出なりとす。其額は明治四十三年に於て既に八百九十九萬圓に達せしが、尚年々漸增の傾向を有し、大正四年の如きは千萬餘圓に達せしを以て、其朝鮮對外貿易の逆調を緩和する[illegible]

明治四十四年	[illegible]
大正元年	三七,[illegible]〇〇,〇〇〇
大正二年	三〇,八〇三,〇〇〇
大正三年	一九,三三一,〇〇〇
大正四年	一,六〇一,〇〇〇

（二）貿易以外の仕拂

凡そ一國の對外債務を生ずる原因は、貿易差額の外海運賃、保險料及び利子の支拂等種々の事項あるは何人と雖も知悉するところなり。朝鮮に在りても亦此種の事項に基く債務あるは勿論なり。其他旅客の携帶額も巨額に上るべし。例へば關釜連絡船に依りて朝鮮より內地に歸還する旅客は年十萬を數ふ、此旅客が携帶し去る金額の如きは決して少しと云ふべからず。今朝鮮銀行釜山出張所が內地行旅客の爲め連絡船內に於て日本銀行券若くは日本の硬貨を以て朝鮮銀行券若くは舊韓國通貨に引換たる額のみにても、大正三年及び大正四年共に二百萬圓を超過せり。此種の支拂は所謂無形輸入に對する支拂にして、其各項に付正確なる統計を徵すること困難なれども、右朝鮮銀行釜山出張所の引換高より推察するも、其總額蓋し尠からざるものあらん。



海老

石塚農商工部長官試筆

（三）對外債務の決濟

朝鮮の貿易より生ずる對外債務が既に右記の如く年々多額に上れるに、更に貿易外の無形輸入より生ずるものありとすれば、我朝鮮が年々內地若くは諸外國に對して負擔するところの對外債務が、實に巨大なる額に達し居るは想像するに難からず、此一事より觀るときは朝鮮の經濟は誠に危險の狀態にありと云はざるを得ず。少くとも斯る狀態に傾きつゝあるものと想はざるを得ず。然るに實際に於ては是れ朝鮮には貿易外の原因に基く資金の流入多額に上り略前記の債務を決濟し得るが爲なり。右所謂貿易以外の資金流入の原因なるものは、前に述べたる貿易外の原因と同じく、其事項一二にして止まらずと雖も、其主なるものは（イ）朝鮮總督府特別會計に對する一般會計よりの補充金（ロ）同特別會計の公債募集金（ハ）朝鮮に於ける母國陸海軍費（ニ）政府より朝鮮人に支拂ふ恩賜公債の利子（ホ）內地人の朝鮮事業に對する投資等を數ふ。されど右各事項の正確なる額に至ては其計算頗る複雜なるを以て之を略し、唯試に主たる流入資金の計數を揭ぐれば左の如し

一、一般會計よりの補充金＝此補充金は明治四十四年度に於て千二百三十五萬圓なりしが、大正二年度に至て一千萬圓に減せられ、三年度の實行豫算にて更に百萬圓を減じて九百萬圓となり、大正四年度の實行豫算に再び百萬圓を減額して八百萬圓を計上せり。右の如く年々其額を減ずるは政府豫定の計畫にして、遂に其全部を剩り所謂朝鮮財政の獨立を見るは近く兩三年の內に在り

一、公債募集金＝本募集金は朝鮮事業費、主として鐵道港灣設備の費用に充當するものにして、或は預金部より融通を受け、或は銀行より借上を爲し、又は國庫債券を發行する等、同事業當[illegible]の形式一ならざるも、

年次	補充金	公設募集金	恩賜公債利子	[illegible]
明治四十四年度	一二,三五〇,〇〇〇圓	一〇,〇〇〇,〇〇〇圓	一,一〇〇,〇〇〇圓	八二,[illegible],〇〇〇圓
大正元年度	一二,三五〇,〇〇〇	一三,[illegible],〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	七,八〇〇,〇〇〇
大正二年度	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一二,四三三,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇
大正三年度	九,〇〇〇,〇〇〇	九,四〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇

如斯朝鮮は一方に貿易及び貿易外の原因に基く對外債務を有するも他方に又前記の如き種々の原因に依る資金の流入ありて略之を償ひ得るの狀態に在るものなり。

（四）英佛との比較

今歐洲先進國の貿易を見るに、英佛二國の如きは連年輸入超過を繼續し、而も其額數億圓に上るを常とす、而も何人も之を以て其國の經濟社會衰微の兆となし、財界の危機を呼ぶ者なきは、同國が從來外國に放下したる資金に對する利子收入の莫大にして、斯る貿易差額は之れを以て支拂ひ、尚綽々として餘りあるに據り出す。されば此等の國に於ては貿易の入超額を以て却て其國の富力を測るの標準となすに足るべし。其外形を以てするときは朝鮮の貿易と、英佛二國の狀況に類似するものあり。唯其規模を小さくするの差あるに過ぎざるが如しと雖も、其內容に至ては固より同日の論にあらず。

英佛二國の貿易決濟資金が、曾て自己の蓄積に係る資本の利息なるに反し、我朝鮮の貿易決濟資金は、曰く補充金、曰く公債、曰く海陸軍費、曰く內地人の投資等、一つとして自己創出の資あるなし、恩賜公債の利子收入は稍英佛の例と相似たるところあるも、其元金たるや人民自體の投資したるものにあらず、政府より下賜したるものなれば其經由補助金と變るところを見ず。

（五）決濟資金の將來

假令自家創出の資にあらずとするも、其流入永年に亙りて確定不變ならんには、朝鮮の貿易の逆調必ずしも憂ふるに足らず。然れども前揭の朝鮮資金流入の原因は其永續甚だ[illegible]に足らざるものあり。又今日流入の原因は他日流出の原因をなすものあり。

初の豫定完了期は大正五年度なるを以て、其事業完成と共に、遠からずして消滅するに至るべし。而して本負債は元來朝鮮特別會計の所屬なるを以て將來之れを償還するの時機有るべきを忘るべからず。朝鮮に於ける貿易外の流入資金中主要なるものゝ運命斯の如しとすれば、其時機の到來は茲に朝鮮の經濟界に對する一革命の時期を畫するものと云ふべし。

（六）產業開發の急務

朝鮮產業の開發は其筋の夙に著目せらるゝところにして、自作自給他作他給の二道を以て施設の要義となすもの如し。蓋し輸入品は許す限り之を國內にて生產し他の供給を仰がず輸出品は可成其生產を增加して之を外に供給せんとするの意にして其趣旨とするところ主として朝鮮貿易の均衡を保持するにあること疑なし。思ふに朝鮮產業の開發は、少くとも朝鮮財政獨立の日迄に略其効果を擧ぐるの必要あるを以て、之に對する施設は今日に於て特に急務なりとする所なり。吾人は朝鮮の富源と總督府の熱心なる施設とは、相挨りて遂に開發の目的を達することを疑はず。現に近來の貿易の趨勢を察するに、輸出の增加率が輸入增加率に優るものあるは、產業施設の効果を證明して餘りありと信ず。斯の如くして遂に朝鮮の貿易が輸出入相當り更に進んで出超を呈するに至らば茲に我朝鮮は財政の獨立と共に經濟獨立の地位に到達したるものと云ふべし

▲六百年來の丙辰（其一）▲

■花園天皇 正和五年、執權北條高時之に代る

■後龜山天皇 天授二年、菊池武朝、今川貞世と鎭西に戰ふ。此歲北朝は後圓融天皇の永和二年なり

■後花園天皇 永享八年、二月足利義教大に新田氏の族を索む、世良田政親、桃井滿昌、兒玉貞政等捕縛せらる。三月飢疫し死者甚だ多し。六月大內持世府內城を攻て之を陷る、大友持直戰死す。義教使を明に遣す。千葉胤[illegible]、肥前小城に戰ふ

■後土御門天皇 明應五年、正月大內義興大軍を發して少貳政資を伐つ。[illegible]に遁れて自殺す。十一月大和の浪士筒井順[illegible]と戰ひ白毫寺の[illegible]を焚く。此の歲天下飢饉す

■後奈良天皇 弘治二年、[illegible]首服を駿河に加ふ。今川義元命名し元信と名く。三月上杉謙信武田信玄と川中島に戰ふ。四月齋藤義龍其父[illegible]を弑し二弟を殺す。十月三好長慶[illegible]して宮闕を修す

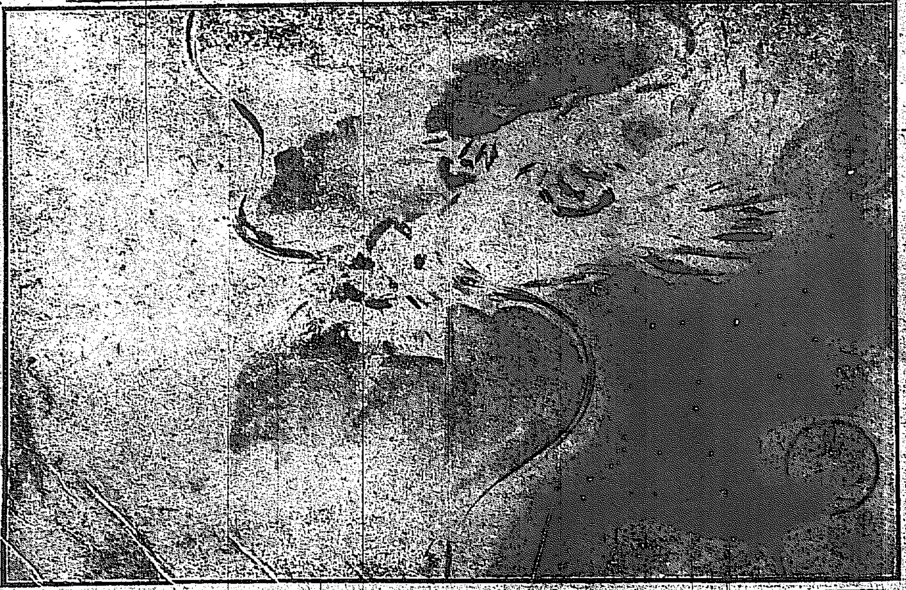
■後水尾天皇 元和二年、二月將軍秀忠松平忠昌を信濃松代十二萬石に封す。[illegible]大風雨あり三月前將軍家康太政大臣となる。四月家康駿府に薨ず年七十五、駿河久能山に葬る、五月[illegible]に和ぐ。秀忠弟忠輝を伊勢の朝熊に[illegible]。八月長崎に令して耶蘇敎を嚴禁す。秀忠遺命により廟を日光に起す本多正純、[illegible]行となる

謹賀新年

京城[illegible]通一丁目

朝鮮煙草株式會社

電話一八七番



龍 ―關屋學務局長試筆

一人生一年論

小松綠

凡そ宇宙間の事、何事を問はず、知り難きを常とす、獨り正月元旦だけは、三百六十五日の後には必ず廻り來りて違ふことなし、人間生れて死に至るまで止めむとして止むる能はず、避けむとして避くる能はざるものは新年の御入來なり、之を歡迎すると將た之を厭忌するとに拘らず、新年は何人にも見舞ひ來るを奈何せん。與にして女は色の褪ろを怨み、男は少年少女は其の生長を悅べども、須力の衰ふるを悲む、人類の大多數は孰れも新年の又來りて歲一つ重ぬることをにが〳〵しく思ふぞ哀れなる然らば則ち何が故に新年を目出度しといふや、大抵は痩我慢なり、人々擧つて目出度しといふが故に、吾も亦目出度くなくとも、唯世間並に目出度しといふのみ、新衣新裳も借金にて新調しては目出度からざるは勿論なり。

翻つて想ふに、老少貧富の別なく新年の目出度かるべき所以なきにも非ざるが如し、周舊邦と雖も其の命維れ新なりと云ふ事あり、老人たりとて新年より何も角も新規に計畫せば壯年と大差あるべからず、百年の大計なども氣取ればこそ日暮れて道遠き心地もすれ、一年だけの事業ならば、老人も壯者も青年も力の及ばざるを嘆息するべきに非ず、正月元旦より出發して三百六十五日の計を爲さば何事か成らざらむや、年末にて落著したらば幸なり、年末に終結せざるものは、元旦より更に氣も心も新たにして之を續行せば十年の計位は自然に成る時あるべし。女ならば三十臺、四十臺の新年、男ならば五十臺、六十臺の新年と思へばこそ目出度くもなきことならめ、先づ其の年臺を忘れて一年の元旦と心得べし、身心だに健全ならば六十臺は愚か七十、八十、九十、百臺にても、二十、三十、四十、五十臺位の人に劣らざるべし、長壽するが目出度きに非ず、何歲までも若年の氣力あり思想あることが目出度きなり、正月は毎年新らしく逆に戾り來るものと思ふべし、毎年おなじことを繰り返すこと珠數の循環して終りなきが如し進んで歲を取りたりなぜいふに及ばず、一年を幾倍するも一年なり、累を重ねて累なるが如し、一に一を加ふるは迷想なり、常に一に一を乘べし、何年たつても一年なり、人生五十年と思へば心細し、人生一年と思へば何年たつても定命に達せざるべし一年の定命重ね來りて際限なければなり、一年の中に死ぬ者もあるべし、是が眞の定命なるべし、死といふも唯々無限の眠のみ、此の汚穢の塵世を餘所にして眠るも一興なり、斯く觀じ來りて始めて新年の目出度き所以を知るべきに非ずや、悟れぬ人こそ笑止けれ。

鑛業富國論

＝鑛產あるは天下を制す＝

東拓副總裁 野田卯太郎氏談

西小門の邸に大塊翁を訪うて其の談話を乞ふ、緊張した態度で翁は語る――

■滿洲の野と墺國 過ぐる七月に諸君と共に滿洲の野を歩いたが其時吾輩は、端なくも先年洋行した時の記憶を喚び起したのは、即ち往年墺太利を旅行して維納の都より何牙利のブダペストに赴く途上、囑目の地が恰かも滿洲の野に髣髴たる事であつた。彼邊一帶は、地味も決して惡くはないが、今日戰爭の新聞記事に於て、墺匈國が未だ曾て糧食に差支へたと云ふ事を見ない。彼國は農業國としては、歐洲に於て大農國たるに相違はないのである。此點は露西亞も同樣である。而して今度の戰況を見れば、何れも强いとは謂へぬ。双方共に戰爭は不結果のやうである。

■獨墺勢力の顚倒 又歐洲の歷史を見るに、千八百年代までは、墺太利は日耳曼の覇者であつた。然るに今日は如何であるかと云へば、地位を顚倒して獨逸の麾下に居ると云ふのは、蓋し所以ある事と謂はねばならぬ。尤も獨逸のフレデリック大王は、墺太利に倣うて農業促進の政策を執つた事を聞いて居る。斯くの如く墺太利は農國としては豪い國であつた。從て墺國は其の當時農業時代であつたが故に覇者たりしに相違ないのである。而かも其間に於て獨逸には地下より鑛物がドシ〳〵出るやうになつた、即ち是れが獨逸と墺太利とが近世に及んで地位の顚倒を來したる所以である。其の證據を言へば、千八百六十六年に墺太利が獨逸から叩きつけられたのは、兵糧の力にあらずして大砲の力であつた。是れは全く獨逸の鑛產と之に伴ふ理化學の發達との結果であらう。墺太利が獨逸に屈したのは鑛產より生ずるところの諸種の工業が發達して居なかつたからであるに相違ない。今に於いて墺太利には何等見るべき工業が存在しない、石炭を始め總ての工業品は之を獨逸に仰がねばならぬ境遇である。

■露國と鑛業 此關係は露西亞亦然り、若しも露西亞が獨逸であつたとすれば、明治三十七八年の日露役の如き無謀の事は致さなかつたであらう。少くとも撫順の石炭位は掘り出して大に利用せねばならぬ筈であつた。若し三十七八年戰役の頃に撫順炭坑が發達して居つたならば、露國は西伯利鐵道の機關車の燃料として不經濟不自由なる薪に代ふるに石炭を以てし、輸送力を增加して彼の時よりは三割は多くの兵員を極東に派する事が出來たであらう。斯くの如き物資上の準備なく、無謀の事をしたのは、當時に於て鑛產の見るべきものなく、且つ之に關する智識が乏しかつたが故であると見なければならぬ。乍併世の中は日進月歩の趨勢である。今後の露西亞人は如何であるか知らぬが、既往に於ては左う云ふ有樣であつた。佛蘭西も亦其通りである。鑛產少く石炭も足らぬ位である。伊太利の如きは皆無と謂て差支ない。それであるから戰爭の御手際も餘り良いやうでない。

■英人の慧眼 之に反して英國の遣り方を見よ。トランスバアルは地圖を見れば一體亞弗利加の何處に在るか、若しもトランスバアルが農產物ばかりの處であつたならば、英國は喜望峯で貿易をして居たに過ぎまい。然るに英國が無名の戰爭をしてまで彼處を橫領したと云ふものは全く鑛產物が有るから許ではないか。若しも英國が南亞の金銀ダイヤモンドを放つて置いたならば、獨帝から腕を摑まれる譯であつた。英人の鑛產に著目するの銳敏なるは此れで以ても知るに足るではないか。

■鑛產を擁するの勢 又日本の歷史に就て見るも、古人として源賴朝の如き、北條早雲の如き、即ち伊豆の金によりて天下を制した。甲斐の信玄の如きも鑛產を重要視したのである。又德川家康の如きは金春と云ふ謠曲師を拔擢して鑛產の探索をさせたと云ふではないか。又九州では薩摩は農國として肥後の半分しか收穫がないにも拘らず天下に覇を唱へたるは、全く以て金山に據つたからだと見なければならぬ。鑛產の勢力又斯くの如きものかと思ふのである。今人としては、三井三菱を始め我が福岡縣にては貝島安川麻生其他の者を見ても鑛產の勢力以て知るべしである。

■日本と石炭 吾輩は斯く言ふが、併し是を以て日本帝國の農業を忽かせにするものではない。而かもそれと同時に鑛產の發掘を努めねばならぬと申すのである。若し日本內地及び朝鮮に充分の鑛產なしとせば有る處まで行つて掘らねばならぬと思ふ。併し帝國の領土にも鑛產は充分あると思ふ。過ぐる明治四十二年に洋行した時、僕も福岡縣の產であるから石炭の調査は略々致したのである。その當時の比較で云へば、日本の石炭產出高は獨逸の八分の一、英國の十一分の一であつた。然るに近頃或る新聞によれば、日本の出炭高は獨逸の十三分の一しかない。して見ると獨逸は其時より炭坑業が進んで居ると見ねばならぬ。其他の鑛物も推して知るべしである。

■一波動萬波起 日本人は稍もすれば我邦は一等國であると誇り何だか英獨米に肩を並べて居るやうであるが、而も物質上に於ては未だ遠く及ばぬと思ふ。それは前に述べた所でもわかる。其れで吾輩は是迄政界に居たが、其間に朝鮮に資本を投じ滿洲に金を注ぎ込めば內地を如何する。無闇に左樣な事をしては內地は立たぬではないかと論ずる聲も聞いた。然れども朝鮮其他には內地に無い鑛產があるとすれば、即ち潰すどころか以て國を興すべしではないか。これは見樣であるが、吾輩も朝鮮に來りて正に二年となるが、斯くの如き鑛脈のある以上は、之を愈々探せば益々大鑛脈を發見し得るものと思ふ。此度の戰によつて列國の富强の度が判り。殊に鑛產の豊かなる國が强いと知れた以上は、我國に於ても大に鑛業を發達させて地下の富源を開發すべきである。吾輩は思ふ凡そ一國の農工商は一の主なるものに向つて資本を投ずれば、從て總てが相俱に發達することは、從來の經驗にても知るに足るのである。其の證據には我が福岡縣就中三池の如きは、由來寒村僻陬の地、農業として見る蔭もない處であつた。然るに一度其の地下より鑛產が出たら、農工商は俄かに發達して一の大市街が出來た。これは云はずとも世人の知るどころである。吾輩は決して農業其他の業を忽かせにするのではないが、先づ第一に富源の主たるもの丶一つに資本を投ずれば、その效果が萬般に普及して國家經濟の發達を促進するといふ事について世の人の考慮を促がさんとするものである。

新年書懷

鷺村生

十歲看過又一回。淹留不是戀天涯。空纏塵網廿拘束。老就薄官奈拙才。風月頹歲胸裏在。酒詩時拂硯埃來。迎新可莫昇平賦。皇土無偏泰日開。

勅題（寄國祝）恭賦

成島淑士謹稿

崇麗神光終古浮。此邦豊穰兆民謳。厚恩波及南洋島。餘澤潮來北滿洲。堪喜國圖宏且大。須祈實祚綿乎悠。諸看列國多興廢。若我神州無匹儔。

謹賀新年

專務取締役 藤井寬太郎
取締役 金澤仁兵衞
取締役 中村清藏
取締役 右近和作
取締役 川上佐太郎
取締役 小寺源吾
監査役 八木千之助
監査役 高田義丸

朝鮮京城黃金町一丁目
株式會社 不二興業
電話 長八八・八六番

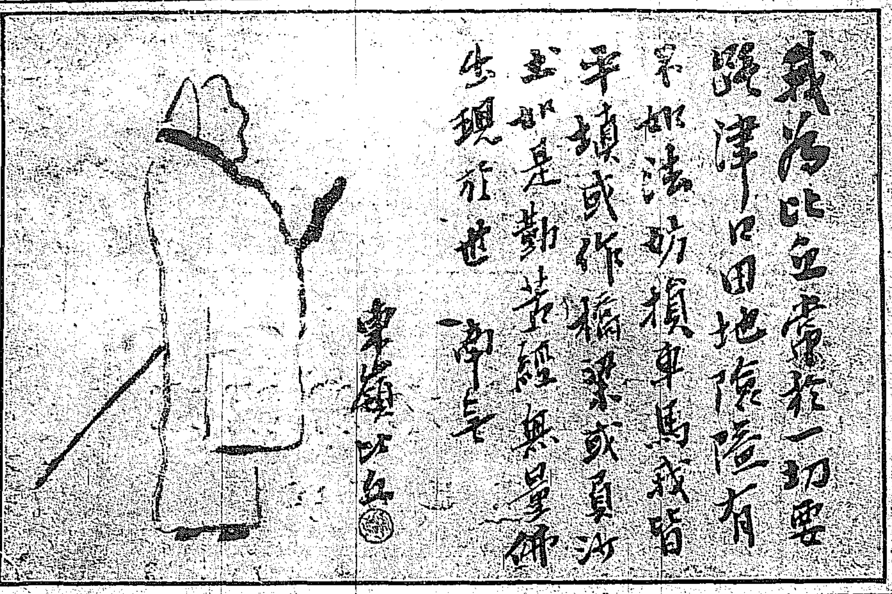
群山府本町通
群山支店
長電話四七番 登錄電信略號(フニ)
主任 村上政高

仁川府海岸通
仁川支店
長電話六五一番 登錄電信略號(フニ)
主任 飯尾芳太郎

全羅北道益山郡王山里
王山里農場
主任 佐藤福太郎

平安北道龍川郡府羅面
西鮮農場
主任 三木榮

行基　持地土木局長試筆



朝鮮と土地調査事業（一）

土地調査局長　鈴木穆氏談

□總說

土地調査事業は地籍の整理及び土地收益の調査を目的とするものにして土地所有權を確保し且つ地税負擔の均衡を計らんとするものである。抑地籍の整理とは土地每筆の所有權、地目、地番、境界及び地積を精確に登録し之れが地籍圖を作製するものにして最も重要なる國務の一といふ可く行政各般の施設は凡て之に依りて始めて眞の立脚地を得る次第である、國に地籍なきは恰も戸籍のなきと同じく行政の根基に於て著しき不備あるを免れぬ而して地籍の整理と共に土地收益の調査を爲すは啻に事業上便利なるのみならず、地税負擔の基礎を明確にし其の均衡を圖りて能く財政の基礎を定むる上に於て必要缺くべからざる事項である、從て常に地籍整理と相俟て土地收益調査を施行する譯である。本事業は多額の經費と多大の勞力とを要し極めて困難なる事業なるにも拘らず何れの國に於ても其の施設の劈頭に於て必ず先づ地籍の整理を以て最も緊切の事項と爲すのである、固より其の▽調査順序及び方法は時と所とに依り種々相違する所あるも、日本内地は明治六年より同十四年に地租改正と共に土地臺帳を整備し、臺灣は同三十一年より同三十八年に至り、琉球は明治三十二年より同三十八年に亙りて何れも土地調査を完成した、是を歐米諸國の例に徴するに佛蘭西は一千八百七年より獨逸は一千八百八十一年より、亞米利加合衆國は一千七百八十五年より何れも巨多の歲月と巨萬の經費とを投じて地籍の完成を圖つて居る、又是を各國殖民地の實例に見るに埃及は一千八百九十二年、印度は一千八百五十五年、安南は一千八百九十五年より十數年に亙りて之を施行し其の他佛國領チユニス、アルゼリー、ニユカレドニア、マダガスカル、コンゴーに於ける、又米國のフイリツピンに於ける、英國の濠州殖民地及びシンガポールに於ける、獨逸の膠州灣に於ける等、其の調査の態樣に就ては幾多の相違あるもトレンス制度の施行及び土地測量等其の施設を講ぜるものは枚擧に遑がないのである、近くは關東州租借地に於ても朝鮮の例を參酌して昨年より土地調査を開始して居る、又支那に於ても數年以來▽之が攻究に腐心し一昨年に至りて中央に經界局を設け各省に於ける調査と相俟て土地調査の急設を企て、居るが何分多大の經費を要し是に對する財政の計畫未だ立たざると、昨年以來の政治騷擾の爲め餘程行惱んで居る樣子である、現に先頃まで經界局長たりし前雲南總督蔡鍔は今將に雲南省に歸り其の獨立を企圖すると謂ふ話である、從つて經界局も閉鎖せられたりと聞いて居る、帝政運動の如き無用の騷の爲め途に土地調査計畫の廢止を見るに至りたるは誠に遺憾の事と思ふ、佛國の土地調査につき同國の或政治家は其の成績を賞して十九世紀に於ける佛國文明の一大記念品なりと謂ひ、又獨逸の如きは是に依り著しく國家經營の基礎を進めて居るに徴するも本事業が如何に重要なるものであるかを知るに足るのである

□所有權の紛糾

朝鮮に於ける土地所有權は第一に國有、民有區分又は公有、私有の區分頗る不明なると、第二地税制度の不備、土地の面積、表示地番の不確定等に依り頗る曖昧なるものとなつた加ふるに舊韓國時代に於て外國人は居留地以外一里以内の土地に付ては土地所有權を認められたるも居留地一里以外の地に於ては全然不動産の所有を承認せられざりしを以て自然朝鮮人の名義に於て土地の賣買を爲したるが如き、又地方大地主中には誅求の弊に堪へず甚しきは土地沒收の厄に遭ふの惧あるに依り、權勢家に請託して自己所有の土地を其の名義に變更するもの所謂土地投託の慣習に依りて一層所有權を不明ならしめた、日本内地に於ては原則として土地の自由賣買は政府の認めざる所である、明治の初年に於てさへ種々の制限及び條件の下に於てのみ認容せられたるが如き有樣であつたが故に假令土地制度頗る不完全なりしに拘らず尚土地所有權の紛糾が比較的少かりしは地租改正當時に於ける狀況に徴し明かである、當時土地收益の調査を爲す傍ら所有權に付き調査を進め居たるが土地所有權の▽紛糾の裁決につき何等の制度を設くることなく只だ關係地主及び村役人に於て協議を遂げ決定せしもの其の大部分を占め、縣吏の裁定を受くるが如きは其例稀なるが如き有樣である然るに朝鮮に於ては土地面積の表示一斗落一日耕と云ふが如き不精確の標準を以てして且つ地方に依り其廣袤を異にするが如き又地番の錯雜極りなき殆んど一定の土地を表示するに困難なる如き土地制度は極めて不完全なりしに拘らず猶ほ土地賣買の自由は認められたる有樣である、然るに賣買の證憑は單に前所有者に至るまでの該地所有權移轉に關する契約書の連續するものに限り他に何等の土地賣買を證する制度がなかつた、從て該契約書即ち文記の僞造、盜賣盛に行はれて朝鮮人相互の間に於てさへ不慮の損害を蒙るもの尠からず、況んや外國人又は内地人の如き▽習慣を熟知せざるものゝ之れが爲めに誤られたる者甚だ多く現今土地所有權爭は多くは此の種のものに係る如き狀態である韓國政府時代に於ても深く此の點に鑑みる所ありしが如く明治二十一年地契衙門を設け全國の土地測量を企圖したることあり、然れども忠淸及び江原の一部に施行せしに止まり遂に頽滅に歸した統監府の設置せらるるや、せめて土地賣買の公認するの制度を設くるの要あるを認め三十九年十月土地建物證明規則の發布を見翌で四十年七月所有權證明規則の公布を見たのである然れども之れ等は單に賣買當事者相互を羈束するに止まり第三者に對する效力頗る薄弱なるが故に到底現今の登記制度と比すべきものではない、而して本規則に依り府郡廳に於て證明を與ふるに當り其の基くところは僅に所轄面長の認證に倚賴するに過ぎざるを以て個々正當の土地賣買契約に就ては有力なる保障たるを失はずと雖も不正なる賣買又は所有權の歸屬▽曖昧なる土地賣買は却て之が爲め其の弊を助長したる嫌なきに非らずと謂ふことが出來る斯くの如く朝鮮に於ける土地所有權は他に其の類を見ざる程紛糾を極めて居る有樣であつて、從て土地の利用殊に金融上に於ては多大の障害と爲るのである、未だ經濟の幼稚にして融通に必要なる有價證券其の他の動産少なき所に於ては金融上の保證は一に繫て不動産就中土地に在りと云ふことを得るのである、然るに前述の如き有樣にては土地に對する投資を躊躇せしめ經濟上享くる不利益も亦尠くない、之を要するに朝鮮の如き土地制度の不完全なる所に於ては土地調査は誠に急務中の急務と謂ふべきである、曩に韓國政府の窮乏せる財政を以てして倘本事業の施行を計畫したのは誠に故あることゝ思ふ、茲に於て乎併合後總督府に於ては啻に此の計畫を認め其の遂行を期したるのみならず更に經費を増額し組織を擴大し地形測量を加へ、以て土地調査の完璧を期せられたる次第である

謹賀新年

船舶、鐵道運送、通關取扱
神戸海上運送火災保險會社代理店
東洋海上保險會社代理店
日清生命保險會社代理店

協同組

本店　仁川海岸町三丁目
支店　京城南大門驛前
支店　平壤大和町
出張所　龍山驛構內
出張所　元山本町四丁目

謹賀新年

品質冠絕　消毒牛乳

搾乳場　鷺梁津　荒井牧場
販賣場　京城若草町　荒井牛乳販賣部

電話一〇〇四番

謹賀新年

營業種目
時計及附屬品
貴婦人用裝身具
寫眞器及材料
各種蓄音器及音譜
樂器オルカン各種
直輸入

京城本町四丁目
織居商店
電話 二六二番 三三六番
振替京城 二三一番

謹賀新年
大正五年一月元日
朝鮮
東洋拓殖株式會社

謹賀新年

米雜穀及諸物品委托販賣
移輸入諸雜貨販賣精米業
不動産管理信託農業開墾

仁川海岸町三丁目
朝鮮煙草株式會社代理店
不二興業株式會社支店
電話長六五二番　振替京城一〇六番

賀正

南滿洲鐵道株式會社
撫順炭

平壤代理店　平壤本町　平松商店　電話一六一番

京城南大門通二丁目　西村商會　電話九二〇番

元山代理店　元山旭町　小泉商店　電話四五一番

特約販賣所　三國商會　京城南大門通一丁目　電話九〇〇番・京城二三〇六　西大門貯炭場　電話一八〇九番

三國商會各代理店

開城大和町　岡本商店
水原驛前　坂手重三郎
同城内　中島政吉
平澤驛前　石川耐藏
鳥致院驛前　朝鮮產業商會
清州　同商會
公州旭町　高瀨卯作
裡里榮町　土車仁作
全州　同商店
江景中町　林龜助
鐵原　小宮山八郎
忠州　日榮商會

京城材木商組合

（いろは順）

京城府岡崎町　石崎材木店　電話二八五五番
京城府古市町　堀内商會　電話二二六一番
京城府明治町　北方支店　電話一九四〇番
京城府旭町一丁目　小森商店　電話七四四番
京城府岡崎町　三幸洋行　電話二二六五番
京城府二村洞　貫田材木部　電話龍山五三七
京城府岡崎町　清水製材所　電話龍山五三番

大正五年一月元日

京城黃金町二丁目　金正材木店　電話二四八番
京城府岡崎町　大二商會　電話二〇九〇番
京城府古市町　熊野商會　電話一八二番
京城府黃金町　丸一材木店　電話一三八番
京城府岡崎町　平井商店　電話二七八番
京城府黃金町三　木材商會　電話四二八番

土木建築請負業

（いろは順）

龍山漢江通　間組出張所　電話四〇番
龍山榮町　堀内組出張所　電話三二五番
同　龜割組　電話一四番
京城旭町二丁目　鹿島組出張所　電話三九六番
京城南大門通五　谷口組　電話九六〇番
龍山漢江通　荒井組　電話一〇二番
京城旭町一丁目　阿川組　電話一二八番
龍山漢江通　有馬組　電話三一七番
京城日の出町　志岐組事務所　電話三〇五番
京城古市町　白川組出張所　電話二四八一

土木建築用工具の研究調査
土木建築器具機械貸借紹介
土木建築技術者及組員紹介
土木工事用資金融通
「工友」毎月發行組合及配下
營業行表彰、圖書、新聞、雜誌、縱覽、及び玉突遊戲

工友倶樂部　京城長谷川町八十四番地　（電話二四六七番）

龍山漢江通　久米組出張所　電話六三四番
同　松本組支店　電話一五二番
同　松尾營業所　電話四五六番
京城吉野町　前田組　電話一五九番
龍山榮町　小林組　電話一二番
龍山漢江通　菱川組出張所　電話三三六番
京城花園町　盛陽社　電話一七六七
京城旭町二丁目　菅原工務所　電話一六八九

樂山鑛業所

黃海道長淵郡

小林藤右衛門　小林良藏　大原正藏　櫻井秀專　森重正治郎
本鄉忠季　川上常一郎　大池孫七　高杉六太郎　田代林三丸　古城祐良

小林鑛業本部　京城明治町一丁目　電話六五五番

廣瀨國太郎　森潔次　山邊和五郎　小川誠訪　北川秀雄　金根培
緒方源藏　小田剛　山邊清司　寄川平八郎　阿部健治　松田利重

京城日報 新年號 第三

人類學上より觀たる朝鮮

東京帝國大學理科大學講師　鳥居龍藏

私は現代の朝鮮人に就いて人類學の研究を試みる可く昨年八月下旬から十二月までの間朝鮮の中央部なる忠淸南北道及び江原道の踏査を試み各地方に於ける古くからの土著民に就き其の身體の測定を始め、原始的風俗習慣の調査其の他各所に於ける諸種の遺物遺跡の硏究を試みたのである、それで玆には右三道に於ける以上の調査に就いて概略お話して見ようと思ふ

朝鮮人の體質

私の朝鮮各地に於て行つた身體の測定は主として二十歲以上三十歲以下の男女に就て試みたのであつたが、然もなるべく古くから其の土地に土著せる人々に就き調査を施したのである、今其の測定及び觀察の結果による結論に就いては未だ精密なる計算などの調べが整はぬから玆に斷言することが能きぬけれ共大體に於て私の見る處では今日の忠淸南道地方及び忠淸北道の一部即ち錦江の中流乃至下流地方に於ては私の謂ゆる南方X型が多少混在して居ると思ふ、然るに忠淸北道の東部から江原道に入ると此のX型がだんだん消えかかつて來て愈よ此の地方の山中に入ると全く其のあとを認められなくなる、而して其の代りにはだんだん北方的型が現れて來て其の著しい特徵は眼の形勢によつて能く認められるのである、即ち忠淸北道の一部及び江原道では北方的型にある謂ゆる蒙古眼（モンゴロイド、アウゲン）が認められる他に、其の他の體質に就いても

□北方的の面影■
■が歷々と現れ□

て來るのは特に注意すべきである、彼の江原道の如きはこれを政治上から言へば一つの江原道なる一區劃であるけれ共これを人類學上並びに民族上から觀察すれば決して一樣の土地と觀ることは能きない、例へば慶尙北道に接したる江原道の如きは其の住民の體質に於ても面影に於ても著しく南方的型が認められるが、翻つてこれを咸鏡道に接したる北東方面に觀れば著しく咸鏡、黃海、平安道方面の面影が認められるので等しく江原道と言ふも其の住民には各所に於て差異あるやうに思はれる、又朝鮮の中央を橫斷せる漢江の流域を中心として觀察するにX民族の型は漢江の南方までは認められるが其れより北進するに至つて消滅し漢江以北は專ら北方型の民族となる、これ等は朝鮮に於ける異つた民族の頒布混合の上より觀察して頗る面白き問題であると思ふ、玆に注意すべきは高麗朝時代から

□李朝の初期に■
■作られた佛像□

の容貌であるが私の觀る處では各地に於ける佛像は皆其の地方の住民の顏形を表現して居るやうな事實が多いやうに認める、例へば彼の江原道伊川郡に於て私が見た所の佛像の如きは其の眼形を特に蒙古眼に彫刻し眼の先端に蒙古眼特有の切りこみある線を現はして居るのは他に見られぬ現象であつて此等のことから仔細に觀察すると佛像が各其の土地の土著民の相貌を備へて居るのがよく分るのである、私は又朝鮮に於て內地の

□穢多と同樣視■
■せらるゝ白丁□

に就ても色々な調査を試みたのであるが殊に忠淸南道の白丁は日本內地の穢多と體質が聊か似通つては居らぬかと思ふ點を認めたのである、私は日本內地の穢多に就ても少々調べて見た處もあるが昔の百濟を通じて此の日鮮間の白丁と穢多を比較して見る事は頗る興味ある問題であらう、又過回踏査した忠淸南道の鮮人は一般に餘程內地人と似通つた容貌を有つてゐて、例へば個人としてもわれわれの友人の內の一人に似てゐると言ひ得る如き人が尠なくないのである、是等はむかしの百濟或は其の南にあつた任那など、日本內地との關係上歷史家と共に硏究すべき價値ある問題ならんと思ふ。斯くの如く等しく鮮人と雖もこれを仔細に觀察する時は其の身體の上に決して一樣で無い處が解る、即ち或る者は其の何處かに異つた中心があつて其れが他の異つた中心と混合つて居るとも見らるれば又異つた中心がそのまゝ型として保存され居る處もある、故に私は是等の事項を記して其頭の形態や身長等を始め身體の各部分を調査した處の表を拵へて

□其の分布圖を■
■作つて見よう□

と思ふ、左右すれば其の表によつて何處には懸壓型が多いとか何處には懸壓型が尠ないとか云ふ事が解り或は又甲と乙との型が雜種になつてゐるなど色々な現象が現れて人類學上餘程面白い參考にならうと思ふ。然る上はこれを以て更に西比利亞、滿洲に於ける大陸民族と對照して比較し或は漢民族に於ける鮮人の位置を確めて人類學上に於ける鮮人の位置が確めらるゝ事と思ふ、併し私の爰に述べたる南方鮮人のX型と北方鮮人の北方型とは大體に於て鮮人の體質を二大別するものと斷言し得るべきかとも思ふが、此の事實は特に南方全羅南道の多島海方面に現れたるものにより多少或る意昧の暗示を示せるものゝやうである。猶ほこれ等の事實の上から考へて見ると朝鮮に古來から存在せる神話、傳說、俚諺の如きはこれを區別し分析して研究する必要があると思ふ

南滿洲鐵嶺より發掘されたる蒙古式石鏃

現今の朝鮮語

又只今の朝鮮語なるものも今日では皆一つの言葉であるやうに思はれて居る、而して其の差は纔かに方言の異ひ位ゐに思はれて居るけれ共猶ほ精しく調べたならば其處に方言以上の相違が存在するかも知れないのである、此の事に就ては私の先輩宮崎法學博士の如きも『朝鮮語を調べて見ると其の中に一種異つたものがある』と言つて居られる、この意見に就ては大分世間に反駁する人も有つたやうだが、私は豫て朝鮮に於けるX型のことを世界雜誌に發表して以來、博士もこれを讀んで大に自分の考へと酷似して居ると言はれたのを聞いて居るから、私は博士のこの說を信じ且つ自分の發見に對しても又意を强うして居る次第である。猶ほ又朝鮮語が日本語と同一系統のものなることは曾て金澤博士も唱へられたのであるが、近頃は又蒙古語にも近いと云ふ人もある、現に白鳥博士の如きも其の一人であつて、曾て東洋學會雜誌上に於て『朝鮮語はウラル、アルタイ語族であつて人種としては北方系のものである』と云ふて居られる、即ち言語から見ると

□朝鮮人は北方■
■から南下した□

ものであると主張されて居るのである、又金澤博士も『朝鮮語は滿洲語と比較せなければならぬ』とて其の兩者間の類似點を擧げて居られる、されば是から朝鮮人なるものを研究するには、單に言語の上より云ふも更に西比利亞、蒙古、滿洲等の民族とも比較研究を要すべき運命となつたのである、私の如きも嘗て金澤博士が朝鮮語と日本語との類似を發表されざる以前に於て此の意見を讀賣新聞紙上に發表した事があつた、即ち『朝鮮語は日本語にも似て居るが猶ほ滿洲語蒙古語にも似て居る』といふ意見を金澤博士に薦めて置いたのである、是に由つて之を觀れば獨り朝鮮語のみならず我々の日本語なるものも北方の滿洲蒙古語と比較する必要が益々多からうと思ふのである

原始時代の風俗慣習

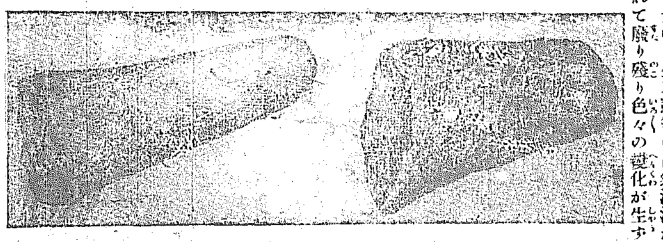
次には過回の踏査に於て各地で見聞した「民族學上より見たる風俗習慣」のことをお話したいと思ふ、元來私は自分の學問上の立場から、住民の風俗習慣に對しては最も注意を拂つて觀察するのであるが、就中其の原始的な民族的なものに對して特に仔細なる觀察を試みたいと思ふ、例へば彼の朝鮮の（巫子）ムーダンとか或は朝鮮人の信仰する宗教心、注連縄、聯東祭の如きものに就ては之を觀察研究すると共に能ふ丈け其の標本を蒐集したのである、又私の玆に云ふ習慣とは朝鮮に佛教も儒教も道教も入らない以前の風習であつて、且つ漢民族文化の影響をも取り除けた處の風習を言ふのである、されば此の習慣なるものは、實に其の民族の古き歷史を物語るものであつて我々にとつては其民族の體質、言語等と共に大切なる資料となるものである

□喩へば彼の巫■
■子の祈禱の如□

きは今日一般に迷信として退けらるけれ共これを我々の立場から觀ると實に北方民族を通じて行はれる處のシャアマン教の[illegible]であつて、彼のツングース人、蒙古人、土耳古人の間に行はれるシャアマンと少しも異はぬものである、且つ又朝鮮の巫子は以上の民族のシャアマンより一段進步せるものに過ぎないのである、猶ほ又朝鮮の田舍の村の入口に樹てられたるチョルテーの如きはこれも古き面影を遺す一つであつて、彼の一本の棒の上に彫刻した鴨を三羽附けて居るのは古來惡魔除けの爲めにしたもので又是を樹てる時の儀式も今に遺つて居る、チョルテーは又支那の後漢の時代にも塗飾と稱して居たが現に今日黒龍江畔のツングース族の或者もこれを行つて居る、斯く色々の古い風俗を研究して見れば現今の朝鮮人なる者が何處から來たかといふ事或は又來た所の風俗が解るのである、又民族の風俗習慣なるものは大正五年一月に於ける風俗習慣と雖も決して今月今日に出來たものでは無い、これを民族學上から云へば大古其の

□住民が其の地■
■に移住した時□

から漸次千年五百年三百年と遺り來つたものであつて、是を我々は遺風と（サアバイバル）と稱して居るが、これにも矢張り生存競爭の自然淘汰が行はれて廢り殘り色々の變化が生ずるのである、其の中古いのがそのまゝ遺つたものを捕へて我々は其の民族の系圖調べを行ふのである、過回私の踏査した江原道の山中には此の方面の材料は極めて豐富であつて、殊にあの邊一帶は山に樹木が多い關係上、家の屋根は何れも木の裏板或は草葺のものが多く、屋根には又日本內地の神社にある如き千木を置いて居たのも面白い事と思つた、殊に家の壁には奈良の正倉院や春日の校倉式丸木を組み、其の中に溫突を有つて居るのは興味深き事である、而して此の風は樹木乏しき低い土地には無いことを思ふと、むかし朝鮮には樹木が多くて住民は皆この風にやつて居たかも知れぬと思ふ、又此の校倉式の家屋が樹の間に散在する江原道地方の風光は、宛然彼の樺太や黒龍江地方に居るツングース、ギリヤーク族の家其まゝであつて、殊に是等の家の前に神樣に供へる鴨の彫刻ある棒があれば黒龍江畔の風俗其のまゝである（文責在記者）



東蒙古及び南滿洲に於て發掘せし土器の把手

伯爵李完用氏試筆

願持柏
葉壽長
奉萬年
歡　完用

大正五年元吉

謹賀新年
諸官署拂下品御用
石版用ウエス
並ウエス製紙原料
古帳反古、古道具類
下森商店
京城林町四十二番地
電話二一九九番

賀正
日本公債株式會社
社長男爵　肝付兼行
專務取締役　吉岡又三郎
朝鮮支部長　西岡恒二郎
支部　京城黃金町三丁目　電話長一六〇二番

謹賀新年
京城本町二丁目
關商店
電話四七六番

謹賀新年
建築請負
和洋家具
指物業
京城明治町一丁目
竹內茂樹

謹賀新年
京城本町二丁目
山本旅館
電話一二九一番

謹賀新年
京城本町二丁目
㊀
丸一吳服店

兄ちゃんと大將　前川千帆筆

少年犯罪者の救治

私立感化院の設立を翹望す

司法部長官　國分三亥氏談

犯罪防遏事業は由來政治上の第一要義であつて、如何にして之れを防遏するかを司法上將た行政上より研究するのが所謂刑事政策で近時學者及び實際家は專ら之れに頭を惱ましてゐる次第である、處で之が防遏の實を擧ぐるには再犯を豫防するに越した捷徑は無いのであるから刑事政策なるものは主として如何にして再犯を豫防するかといふことに歸着する然るに之れを統計に徴するに再犯の豫防といふことは實際上非常な難事業であつて却々理想的の效果を擧げる事が出來ぬ狀態にある、されど如何にしても吾人は此恐る可き現狀に安んずることは出來ないのであるから何とか方法を講じて之れを豫防しなくてはならぬ、而して其犯罪豫防の途に就いては差し當り少年の犯罪者を減少し既に犯罪者あれば之をして習慣犯罪者たらしめざるに努むるより善きはない、其處で

■刑事政策上から見

るときは少年の犯罪は青年の犯罪に比し一層重要の意氣を持つてゐる譯である、試みに其理由を一言するならば第一には習慣は第二の天性を爲すといふ語があるが殊に少年時代に於ては最も此傾向が甚しいものであるから若し少年が罪を犯した際には速に治療を加へて之れを初期に根絶しなければ一生不治の痼疾に陷る虞を免れぬ、犯罪者中には習慣犯と偶發犯との截然たる區別があるが習慣犯者と雖も或る特種のものを除くの外は初より習慣犯者として存在するものではなく偶發が數次繰り返されて遂に拔く可からざる習慣犯となるものである、而して此偶發犯は少年時代に於て習慣犯となるものの十中の八九であるから少年時代に習慣犯者たらしめぬ樣其萌芽を摘み除るといふことは最も緊要の事業になつて來るのである、又た第二には少年時代は頗る模倣性に富みて他の感化を蒙り易く、殊に

■同輩の暗示を受け

る事が烈しいものであるから、少年間の傳播力は極めて旺盛で一人の惡少年が現はれると忽ち多數の同類が出來てくる事になる、近來各所に不良少年が頻出して黨を組み派を樹て盛に惡事を働く樣であるが之れも畢竟一不良少年の恐る可き傳播力が他の少年を感化したに外ならぬこと、思考する、故に一人の惡少年が現はれた時には直ちに之れを隔離して他に惡感化を及ぼさせぬ樣にするが極めて大切な事業であるといはねばならぬ、第三には犯罪は概して不良な境遇の產物であつて四圍の境遇犯罪を押し出し造り上げるものであるから之れを防遏するには其境遇を變易するより善きはないのであるが青年以上になると其者は既に社會的地位が極まつて仕舞ふから境遇の變更といふことは至難であるけれども少年は之れを變更することが容易でありて

■適當の方法を講ず

るに於ては新生活に入らしめることが出來ぬことは無い、即ち少年は青年に比し犯罪的境遇を脫せしむることが容易である。さらば如何にして此少年犯罪者を矯正す可きかといふ事が問題であるが刑法では十四歳未滿の者は之れを罰せぬことになつてゐる爲め十四歳未滿の犯罪者は感化事業に依つて之れを感化教養するの外はない感化事業の目的は少年の犯罪者又は不良の少年を教育制度の下に感化教養して善良なる國民となすに在るのである、而して十四歳以上の少年犯罪者は刑法上之を罰し得るとはいへ、今日の監獄制度は未だ其の設備が充分でないから止むを得ざる者の外は之れを獄に下さないで教養感化の途を講ずることが適當であらうと思考する、歐米に於ては夙に少年裁判所があつて普通の訴訟手續に依ることなく主觀的に將た

■客觀的情狀を參酌

し之れに對して適當の處置を執つてゐる、內地に在つても亦此特種裁判の必要を認め法案の調査中であると聞いて居るが未だ提案の運には達してゐない趣きである、兎に角十四歳以上の者に對しては之れを感化院に送る可きものは送つて教養感化するの外はないのであるが、感化院の制度は內地に於ても近時大に發達し其成績亦頗る良好であつて收容者の七十乃至八十パーセント迄は充分感化の實績を擧げ獨立自營の民になつてゐるといふ狀態である。

我朝鮮に於ても少年の犯罪者多く不良の少年も亦鮮からぬが故に感化院設置の必要は焦眉の問題であると思ふが未だ諸制度の完備を鑑し得ぬ朝鮮今日の狀態では其設置を見る可き機運には到達して居ない樣である、然し予輩は此際篤志家が現はれて假令小規模なりとも感化院を設け其事業を經營するに至る日の一日も速ならむことを切望して止まぬのである

■蚊に刺されぬ呪　羽子板の起源は室町時代で當時は羽子を胡鬼板と云ひ遊戯に用ひたるものではない一說に小供が蚊に刺されぬ呪に胡鬼をついて蜻蛉の舞ふ樣子を示して蚊を威嚇する目的に出たものであると言ふ降つて德川時代には上下一般的に行はれ羽子板には五節句を畫に左義長を畫に書き又立波に鶺鴒さては松竹を畫いたものが流行り元祿文化の頃から三番叟、七福神、美人繪寶船其の他俳優の似顏等を描繪として板に貼り附けた、現時のものは錦繪が貼つたのもあるが普通は歷史上の人物專ら俳優の似顏等である

賀正　京城岡崎町　島屋本店　電話二三三〇番　京城北米倉町　島屋販賣部　電話九〇三番

賀正　京城本町一丁目　江戶川　電話一四六番

賀正　京城南大門通四丁目　救世藥舘　電話二五八三番

賀正　京城南大門通三丁目　川勝京城支店　電話一〇三一番

賀正　京城本町二丁目　岩見伊勢松商店　電話二一三番

賀正　京城長谷川町　帝國公債株式會社朝鮮支部　電話二五三四番

謹賀新年

雄基門司乙線　清津、獨津、漁大津、明川、城津、端川、遮湖、新昌、新浦、前津、西湖津、元山、長箭、杆城、襄陽、江陵、三陟、竹邊、丑山浦、浦項、蔚山、釜山ニ寄港　月三回
雄基門司甲線　元山、釜山、西湖津、前津、新浦、新昌、遮湖、端川、城津、明川、漁大津、獨津、淸津ニ寄港　月三回以上
元山浦鹽線　長崎又ハ門司、釜山、城津、淸津ニ寄港　月三回
元山雄基線　西湖津、前津、新浦、新昌、遮湖、端川、城津、明川、大良化、漁大津、獨津、淸津、梨津ニ寄港　月九回
元山永興線　北久味ニ寄港　毎日一回
釜山鬱陵島線　甘浦、九龍浦、浦項、盈德、寧海、竹邊ニ寄港　月四回
釜山浦項線　長生浦、方魚津、甘浦、九龍浦ニ寄港　毎日一回
釜山麗水線　行巖、舊馬山、新馬山、統營、三千浦、船津、長橋、露梁津ニ寄港　毎日釜山出帆三日目一回木浦ニ延長
釜山濟州島線　長承浦、麗水、巨文島、城山浦、朝天、山地、翰林、摹瑟浦、西歸浦、表善里、彌助島ニ寄港　月四回以上

釜山佐藤町　釜山支店
木浦榮町　木浦代理店

元山海岸通　元山出張所
仁川海岸通　仁川代理店

木浦麗水線　右水營、莞島、長興、興陽、羅老島ニ寄港　三日目每ニ木浦出帆
木浦濟州島東廻線　所安山、山地、朝天、金寧、城山浦、表善里、西歸浦、摹瑟浦、狹才里、楸子島、烏島ニ寄港　月各四回以上
木浦濟州島西廻線
木浦多島海線　宾佐島、牛耳島、大黑山島、梅加島、苔島、黑山島ニ寄港　月三回以上
木浦若松線　門司、釜山、群山、大黑山島ニ寄港　月二回以上
仁川木浦線　カロリン灣、安興、鰲川、群山、茁浦、法聖浦、安眠島、智島ニ寄港　月六回　內三回荏子島、鞍馬島、蝟島、古群山島、於靑島ニ寄港
仁川海州線　江華島、喬桐島ニ寄港　毎日一回
仁川鎭南浦線　海州、龍湖島、鉈津、潮浦、九味浦、德洞、夢金浦ニ寄港　月四回以上
仁川栄芝線　靑島、大連ニ寄港　月三回以上

京城南大門通一丁目
朝鮮郵船株式會社

初旅　石田富造筆

財界の回顧と豫想

――漸進的好況を慶す――

朝鮮銀行理事　三島太郎氏談

一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり。大正四年を送りて茲に芽出度き五年の新春を迎ふるに當りて昨年の財界を回顧し、更に本年の財界を豫想し、年初に於て計畫を定むること必しも無用の業たらざるべし

□戰亂當初の打擊

顧れば一昨年八月歐洲の大陸に未曾有の戰亂突發し、我國も亦日英條約の趣旨に從ひ、獨逸に對して宣戰し、東洋の一角に戰塵張るに及んで我朝鮮も亦戰亂の餘波を避くる能はず。即ち外國爲替の停止交通の危險保險料の騰貴等に基く一般的影響を蒙るの外北鮮地方に於ては黑鉛の輸出杜絕し支那向海產物は不振を極め、南鮮に於ては棉花は其相場を暴落するあり、又輸移入綿糸布の下落甚しき等、財界の平調を破らるゝこと頻々相繼ぎたり、折柄我米穀の相場は前年來低落の氣運を改めず、更に一段の暴落を告げたるを以て前記戰亂の影響と相俟て一般市況の沈衰を來し、輸移入品の如き其賣行益々不況となり當業者の打擊を蒙れること尠なからず。從て金融一般に硬塞を告げ情況大に悲觀すべきものありたり

□貿易の好調

斯る狀態より繼續せる昨年の朝鮮經濟界は、其始めに於て朝野共に其前途を憂慮せし處なりしが、幸にして歐洲戰爭も日を經るに從ひ軍需品の注文等に基き却て我に對し好影響を生じたるは寧ろ意外とするところなり。而して米價も迎年以來恢復の氣運に向ひ、從て其輸移出高は未曾有の盛況を呈したるを以て、一方輸移入貿易の不況と相俟て多年逆調に苦しみたる朝鮮の貿易は昨年に於て頓に其形勢を一變したり。即ち之を貿易表に就て見るに、昨年一月以降十一月に至る商品の入超は千二百二十八萬圓にして、同期間に於ける地金銀の出超八百九十五萬圓ありしを以て、結局純入超は僅かに三百三十三萬圓にして、之れを一昨年同期間の千八百七十四萬圓に比するときは僅に其一分七厘七毛に過ぎず、如斯貿易の形勢に變化を生じたる結果は朝鮮內地間に於ける資金移動の狀態に一大變調を現はし、朝鮮金融界は爲に千百十七萬餘圓の資金流入超過を見るに至れり。右は主として貿易の關係に依るものならんも、亦內地資本家が朝鮮の事業に著目し之に投資せらるゝ爲め資金の流入したるもの尠からざるべし。

□發行高新記錄

右資金移動の狀況は朝鮮銀行券の發行高に影響したること著しきものあり。即ち昨年に於ける朝鮮銀行券消長の跡を見るに、從來資金の需要最も閑散なる夏季に於ても、例年の如く發行高の減少を示さず、依然として年初以來の額なる二千二三百萬圓臺を維持し、八九月の交に至り米穀棉花大豆等特產物に對する資金の需要起るに及んで、頓に其額を增加し十一月十五日には二千八百七十四萬三千圓となりて遂に從來の『レコード』（大正元年四月一日の二千八百六十萬九千圓）を破り、十一月二十日に至て三千萬圓臺に達し十一月末日に於て三千百六十二萬二千圓の額に上り、本行創業以來の新記錄を作れり

□市況恢復の徵

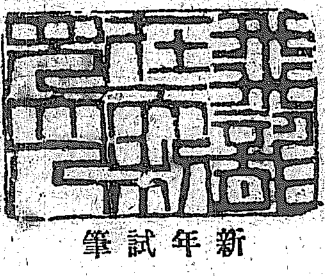
以上各種の事實より之を見るときは昨年の朝鮮經濟界は甚だ好經過なりしと云はざるべからず。內地に於ける狀況も亦朝鮮に於けると同じかりしかば、其反影は株式界に現はれ、諸株式相場は昨秋以來漸騰の趨勢を示し十一月より十二月に亙りて殆んど熱狂的の相場を出現したるは景氣恢復の一徵候を認むることを得べし。朝鮮に在ては遂に如斯熱狂なる現象の發生を見ざりしも、現に各種輸移入品の賣れ行は徐々として好況を呈し、之を一昨年に比するときは殆んど面目を一新したるの觀あるは、聊か市況恢復に向ひつゝあることを證明するものなり、然るに市上往々にして不景氣の聲を耳にする所以のものは、前記の如く貿易關係に依り又は事業關係に依り、朝鮮に流入したる資金の尙未だ充分消費者の手に普及せざると、一方には地方農民に取りての最大負擔なる地稅の納期を差控へたる等の理由に基き、未だ充分其購買力を發揮せしむるに至らざるが爲なりと推定せざるべからず

□好況を豫想す

本年の市況如何を考ふるに、米穀棉花等の朝鮮重要輸移出品は幸にして相當の高値を示し居れるを以て地方農民の購買力は相當增加すべく、又昨年來膨脹したる銀行券も漸次事業の活動に伴ふて消費者の手許に行き渡りて購買力の增進を促すべきを以て、四年度第三期地稅の納期たる二月を經過するときは、各商品の賣れ行きは漸次好況を見、景氣頓に恢復を呈すべきか、尤も先年政府事業の勸興恩賜公債の賣却等に基き輸移入品の市況を活躍せしめたりしが如き、斯る急激なる發展を夢ることは素より望むべからざるも、少くとも漸進的にして健實なる市況の發現を豫想することを得べし。

■鍼治の一盛一衰

鍼治の元祖は支那後漢の倍翁又扁鵲なりとも云ふ。我が國に傳つた時代は明かでないが大寶令に鍼博士又鍼生さ云ふものがあつて和氣氏丹波氏これを傳習せりとある。其れより一盛一衰德川時代に至り再び盛んになり當時の名醫と稱するもので之れを心得ぬものは殆ど無い位であつた、又鍼を以て一家をなし鍼醫と云うたものも少くなかつた。併し按摩灸治な共に職めた者も多く彼の有名な吉田流杉山流の如きはそれである、有名な人では德川の始め長崎で澤田靈碧が支那人から打鍼の術を授かり京都には藤本伊勢守が打鍼をよくし、城端出となり德川秀忠時代には杉山和一が管鍼を發明し關東の總檢校となつた即ち杉山流の開祖である其の他吉田林菴は吉田流を大坂寬海は寬海流を創めた。今日では西洋醫學の流行に壓せられて大に衰ふる所となつた


新年試筆
勿禁　佐山梁山

謹賀新年
江景 湖南病院
院長 福原澤次
副院長 鄭潤海
內科部主任 伊藤登
助産婦 桑木馨

謹賀新年
忠淸南道江景
江景信託株式會社

謹賀新年
全羅北道沃溝郡瑞穗面
森谷農場
場主 森谷元一

謹賀新年
朝鮮全北沃溝郡開井面下長里
嶋谷農場
場主 嶋谷八十八

謹賀新年
全北裡里
大橋農場

謹賀新年
湖南線江景
荒卷農場
源
同 醫部
電話一二三番

謹賀新年
江景大和町
三南殖產株式會社
電話二七番

謹賀新年
全羅北道黃登
臨益水利組合
職員一同

謹賀新年
全羅北道益山郡北一面
片桐農場
場主 片桐和三
場員 加藤孟
草分己之七
小川仁作

謹賀新年
全羅北道沃溝郡米面
宮崎農場
場主 宮崎佳太郎

謹賀新年
京城本町裏通り
京城魚市場
電話一四七八番

謹賀新年
京城永樂町
淸華亭
電話二五番

謹賀新年
京城本町二丁目
千代本
電話一一三五番 二七七九番

謹賀新年
御料理 抹茶
新年宴會は特に勉強仕候

京城旭町一丁目 白水

賀正

電燈營業規程

第一條 京城支店供給區域內ニ於ケル電燈營業ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ
但特別ノ契約ニ依ルモノハ此限ニ在ラス

第二條 電燈架設ノ申込アリタル時ハ申込契約書ヲ受領シ屋外線引込工費及取附工費ノ支拂ヲ受ケタル後架設スルモノトス

第三條 屋內外設備ニ要スル器具材料ハ特設ニ屬スルモノ、外會社之ヲ負擔シ每月一定ノ損料ヲ申受ク

第四條 電球ハ會社ヨリ取附ケ取替ノ場合ハ所定ノ代價ヲ申受クルモノトス但纖條ノ自然切斷ハ供給後炭素纖電球ハ三十日以內金屬纖電球ハ十五日以內ノモノニ限リ無價引替トス

第五條 コード線ハ一燈ニ付三尺迄ヲ會社ノ負擔トシ三尺ヲ超過スル時其他特設材料ヲ要スル物ハ別ニ其費用ヲ申受ク但線長ハ十尺ヲ限トス

第六條 需用者ノ過失ニ因リ器具材料ニ破損ヲ生シタルトキハ之カ修理費用ハ總テ需用者ノ負擔トス

第七條 點燈ノ種類ヲ定額燈從量燈及臨時燈ノ三種トシ架設申込ノ際之ヲ確定ス

第八條 定額ハ日沒ヨリ日出迄點火シ當會社所定ノ電球種別燭光別ニ依リ一箇月ノ料金ヲ定ム

第九條 從量燈ハ十燈用計量器以上ノモノヲ使用ノ場合ニ限リ需用ニ應ス其點燈料ハ電力壹千『ワット』時ニ對シ之ヲ定ム

第十條 計量器ハ會社ヨリ備附ケ所定ノ損料ヲ申受ク計量器ニ故障ヲ生ジタル時ハ前月分又ハ前年度同一期間ノ料金ヲ參照シ會社ニ於テ決定ス

第十一條 從量燈ニハ最低料金ヲ定メ一箇月ノ消費電力ノ料金ガ右金額ニ達セザル時之ヲ申受ク

第十二條 同一ノ需用者同一屋內ニ於テ定額燈及從量燈ヲ併用スルコトヲ得ズ

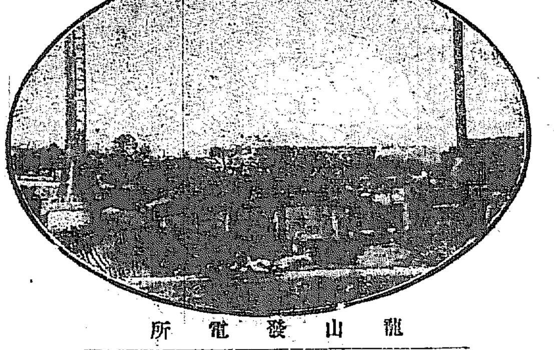
第十三條 臨時燈ノ點燈料ハ一夜一燭光ニ對シ之ヲ定メ設備損料ヲ申受ケズ

第十四條 燭力ノ變更休燈及名義變更ニハ所定ノ手數料ヲ申受ク但定額燈變更ノ月ハ大ナル燭光ノ料金ヲ申受ク

第十五條 電燈ノ增設電燈又ハ計量器ノ位置變更廢燈若クハ一時取除ノ場合ニハ所定ノ工費ヲ申受ク

第十六條 廢燈休燈復燈及名義變更ハ三日前ニ申込ムモノトス

第十七條 廢燈休燈及復燈ノ場合ニ於ル點燈料ハ半箇月計算トシ新設及增設ノ場合ハ日割計算トス但新設及廢燈ノ場合ニ於ル設備及計量器ノ損料ハ半箇月計算トス



龍山發電所

第十八條 一箇月ノ料金支拂額ガ金百圓以上ナルトキハ所定ノ割引ヲ爲ス但翌月中ニ支拂ヲ爲サザルモノニ對シテハ此限ニ在ラズ

第十九條 料金ヲ支拂ハザル者ニ對シテハ豫メ通告シ點火ヲ中止スルコトアルベシ

第二十條 當會社ハ營業ニ關スル諸料金ヲ制定シ本規程ト共ニ之ヲ公示ス

電燈諸料金表

一、屋外線引込工費
普通ハ會社ノ負擔トシ多額ノ費用ヲ要スルモノニ限リ需用家ヨリ實費ヲ申受ク

一、新設及增設取附工費 一燈ニ付 金一圓
但特殊ノ設備ヲ要スル場合ニハ別ニ協定ス

一、廢燈及一時取除工費 一燈ニ付 金五十錢

一、屋內燈、軒燈、街燈位置變更工費 一燈ニ付 金五十錢

一、屋外移轉工費 一燈ニ付 金一圓二十錢

一、弧光燈ノ架設工費ハ隨時協定ス

一、設備損料 一燈ニ付一箇月 金十錢

一、但弧光燈ハ一箇月一燈ニ付金一圓トシ休燈ノ場合ハ金五十錢トス

一、定額燈料金

燭力	金屬纖一箇月料金 室內	金屬纖一箇月料金 軒燈、街燈	炭素纖一箇月料金 室內	炭素纖一箇月料金 軒燈、街燈
五燭光			金七十五錢	金六十五錢
六燭光	金六十錢	金五十錢		
八燭光			金一圓五錢	
十燭光	金九十五錢	金七十五錢	金一圓廿錢	
十六燭光	金一圓二十五錢	金一圓五錢	金一圓卒錢	
二十五燭光	金一圓六十五錢	金一圓四十錢		
三十二燭光	金二圓	金一圓七十錢	金三圓	
五十燭光	金二圓八十錢	金二圓四十錢	金四圓廿錢	
百燭光	金五圓	金四圓五十錢		

弧光燈及四百燭光以上ノ料金ハ隨時協定ス

一、從量燈料金
電力一千『ワット』時ニ付 金二十五錢

一、從量燈最低料金及計量器損料

計量器ノ種類	一箇月最低料金	一箇月損料
十燈用	金四圓	金五十錢
二十燈用	金六圓五十錢	金八十錢
三十燈用	金九圓	金一圓
五十燈用	金十四圓	金一圓五十錢
百燈用	金二十六圓	金三圓
百五十燈用	金三十八圓	金四圓五十錢
二百燈用	金五十圓	金六圓

一、臨時燈料金

點火期間	一夜一燭光料金
十日以內	金一錢二厘
二十日以內	金一錢
三十日以內	金九厘

弧光燈及四百燭光以上ノ料金ハ隨時協定ス

一、休燈及燭力變更手數料 一燈ニ付 金十錢

一、名義變更手數料 一家屋ニ付 金十錢

一、計量器位置變更工費 一箇ニ付 金二圓

一、割引

一箇月料金支拂高	割引步合
金一百圓以上	五分
金二百圓以上	一割

一、電球及セード代

種別	金屬纖電球一箇代	炭素纖電球一箇代
五燭光		金三十錢
六燭光	金四十五錢	
八燭光		金三十錢
十燭光	金五十錢	金三十錢
十六燭光	金五十錢	金三十錢
二十五燭光	金五十錢	
三十二燭光	金六十錢	金四十五錢
五十燭光	金八十錢	金六十錢
百燭光	金二圓	

普通セード 一枚ニ付 金二十錢

一、本表ニ記載ナキモノハ特別ノ契約ニ依ル

瓦斯營業規程

第一條 瓦斯供給營業ハ特別ノ契約ニ依ル場合ノ外ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條 引用申込アリタル時ハ直ニ係員ヲ派遣シ實地ヲ調査シ契約書及工費ヲ申受ケタル後取附ニ從事ス

第三條 屋外管ノ工費ハ本管又ハ枝管ヲ埋設セル道路ノ他界ヨリ六間迄ハ無料トシ其以外ハ十呎(單位)ニ付金貳圓ヲ申受ク
屋內管ノ工費ハ每一孔口ニ付金壹圓ヲ申受ク
但工事着手後取消又ハ孔口數減少ノ申込アルモ工費ヲ返戾セズ

第四條 器具ハ並ペンダント並ブラッケット及並カランヲ除クノ外總テ現金賣トス
但器具ノ種類ニ依リ月賦賣若クハ損料貸ヲナスコトアルベシ

第五條 瓦斯代金ハ千立方呎ニ付金貳圓六拾錢ノ割合トス
但引用廢止ノ場合ニ於テハ百立方呎未滿ハ百立方呎ニ計上ス

第六條 計量器ハ會社ヨリ備附ク其損料左ノ如シ

種類	一箇月料金
二燈用	金拾五錢
三燈用	金貳拾五錢
五燈用	金參拾錢
十燈用	金五拾錢
十五燈用	金七拾五錢
二十燈用	金壹圓
三十燈用	金壹圓貳拾五錢
五十燈用	金壹圓五十錢
六十燈用	金貳圓
八十燈用	金參圓
百燈用	金四圓

但十五日以後ニ於テ備附ケタル時ハ半額トス

第七條 計量器ニ故障ヲ生シ消費高不明ナル時ハ前年度同期又ハ前月ニ於ケル消費高ヲ參酌シ會社之ヲ決定ス

第八條 孔口ノ位置變更ハ一箇ニ付金八拾錢ヲ申受ク
但瓦斯管ノ延長ヲ要スル場合ハ更ニ其實費ヲ申受ク
瓦斯管及計量器ノ位置變更ハ各金貳圓ヲ申受ク
但多大ノ工費ヲ要スル時ハ其實費ヲ申受ク

第九條 引用休止及復舊ノ場合ニハ左ノ通リ申受ク
ペンダントノ取外又ハ取附 一箇ニ付 金二拾五錢
計量器ノ取外又ハ取附 同 金五拾錢
瓦斯管ヲ撤去スル場合ニハ實費ヲ申受ク

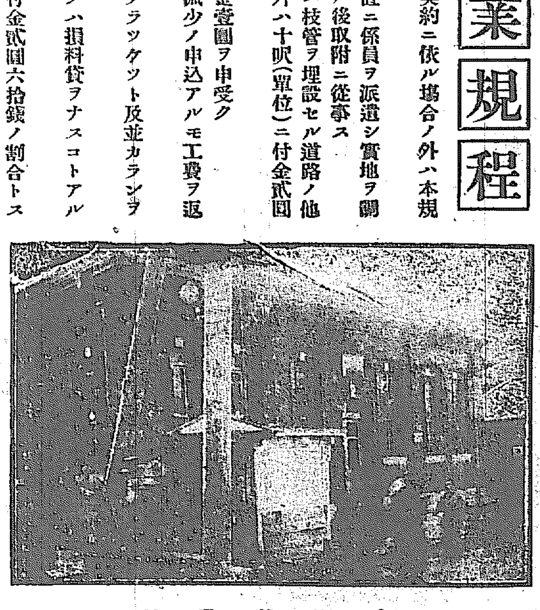
第十條 街燈、軒燈及臨時燈ノ瓦斯代金及工費ハ其都度別ニ協定ス

第十一條 瓦斯機關ノ貸附又ハ賣却ハ其都度協定ス
据附工費ハ會社之ヲ負擔シ基礎工費ハ引用家ノ負擔トス
但引用家ニ於テ會社以外ヨリ購入セル瓦斯機關ハ會社ニ於テ之ガ檢定ヲナシ檢定料トシテ一馬力ニ付金壹圓ヲ申受ケ其据附工費ハ一切引用家ノ負擔トス

第十二條 翌月中ニ瓦斯代金ヲ支拂ハル、方ニ對シテハ左ノ割引ヲナス

一箇月代金支拂高	割引步合
金百圓以上	五分引
金貳百圓以上	壹割引

第十三條 代金其他ヲ支拂ハザル者ニ對シテハ豫メ通告シ點火ヲ中止スルコトアルベシ



本町營業所

京城本町二丁目

京城電氣株式會社

京城日報 新年號

第四

歐洲時局と日本の財界
影響の一端=朝鮮は如何

三井物產京城支店長 高野省三氏談

□歡ぶべき好影響

歐洲の時局問題が發生して以來既に一年有四箇月を閱した。而して其の當初に於ては貿易關係其他經濟上、各般に亘りて種々なる悲觀說も唱へられたのであるが、今日までの經過を見ると、殆ど圈外に立て居る日本は、恰かも米國と同樣に、時局の好影響を受けて居るといふ事は、一般に信ぜられ得ると思ふ。即ち貿易の額を見ても、既に本年十一月末までに一億四五千萬圓の輸出超過を示し其他軍需品の如きも億を以て數ふる注文を受けて居るし、又東洋は勿論西洋までの海上に雄飛せる我邦の幾多の商船の收得する運賃も億を以て數ふるかも知れぬ、又海上保險の收入も尠からぬ額に上つて居るであらうし、其他海外に在る移住者の送金等も相當の額であらう。世間に傳へらるゝ所によれば、結局日本が收入したものと、日本が支拂ふべきものとを差引ても四五億圓の金が此の年末までに殖えたと云ふ事である。素より是等の數字は各自の判斷に任せる外はないが、要するに時局の齎らした結果として巨額の金が日本に入つて來たのは事實である。若しも今日の時局が、今日の狀態を以て今後或る期間を經過すればする丈け日本[illegible]

□正貨流入と其使途

扨て、此の儲かつた巨額の金の費途は如何にと云ふ事は今後大に注意せねばならぬ問題であつて、又幾多の研究を要する問題であると思ふ。[illegible]是等の[illegible]

□經過に注意せよ

先づ今述べたやうな事が今日經濟界一般の現狀であつて、又將來の豫測であるやうに聞いて居る。併し又一方より[illegible]

[illegible]致さねばなるまいと思ふ。[illegible]ば、一事業を起すにしても[illegible]

金の使ひ途の幾部分は或は外債償還の形に於て現はれるであらう、或は又海外放資の形に現はれることもあらうし、或は又新事業の爲めに振向けらるゝ部分もあらうし、若くは事業の擴張に充當せらるゝものもあらうと思ふ。併し是等の費途を決定するに就ては、餘程愼重なる研究を

うか、戰爭久しきに渉れば、各國の財政狀態が如何であらうか、是等は非常に大きな問題であつて、即ち日本の經濟にも大なる影響を齎らすべき大問題であるが故に、此等の經過に就ては御同樣深く注意を拂つて、總て各種の計畫を立てたいものである。それでつまり日本としては、餘程時局の好影響を受けて居る譯であるから一般の景氣も良くなつて來たやうであり、米價の如きも高まつて來た、大分好都合の次第である。

□對朝鮮の放資

顧て、朝鮮に於ては、時局の影響[illegible]を受けたものは甚だ少ないやうであ[illegible]つて、事業にしても、商品にしても[illegible]まるやうであるが、貿易が頗る好都合の[illegible]居ることは、時局の[illegible]謂はねばならぬ。而[illegible]に於ては、好影響を[illegible]りはせぬかと思はれ[illegible]前に述べた如く、日[illegible]額の金が、朝鮮にも[illegible]う傾向を生じて來[illegible]想されるのである。[illegible]れたる共進會によつ[illegible]ゆる事物が、内地の[illegible]遺憾なく紹介せられ[illegible]資力者間に於いて、徐程研究されて居[illegible]殊に時局の好影響を[illegible]、從來資產家である[illegible]多くの成金者流も[illegible]是等の關係より見て[illegible]を朝鮮方面に投資す[illegible]せぬかと思はれる。

つまり今日四五億といふ金が日本に入つて來たのであるから、外國に在る正貨を引當てに銀行券の發行高なども自然多くなるとしたら、從て朝鮮にも金が廻つて來るやうになつてあらう。是非さういふ風に内地の資本家に朝鮮放資の事を、恰度良い時機だから勸めて見たい次第である。

梅谷道人 吳伯玄 筆 水越理庸氏所藏

大正四年の回想

漢城銀行專務 韓相龍氏談

▲愉快なる回顧 歲月は流るが如くにして早や大正五年の春を迎へたり、此歲首に立ちて昨年の財界を回顧すれば年初に於ては舊年の不況を承けて振はず且米價の漸落は前途に心細き感を懷かしめしも四月に入りて昭憲皇太后の御諒闇明けさなるや、今迄鎖されたる暗雲の四散すると共に人氣も一新して景氣回復の曙光を認め得るに至り九月には愈々記念共進會の開會となり朝鮮各道の物產は申すに及ばず朝鮮往古の美術工藝品及び内地人の工藝諸品をも參考として陳列し始政五年間に於ける各般の事物の發達を明瞭ならしめ將來の發展に資する處尠なからず、遠くは内地滿蒙等よりの觀覽者も多く、前後五十日の會期に於ける觀覽者數約百二十萬人に上り京城日夜の殷賑は前古未曾有と稱せられたり、從て是等の觀覽者が散布したる多額の金圓は殆んど全部京城市内を潤したるを以て從前不景氣の歎聲は忽ちにして歡聲と變り、續いて十一月には京都に於て即位の御大典御擧行に付鮮内各地の奉祝は一層人氣を昂上せしめ秋收の豐穰なるに加へて米價は騰貴し、年初一石八圓内外なりしもの十一月には十一圓に達し殆ど沈靜なるに比較して殆んど隔世の觀あらしめたり十二月に到りては多年の懸案なりし京城商業會議所は内鮮人一團となりて芽出度新令の下に成立を告げ茲に各種の商業に就て秩序的發展の基礎を定めたり

▲金融の順調 商界の景氣斯の如く挽回したるを以て金融界も之れに伴れて活氣を帶び來り朝鮮銀行紙幣發行現在高は三千二百萬圓に上り此内六七百萬圓は國庫及び滿洲其他へ移りたりとするも確かに二千五百萬圓以上は鮮内各地に流通するものにして京城所在の各銀行の預金貸出金も亦增加に傾むき、近年に觀ざるの繁忙を來せり、我漢城銀行も此大勢に應ずるの準備として本年三月開城に派出所を設け八月之れを支店に改め十一月は更に京城南大門に派出所を設けたるも、往々之れを出張所に改むるの積りにして當行に於ける本年十一月末日現在の預金貸金平均殘高を昨年同期の殘高に比較すれば左の如し

	大正三年十一月末日	大正四年十一月末日	增
諸預金	一、〇三九、七五三、六一	一、四四九、四五五、三四	四〇九、七〇〇、〇三
諸貸出	二、〇四四、六九九、三一	二、三五五、三六八、三五	三一〇、[illegible]

要するに大正四年は近年稀なる芽出度き年柄にして、此の勢を以て推し進まば次年の發展は刮目して觀るべきものあるべしと雖も歐洲の戰亂は今尚ほ繼續して其終結を逆睹し難き場合にありて何時如何なる變動が經濟界に襲來するやも計られざるが故に此目前の好況に驕らずして先づ根蒂を固めに伴ふて漸次其步を進むるは今日に處するの[illegible]の策なるを信ずるなり。

新年文藝

—□短歌□—

一等 仁川本町四丁目鹿野方 笹樹 鹿梨
大ひなる力得まほし歲々の願ひ新たといふにあらねど

二等 鮮天朝鮮銀行内 緒方砂丘 秋
新らしき暦のページ切る如し今年は事のあれと思へる

同 京城吉野町 田上 南花
新なるいのちほりしていくとせかわが迎へつる春なりしかな

三等 元山郵便局 梅田 左通
新らしき家のほとりに繁りたる樫の小枝に初日映ゆるも

同 京城吉野町一丁目山中方 高須賀桐 裸丘
新しき光りをうけて地を踏めば喜びはしも大地より湧く

同 京城(乞住所詳報) 角田 芳子
新らしき橋わたり行く心地してわれ新年の街をゆくかも

秀逸

青海の波の上よりわたり來しあけぼのの色の新春の國 京城 鈴木吉都子

よろこびさ[illegible]は生れぬ東の大天地に滿てる新光 京城 臨 梨花

百萬の[illegible]らす心地して新なる朝天を見る 京城 久保田 明

賀正

三中井呉服店

所在地 京城 大邱 元山 晋州

謹賀新年

割烹職親友會 (電話一九七六番)

いそべ内 安部馬太郎
喜久家内 佐藤勝太郎
天眞樓内 中嶋喜八郎
千代本内 日高久良吉
白水内 森下爲一
大錦事 高部左一
清華亭内 高垣愛之助

本年も御引立を願升御入用之節は電話一九七六番へ御掛之程願上候何卒不相變御用命被仰付被下度候

謹賀新年

一月元旦

京城旭町二丁目二百二番地
京城日丸水產株式會社
電話 一〇八
電略 ケヒ

謹賀新年

京城本町二丁目
山岸天佑堂藥房 電話 三七二番 二〇一四番
山岸天佑堂機械部 電話 一〇六番

謹賀新年

京城壽町
浦尾旅館
電話 一〇三番 一一七番

謹賀新年

京城旭町一丁目
喜久家
電話 一三八三番

何時濟むか判らない
—問題は只だ人間の數—
駐剳軍司令官陸軍中將 井口省吾氏談

歐洲戰爭がいつになつたら終るか其樣な事は今日の問題ぢやない無論何時濟むか分つたものぢやない三年續くか四年續くか鳥渡見當さへ付かない

□昔の戰爭は□ □永く續いた□

かこれには又相當の理由もある即ち昔は第一交通が不便であつた爲めに大軍を輸送する事が困難であつた其爲め一大會戰を爲す爲めには大軍を集中するのに双方共鮮からぬ日數を要したものだ不斷に戰鬪を續けてゐなくても戰爭が始められてから終結する迄の時日が其戰爭の長さなのだから昔の戰爭は戰鬪の時日よりも中途の空隙な時日の方が長かつたのである第二に昔は非常に武器が幼稚であつた爲めに死傷の數も今日の樣に一時に多數を出さなかつた即ち同じ兵士の數にしても戰鬪力は今日よりも永續した譯である惡く論じ來れば

□現今の戰爭は□ □是非早く終結□

しなければならない譯であるのに今日既に歐洲の大戰は一年半繼續してゐる而して今後其終結する時を知らない有樣である當初吾々は思つた成程獨逸は強い到底聯合軍は敵し得ない程強い隨つて戰鬪に於ては獨逸の勝利に歸するのであらう、然し獨墺は聯合國に包圍せられてゐるのだから戰鬪には勝ち乍らも兵糧征めに遇つて遂には負けるに違ひない其れが軈て歐洲戰爭の終局であらうと、然るに其後の狀況は果して怎麼だらう獨墺軍は却々兵糧攻めに遇つても陷ちない獨逸の遣口は何から何迄擧國一致で戰爭の爲めに準備せられてゐる

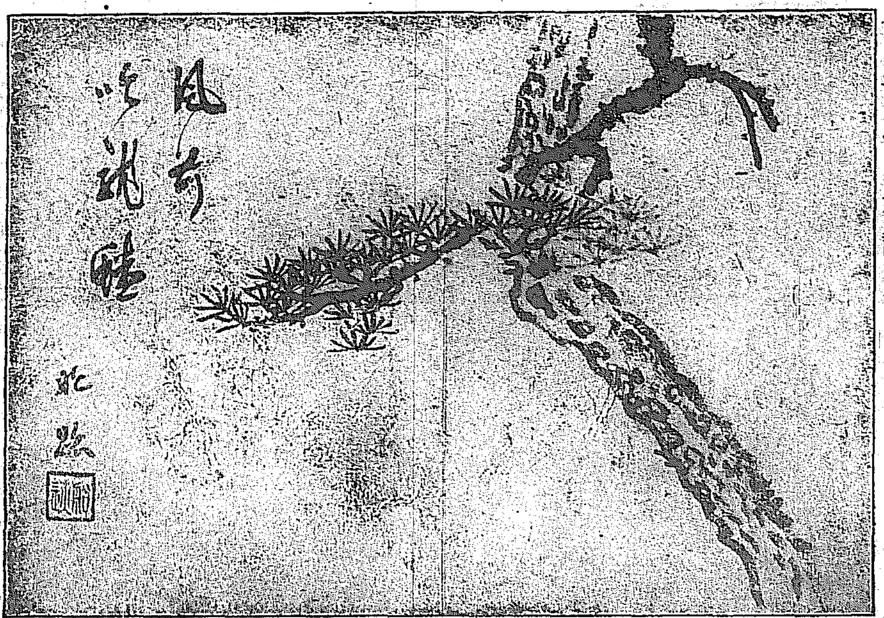
□食糧にしても□ □極端に經濟的□

に製造せられ消費せられつゝある鳥した渡例が今迄食用とせられなかつた葉を化學的に食用品に變製するに至つたとさへ傳へられてゐる一事が萬事である馬鈴薯の皮を剝くにも生の儘小刀で剝くと不經濟だから蒸してから薄く上皮丈け剝ぐ畜類は人間の食用にならない物で飼用する事の出來る樣なものでないと飼はない人間の食ふ物を食はないと生きてゐない樣な畜類は殺して食用にするか外國に賣飛す萬事が此樣な調子である

自國で充足してゐる獨逸の活動は恁の如く所有方面に亙つてゐる戰爭中と雖も外交は不斷に活躍してゐる對米外交の如きは正に巧妙を極めたものであるが巴爾幹に於ける老練な外交術の繰縱に至つては流石英佛露伊の列強も美事に拋り出されてる支那に於ける活動の如きも大に見るべき所がある最近に於て波斯が同盟軍に加擔して立つに至つたのは正に獨逸外交の力と稱すべきである恁くの如く獨逸の擧國一致は實に敵乍ら大に稱するに足り學ぶに値する恁くて歐洲戰爭は其結局に就て殆んど豫測し得ざるの狀態に進展してゐる然し茲に於て吾々の思ふのは

□戰ひ得る人間□ □の問題である□

成程軍器は優越し糧食は繼續し得るとしても戰ふ人間がゐなくなると云ふ憂ひである現に戰鬪の進展と共に兵士の年齢が次第に上下に延長せられて今では少年、老人と稱すべき年齢の者が徵發せられつゝあると云ふ恁くの如くんば遂には戰ふべき人間に不足を來すべきは必然であるまいか若し獨逸を撃摧迄屈服せしめんが爲めには其れより外に聯合軍からの術策はなくなつた然し是れでも戰爭が何時終結するかは分らない倘今後二年續くか四年續くか臆張り判斷がつかない


古海參謀長試筆

曰く、見當が付かぬ
—獨墺軍は優位の現狀—
駐剳軍參謀長陸軍少將 古海嚴潮氏談

□二十五萬發の□ □製造能力を有□

てしまつた譯である佛蘭西では十萬發の砲彈ほか製造し得ないが獨逸は

其れに巴爾幹に於ける優利なる戰鬪の結果として伯林とコンスタンチノープルとには直通列車が運轉するに至つたから糧食の憂ひは雲散霧消し

つてる而も原料は勿論製造工業總て

歐洲戰爭がいつ終るか其れは神籤でも引いて見ねば決まらない臆張り見當が付かないのだ情報と云つても決して我々に特別なものと云つてはありやしないし

■過去と現在 の事は一通り分つてゐるとしても將來の事など臆張り見當がつかない否や現在の事にしても嚴密に言へば分らないと云ふが本當なのだ獨逸の主力は何處に在るか?其れを知つてゐるものは獨逸の參謀本部のみであらう其が戰略なのだ大擧して白耳義を陷れ突進して佛蘭西に侵入し一轉して露西亞へ向つた

■獨逸の過去 の作戰狀況を見ると主力の存在してた處は分らないでもないが今日の主力は何處かは不明だ巴爾幹に於ける獨墺軍の勢力はさしも凄まじいものだが然し是れなどは獨逸にとつては朝飯前の話だ主力は何處かで晝の茶漬でも喰つてるだらう悠つくり晝飯でも濟んだら又何處かに突出するかも知れないが兎に角

■巴爾幹の獨軍 は獨逸の全體から言へば言ふに足りない唯塞比亞にしても英佛の遠征軍にしても其獨の支線にさへも敵し得ない程に脆かつたと云ふ迄の事だ兎に角いつ終るか分らないが愈々戰爭が終るとなれば獨立が取消されたり無かつた國が出來たり乃至は同盟聯合兩軍からの相牽制に依つて有るか無きかの存在を續けたり、種々な

■地圖の變更 を來すであらう現在に於て白塞兩國は國を擧げて敵に委してゐる希臘はサロニカを聯合軍に貸した以上同盟軍の通過なりと許さなくてはなるまい否其れ許りでは無いサロニカを中心としたマセドニヤの地は兩軍の會戰地となるに違ひない既に聯合軍に中立を破り更に同盟軍の爲めに敗られて見れば中立宣言は名のみとなり其國の運命は勝利者の自由だらう兎に角軍事上でも優利な地位に在る上に更に軍隊と外交は相一致して行動せざるべからずと云ふ

■原則を實現 してゐる其方面に於ても聯合諸國は獨墺に一歩乘せられてゐる而しまだ仲々勝敗の決は見えない唯過去及び現在に於ては聯合軍の方に聊か勝味はあるもの丶扨て戰爭はいつになつたら濟むか?曰く見當が付かない、と云ふより外に辭がない

年頭感 井口省吾

いくたびか
死すべかりしを
長らへて
六十二とせを
迎ふ今朝かな

日鮮人向 雜貨卸商 朝鮮平壤 ㊇鬼頭支店 電話百〇三番 發電略語(キ)

謹賀新年 平壤醫師會

謹賀新年 平安南道廳 松永武吉 張憲植 篠田治策 吉松憲郎 三宅鏗吉 富永一二 新田隣平

謹賀新年 平壤港町 土木建築請負業 大橋組 長電話一三八番

謹賀新年 平壤大和町 銘酒金露長春發賣元 大塚出張所 電話四八番

謹賀新年 平壤酒造組合

謹賀新年 平壤山手町 朝鮮總督府御指定旅館 柳屋 長電話二〇六番

謹賀新年 平壤八千代町 西鮮造林株式會社 電話七四五番

謹賀新年 京城廣江商會平壤代理店 帝國麥酒株式會社特約店 ライジングサン石油會社特約店 日鮮人雜貨移入貿易商 平壤南門町四丁目 ㊀廣田商店 長電話一六二番

謹賀新年 平壤南門町四丁目 貿易商 ㊦双喜號 長電話六二九番

謹賀新年 平壤大和町十一番地 佐藤時計店跡 時計貴金屬 懷中電燈及 電池乾電池商 各種眼鏡類 福田時計店 電話四二六番 長電話京城一〇六三番 金銀細工は店内に製作場を設け御便利を計り迅速に貴需に應ず

謹賀新年 朝鮮銀行平壤支店 長電話一一番 電話四一一番

謹賀新年 株式會社共益社平壤支店 主任 吉見岩吉

謹賀新年 株式會社漢城銀行平壤支店 長電話五九番

株式會社百三十銀行平壤支店 長電話一五八番

謹賀新年 舊年中は毎々御芳情を蒙り難有奉鳴謝候尚本年も不相變御愛顧の程奉願上候 敬具
大正五年一月元旦
羅紗販賣及洋服商 店主 遠藤忠治郎
地方出張員 山口與太郎
同 山邊包一郎
羅紗部係 濱田美七郎
電話三三三番

子爵金允植氏試筆

捨舊圖新

雲養

媾和開始は年末頃か
—お附合ひ的の小競合—
警務總長陸軍中將 立花小一郎氏談

恁くの如き戰鬪を續けんには聯合同盟兩軍双方共に長期の戰鬪の事とて兵器彈藥は使ひ果たし而も其補充とては充分につかず恰も燃盛つた火の自然に燃え盡きて消える樣に戰爭も

▽自然に下火に なつて行く

事は必然と見ねばなるまい悟くて何時頃になれば媾和談判が初められる樣になるものか神ならぬ身の元より知るべくもないが我々の考に據れば今年即ち大正五年の暮頃迄には媾和の芽が萌え出でる樣な事になりはしないかと思ふ疲弊困憊した戰爭其物は寧ろ世人に忘却せられて

▽媾和の方式の 問題に移り

其れが論議せらるゝに至るであらうと思はれる今日に於て推すれば戰爭開始以來の經過から見ても聯合軍側が偉大な力を發現して獨墺軍に當り今迄に侵略されたものを奪還しようなどとはどうしても考へられない然れば獨墺軍とても際立つた振舞にも出で得まい併し獨墺軍は遂には巴爾幹を席捲し小亞細亞を攻略し遂に蘇士を占領し更に向多少の飛躍を爲し波斯を動かし東は印度、南は埃及其他の

▽英佛殖民地方面 へ發展

して行く位の事はあり得よう此爲めに英佛聯合軍側は從來の樣に廣大な殖民地から無限の物資の供給を受ける事が出來なくなるには違ひない併し要するに是れは枝戰だ決して主要ではない露境及び白佛方面に於る正面戰は今言ふ通り彈盡き刀折れて唯

▽お附合ひ的の 小競合を爲

すに過ぎない少なくとも獨墺軍の方から大活動に出でずんば現狀から大した激變も來されないで媾和の幕が開かれるに至るであらうと思はれる

吉將軍の言の如く然り
—矢ツ張り先づ三年計畫—
總督附武官陸軍少將 白井二郎氏談

英のキッチナー元帥が戰爭の當初に言つた樣に今度の戰爭は奈何しても三年は經るものと見たが正當だらう豫て我輩は此冬になつたら

▽自然の勢ひ乙△
▽して休戰狀態△

に陷るだらうと思つてゐたのに豫想外な巴爾幹の戰が突發な展したので依然砲火は續けられる樣になつたとは云ふものゝ本戰と目すべき東方戰場、西方戰場は現に休戰同樣の狀態に在る巴爾幹の戰が本戰でない事は茲に改めて言ふ迄もなく單にサロニカを中心とした英佛遠征隊が漸く十六箇師團と之に對抗してゐる土耳古及び勃牙利第二軍の混合軍が二十箇師團近く、ガリポリ半島の英佛遠征軍及び之と對抗の土耳古軍並に塞耳維軍を主として之に向つてゐる獨墺軍及び勃牙利第一軍の對抗戰である塞耳維に向つてゐる獨墺軍は墺軍を主とし獨軍は全獨軍から見れば鮮小なもので更に伊太利に向つてゐるものは尚其よりも少數だらうと思はれる今日

▽獨軍の全數を△
▽大略百箇軍團△

と見積つて其中の半數即ち五十箇軍團は西方戰場白佛英聯合軍に向ひ殘部の約半數即ち三十箇軍團位は露境へ進き其他のものが塞耳維及び伊太利へ向けられてゐると見るべきであらう即ち獨軍の主力は依然西方にある巴爾幹の戰は單に枝戰に過ない果して然りとすれば枝戰の勝敗は直接大勢には甚大な影響を及ぼさず依然として聯合同盟兩軍共に主力は冬眠した蛇と蝦蟆の樣に睨み合つて居る樣である世人動もすれば西方戰場の兩軍が餘りに活氣なきを言ふが普通の野戰ならば自由な進擊も開展も出來やうけれど現在の如く山野河沼から海岸に至る迄

▽甲冑を著た樣△
▽に嚴重な要塞△

塹壕が築造せられてゐては全く活動は鈍らざるを得ない若し此防備をも突破しやうとなれば非常に莫大な兵器と人命とを犧牲に供しなければならない頭日頻々として獨軍は西方戰場へ向け軍器を輸送してゐると云ふ報告に接するが或は獨軍は敢て此多大な犧牲を拂つても突破しやうと計畫してゐるのかも知れない此西方戰場に於ける主戰が展開しない以上歐洲戰爭は大局の異動は無い譯なのだが更に翻つて見るに如何に枝戰とは言へ果して

▽巴爾幹戰は今△
▽後の發展奈何△

英佛遠征軍は現にサロニカを守りガリポリ半島を征めつゝある、とは言ふものゝ、ガリポリ半島の如きは單に上陸してると云ふ名許りの事で最初の目的たるダーダネルス海峽へは愚かガリポリ守備の土耳古兵に支へられて進みもならずたゆたふてゐるのだから寧ろ退いてサロニカ軍を合同した方がいゝ位である(記者曰、將軍の此說は英佛聯合軍のガリポリ半島撤退以前なりしなり)又サロニカを守つてゐる英佛軍にしても之に向つてゐる土耳古兵及び勃牙利第二軍の混合軍とは唯數箇師團の差があるのみである意氣昂らずと言ば誠に意氣昂らぬ仕末である其れに最近著電に據れば

▽希臘政府から△
▽は築城を拒れ△

てゐる有樣だから今後の發展は鳥渡見當もつかないが若しガリポリ半島からの撤退兵が合同するとすれば多少の勢力とは爲る悟かれば抵抗期も延びるであらうが之にも獨墺軍南下兵が來る樣な事にでもなれば何れは守りを棄てなくてはならなくなるであらうサロニカを撤退した兵は何處に行く?先づ今の處では蘇士運河を衞るだらう現に多少の兵は其守護をしてると云ふ事だが最近同運河を通過した汽船の船長の話に據ると決して安心すべきでは無いと云ふから其處を衞る樣になるだらう戰ひが蘇西に移れば同盟國側からの攻擊も今迄の樣に自由ではなくなる內戰作戰も困難となるし怎せ大戰爭には爲りもすまいし。

▽大體が殖民地△
▽威嚇にあるの△

だから或る程度迄奏功すればいゝ譯である予の考では或は埃及、或は印度に事を構へると云ふ迄には尚だ仲々だと思ふ然し又思ふに恁く地中海から蘇士に攻勢が向ふとすれば勢ひ聯合國殊に英國が平氣ではゐられ無くなるから其牽制に依つて兵が東に集中した處で西方戰場に於て決戰的態度に出ようとしてゐるのではないか—要するに前途は皆目不明だ況んや終局をやである今日歐洲戰爭の終期奈何と問はれて見れば先づ矢張りキッチナー元帥の言の如く三年は經ると言ふより外は無い

寄國祝　山名　普來上

鷲棲めるこま野におふる民草も國安かれとことほきまつる

□　大道　白上

榮え行く瑞穗の國に生れてしわかはらからのさちそうしき

謹賀新年 仁川新町 大淸菓子舖 店主 大沼淸太郎 電話一四八番

謹賀新年 會席御料理 仁川山手町 うろこ樓 電話六八番

謹賀新年 船具一切及繩叺販賣 加來商店 仁川海岸町一丁目 電話一四九番

謹賀新年 歐米家具室內裝飾品 山洋雜貨洋酒類 毛織物絨氈敷物類 銃砲火藥免許商 卸小賣 仁川本町一丁目角 藤木利右衞門 電話四〇三番 振替京城六三番 / 仁川仲町通角 京城南大門通三丁目角 電話五八三番 洋家具販賣店 京城支店

謹賀新年 西洋御料理 仁川本町三丁目 東洋軒 電話五一九番

謹賀新年 歐米雜貨、支那織物商 仁川支那町 義生盛 電話八一八番

謹賀新年 京城電氣株式會社仁川支店 山內篤 日比松藏 渡邊剛 古城長知 片桐壽男 渡邊操 宇津登一郎 西原太三 山門米藏

謹賀新年 仁川仲町一丁目 ㊅大和組 主任 廣池亭四郎 電話五三八番 平壤大同門內 大和組支店 電話三三四番 鎭南浦支店 電話二四二番

謹賀新年 仁川府本町四丁目 野口商會 ◉廻漕業 撫順炭特約販賣所 電話一七三、七五〇番

謹賀新年 最上醬油 釀造元 仁川 高杉醬油釀造場 電話七六五番 / 仁川海岸町三丁目 貿易商回漕業 高杉昇商店 電話五九番

謹賀新年 仁川海岸町二丁目 大阪商船株式會社 仁川支店 電話五二一、五一二、〇〇二番

謹賀新年 仁川酒商組合 本莊酒店 電話二四一、二九六番 河野本店 電話二八一、二三八番 田中良助 電話九三三、三八番 田中作二酒店 電話六二六五、〇九番 合名會社仁川支店 電話三六一、四九番 中野常次郎 電話一一一、四〇番 增本酒店 電話六一〇、九九番

謹賀新年 仁川港本町一丁目 ㊗福島組 電話五三五番 主任 大平友市 仁川稅關構內出張所 電話五四二番

謹賀新年 仁川花町一丁目 木材商會 花町賣場 萬石町賣場 電話三三番 二三八番 京城永樂町三丁目 同出張所 電話四二八番

謹賀新年 清酒 振天、双喜、正宗 平生、榮菊、友千鳥 發賣元 穀物貿易商 清酒釀造業 仁川 吉金喜三郎商店 電話七六四番 天安出張所 馬山出張所

謹賀新年 酒精アルコール直輸入 仁川港京町 鬼頭兼次郎商店 振替京城六八番

謹賀新年 京城明治町二丁目 奧田商店羅紗部出張所 電話一八九一番 仁川本町二丁目 奧田商店羅紗部 電話五一番(振替京城五四番) 大連市大山通二丁目 奧田商店羅紗部出張所 電話一三一八番

謹賀新年 日鮮向雜貨輸入貿易商 仁川本町四丁目 河野本店 電話二三八番、二三八番 電信略號(カ) 振替京城二二番 平壤 河野支店 鎭南浦 河野支店 安州 河野出張所 宜川 河野出張所

謹賀新年 日鮮人向雜貨輸入商 仁川本町 鈴木倭商店 電話一一番 振替京城一三番 日本生命保險會社代理店 橫濱火災保險會社代理店

賀正

下記各種炭は今回新設の龍山貯炭場に十分の貯炭致置候間直接當所又は特約店に御用命被仰付度尚鐵道沿線は一車廿五噸以上の御注文被下候節は一週日内に到著可仕且又御使用向き御申聞け候へば石炭の性質を案じ尤も適當なる良炭御供給可申上候

本溪湖炭

は

最も多くの固定炭素を含み「カーディーフ」炭に類似せる石炭なり

適當に酸素を供給せば八千「カロリー」の強熱を發する石炭なり

適度の粘結性を有し多くの骸炭分を含める良質の石炭なり

故に

本溪湖炭は「カーデーフ」炭と同じく船舶焚料殊に遠洋航路船に適す

本溪湖炭は鍛冶用に尤も適當し且本炭製出の骸炭は其質堅く發熱力又強く鎔鑛鍛錬用に適當せり

本溪湖炭は尤も火持ち永く一度完全に燃付くときは木炭と等しき丈け保火し得る良炭なり

撫順炭

は

其層百三十尺以上百九十尺に亘り全層を通じて同様の性質を有せる石炭なり

其色漆黑にして光輝強く炭質硬堅なる石炭なり

揮發分に富み尤も燃付よき有煙石炭なり

灰分極めて少量にして「クリンカー」を生ずることなく燃燒十分なる石炭也

硫黄分を含有すること少なきが故に汽鑵の鑵板に損傷を及ぼすこと少なき石炭なり

故に

撫順炭は汽鑵燃料用として日本産一等炭に匹敵し特に鐵道機關車及船舶焚料に適す

撫順炭は特徴として揮發分多きを以て瓦斯製造用としては最優等の石炭なり

撫順炭は一般工業用には尤も適當せり

撫順炭は著火力に富み家事用としては尤も便利徳用なり

煙台炭

は

半無煙の石炭なり

固定炭素量尤も多く百分中七五七四平均を有する石炭なり

故に

煙臺炭は家事用に使用するも煤煙の患なく常に屋内の清潔を保つ

煙臺炭は煉炭製造に適す

煙臺炭は一般工業用に又適し殊に石灰窯に之を用ゆるときは其品質を優良ならしむるの特點あり

南滿洲鐵道株式會社鑛業部販賣課京城出張所

京城御成町電話長一七〇番電報略號(テコ)

龍山京町 電話二三〇番　同貯炭場

京城日報 新年號 第五

婦人ページ

結婚に對する吾人の希望

□望み得らるゝ實際的研究

現代の教養ある青年は、その一生の配遇者として如何なる婦人を求めつゝあるか、私はそれを最も實際的な方面から眞面目に考へて見たいと思ふ、そして比較的に幸福なる新家庭の出現は如何にして得らるゝかを研究したい。絕對的に論ずる場合は到底今の日本に於て直ちに理想的の婦人を求め、眞實なる幸福を實現す可き結婚を望む事は困難である。然しそれは日本に限つたことではない、又現代に限つたことでも無いかも知れぬ。しかも吾等は、今現に日本の一青年として生存し、適當なる婦人を得て、出來る丈幸福なる家庭を作り、各々の有する使命を全うしたい、いやせねばならぬ狀態に置かれて居るのである。即ち今の日本の家庭に望み得らるゝ範圍で、吾等の希望を述べて見たい。

□美人を望むは愛玩的の野心から

男が女の方を評する時には、先づその容貌の美醜を云爲する、女の人も自分の容貌には隨分心を痛めらるゝ樣である、爲めに美人といふ事は婦人の價値を左右する第一の條件であるかの如く思はるゝことが度々あるけれども自分の配遇者を選ぶに當つて、誰も美人であることを主としてはゐない、單に美人であるとか、無いとか云ふのはその對者を或程度まで玩弄物視してゐるか、でなければ第三者の立場から批評する場合のことである、醜い容貌が決して快感を與へないのも事實であるが、その人の人格に依つて外形の不整を十分に補ひ得るをも事實である、本當の意味の美醜は外面上の容貌に止まらない、健康と品性とが之れに伴つて初めて完成されるものである、吾人はたとその容貌に於いては醜からぬを望めば足りる。

□健康診斷書と血液試驗の證明を結納

健康は吾等の婦人に望む一大條件である、現在の健康のみを以つて滿足することは出來ぬ、過去の健康だけで滿足は出來ぬ、思ふに配遇者を求むる婦人の男子に對する要求も此點は同一であらう、私は此意味から結婚に先つて必ず信用ある醫師の診斷書と血液試驗の證明書とを互に交換して貰ひたい、形式的な結婚につきものゝ、多くの虛禮よりもそれは如何に大切な禮儀であるか知れぬ、そして決して厄介な一遍の禮儀ではない。

□萬一の時獨立自活の出來る人を

教育の程度は女學校の卒業證書のみで滿足することは出來ない、と同時に女學校の卒業證書を持たぬ人でも一通りの常識を有する方ならば十分である、特種の技藝或は專門の學術を修めて萬一の時獨立自活の出來ることも望しい、その智識は夫である人の仕事を理解し、家事を整理し、小供を敎育するに足る人で、自分のことは自分で判斷し得る人であつて欲しい。

□一藝に凝る人と天才者は望まぬ

趣味の廣汎であることも希望する、音樂は勿論月並ながら茶、生花、その他夫である人の趣味を理解するに足る鑑賞眼を有すること、然し一藝に凝つて之れに耽る人、或は天才を有する人は普通の家庭に於ける配遇者として不適當な人である。

□曾祖父母までの家族の調査をせよ

これらの事は何れも外面から觀た吾人の婦人に對する希望であるが、吾等の主として云はんとする所のものはその人物如何にあることは言ふまでもない、吾等は婦人を決して男より卑しい者と思つてゐない、謙遜さるゝのは善いことであるが、卑屈な人は好まない、內氣な人はまだいゝとしても陰氣な人は望まない、快活で素直で、愛情に豐んだ人こそと思ふ、互に理解した男の友達同志の如く女の人々とも打ち解けて交りたい、それには圓滿な家庭に育つた人でありたい、平和な家庭で愛に滿ちた兩親の下に成長した人でありたい、門閥とか貧富とかの如きは餘り問題にならぬ、健康の診斷書と血液試驗の證明書と同じ意味で其人の內部に潜んでゐる遺傳的性格を知る爲めには三代位まで遡つて家族の人々の調査をする必要もあると思ふ。

□危險なる所謂戀愛本位の結婚

吾人は所謂戀愛から出發した結婚、共同生活の如きは、まだ日本では危險だと思ふ、最も進んだ人々を除いては、眞實の戀愛なるものが現在の日本の社會狀態に於いて成り立ち得ると信じられない、多くは何等の理性の判斷なく、最初に接した若い男、若い女の人が直ちに戀の相手となる、かくて深い觀察の暇も無く、愼重なる考察の餘地も無く、衝動的に、感覺的に起つた戀からの戀愛は不幸に陷り易い、後悔する日の來ることを完全に避けることは出來ない

□結婚する迄に交際する時日を與へよ

故に吾人は父母その他先輩の撰擇を基として判斷するの外無い、今日に在つては吾等の希望を十分其撰擇者に理解せしめ、出來得可くんば友人として一年位は文通、往來等に依つて交際する時日を與へられたい、そして其間に眞實の意味の戀愛の成立するのを待ちたい、結婚式の日に至つて初めてその人を知る如き愚は啻に危險と云ふよりも寧ろ亂暴な行爲と云つても差支へあるまい。

謹賀新年

景品附大賣出し
（東亞煙草元山管內官煙組合）
一月十日迄
大景品
自轉車附屬品共
金側懷中時計
糸錦丸帶
友仙上等縮緬
上等本場銘仙
其他景品山の如く一本も空籤なし
元山　東亞煙草株式會社販賣部
進物好適品
敷島一ボールに景品券二枚
賣出煙草
朝日　武藏野　大和　ウエルス　ダリヤ　ビユチー
各一ボール每に景品券一枚進呈

謹賀新年
馬獅子染料一手販賣
朝鮮京城府岡崎町　合資會社　福喜洋行　電話一二五二番
大阪東區瓦町一丁目　合資會社　福喜洋行　電話本局五四〇番七四〇番
京都市愛宕郡田中村字高野河原　合資會社　福喜洋行　電話團上二三三六番

謹賀新年
日清生命保險株式會社
朝鮮出張所
所長　橫田瀧三郎
京城黃金町二丁目　電話一四九六番

謹賀新年
資本金　七百十八萬圓
創立　明治十六年
年產額　三百五十萬樽
淺野セメント株式會社
京城出張所
本店　工場　東京深川淸住町
分工場　門司、北海道、川崎、臺灣、打狗

謹賀新年
京城南大門通り一丁目
中山洋紙店
電話一三四一番

謹賀新年
漁業角輪組
第一漁場　江原道杆城郡靈津里
第二漁場　咸鏡南道利原郡船盆里
第四漁場　同北靑郡新浦面興坮里
第五漁場　同定平郡歸林面東上里
第六漁場　同咸興郡退潮面東湖里
元山出張所　同元山海岸通一丁目
鰤大敷網漁場主
奧田龜造
德田平一

名流婦人 印象記

一記者

□檜垣道長官夫人

謹嚴な家庭に主婦として内助の功を立つる夫人の努力が一通りでないことは云ふ迄もないが只御氣の毒なのは往年打續きたる御不幸のためか御年よりも二つ三つ老けて見える感じがするそれでも却々元氣は衰へず家庭にあつては常に下女下男を躬ら率ゐて立ち働かるゝといふ夫人のエプロン姿を拝見することが稀しくない

□石塚長官夫人

夫人に御目にかゝつて何時でも思はれるのは何んとなく端然容儀を正さなければならぬ様な氣分に打たれることであるそして段々と御話を伺つて居ると謙遜なる一言一句の裡にも犯す可からざる嚴肅的な意味の含畜のあることを發見せずには居られぬ質樸しやかな夫人の風采には甘らぬから家庭教育に熱心な方だと伺つて居る者には一層床しい氣持がするのである

□關屋學務局長夫人

三男三女の母さんである夫人は人一倍子煩惱の御主人を助けて家庭の女主人公として何一つ缺けた所のない上に日本聖公會の熱心な信徒として福音の宣傳を怠らない方程あつて會ふ度毎に一種引き付けられる様な感じがする『自分はつまらないものである併し眞理は貴いものであり動かすべからざるものである』と云ふ夫人の信仰は以心傳心して相手を感動させる此様に情熱的な夫人であるからして一度夫人の世話になつた者などが一生其恩を忘れぬと云ふのも夫人の人格を物語つて餘りあることであろう

□持地土木局長夫人

朝鮮に居らるゝ婦人中には稀に見る異色ある方だと思つた、自分の信ずるところ、自分の考へて居るところとそぐはぬ話柄に對しては只つゝましい婦人として默して居らるゝが、一度現代婦人界の思想問題、家庭の缺陥さいふ様な問題に進むと熱烈な信仰と穩健な理想から出たその御意見が口をついて吐露される、そして一々の實際問題に對しても立派な見識を有して居られ常にその實現に精進されて居るところは女流志士と云つた面影が偲ばれる。

□國分李王職事務官夫人

一度お目にかゝつたのみではあるがお齢に似合ぬ若々しい姿とつゝましい様子とが判然と印象されてゐる、言葉少い夫人から伺つた家庭教育上の御注意は母親の意見の如く明かに頭に殘つてゐる

初春二景 勅題盆景 うぐひす

□森安醫學博士夫人

お優しい方だそして何んでも御手助になつては入らつしやるけれども謙遜な夫人はすぐにはそれと仰しやらぬのだと云ふことは夫人の美徳を云ひ現す唯一の言葉だと思ふ名門出の婦人には何處となく床しい所がある。

□木村鮮銀理事夫人

鮮銀舍宅の立派やかな應接間のステインドグラスを背景にして客と對座した所の夫人は一寸見ると老嬢の様な氣がする」と申しては惡い意味では勿論ない老書生の様な一種快活な氣分に打たれると云ふことである『宗教だなんテ眞面目くさつて居る人の氣が知れん』と仰しやつたなども思ひ出される所謂來る者は拒まず去る者は追はずの的の氣質が言動の端々にも窺はれるのは嬉しい。

□井上東拓理事夫人

御主人を訪ねて行つた折り女中の間違から夫人が應接間に出て來られて只だの五分許り御話した位が夫人に對する印象とでも云へば云へる下女の手落から一寸不體裁になつた[illegible]笑に外らして御主人と交代された所の問題は夫人の平常が思はれて頼母しかつた。

□久芳事務官夫人

女教師といふやうな、女らしい女のつゝましさはありながら、何處かに書生の氣質の拔けやらぬやうな、初對面の者にも隔を置かれないものごしが、少しも取りつくろはぬ中にも快感を與へる

□金谷京城府尹夫人

京城府尹夫人と云へば内地なら東京市長夫人とも云ふ可き所で社交界の中心人物として持て囃やされる人であるが金谷夫人も仲々に社交が御忙しいと見え今日は何會明日は何會と殆んど毎日の様な外出勝ち、此種の夫人に限り家政を顧みる遑なく下婢下僕に打任せるのが通例なれど夫人は全くの反對内外共に萬遍なく立働く所は女丈夫の概がある何時だつたか『私の宅は掛買は一切せぬ』と云はれた言葉の裡には夫人の家政に如何に周到なものであるかを思はせられた

(三面へつゞく)

謹賀新年

久原鑛業株式會社

鎮南浦製煉所

謹賀新年
朝鮮元山仲町一丁目
露西亜物産 西澤商店
電話四六四番

謹賀新年
朝鮮元山府
元山水力電氣株式會社
電話四三三番

謹賀新年
主要營業科目
サクラビール特約店
明太魚
其他海産物
米雑穀
東亞煙草特約店
朝鮮元山港春日町
貿易商
合資會社 大盛商會
電話二十二番
電略(三)又は(〇三)
振替京城三三四一番

謹賀新年
營業科目
穀物 石炭
船具 金物
塗料 印刷
朝鮮元山
吉田商會

謹賀新年
元山春日町
貿易商 西島留藏商店
電話二三〇番

謹賀新年
朝鮮元山
合資會社 丸吉回漕店
電話二〇番 三八番
朝鮮郵船會社取扱店
大阪商船會社取次店
日本郵船會社代理店
通關部
電話一五三番
日本海上
東京海上 保險會社
大平生命
大阪火災海上 代理店
運送部
電話五三五番
通關特許人
鐵道局承認運送店
荷捌所
電話二三番 二〇四番

謹賀新年
朝鮮總督府鐵道局承認
朝鮮運輸聯合會加盟店
朝鮮元山港
マルミツ 運送店
電話四三五番 電略〇ミツ
振替京城二五一五番
朝鮮元山榮町
本岡商店
鋼鐵部
煙草部

謹賀新年
朝鮮水産株式會社元山支店
電話四三三番
第一魚市場
電話二六六番
第二魚市場
電話四〇九番
漁網漁具販賣店
電話四三三番
魚類輸送部
電話四〇九番
朝鮮水産株式會社清津出張所
電話六四番

名流婦人印象記（第二面よりの續き）

□山形憲兵大佐夫人

日本の奥様の典型を代表したやうな方である、北陸の訛りが少しある、その言葉で何處までも謙遜して語らるゝ時、丸髷のよく似合ふ豐かな丸い顔をうつむけて考へる樣に人の話を聞かるゝ時、日本の女の絡を見る樣な感じがある。

□村上事務官夫人

觀世流の謡曲に於ては京城の婦人界で一二を爭ふ方だけあつて何時お目にかゝつて見ても所謂容儀整然さした應接には夫人の命扇取つて舞ふ仕舞姿や謡振りが目の前に繪の樣に浮んで來る、そしてあの朗々とした女の命とも云はるゝ緑の黒髪は一層夫人の容姿を美く見せて居ると思ふ

□山口太兵衛氏夫人

庭の手入れに來た人達を指圖しつゝ御自分にも木片を手にして裏庭に出て居られた夫人はそのまゝ其處に立つて往訪の記者に用向きの要領を訪はれた、その物に關らぬ手輕な、それで輕々しいところのない所に夫人の面目躍如たるものがあると思つた

□高野三井支店長夫人

日本の女子大學英文科の御出身で文學の造詣の殊の外に深しと承はるまゝに夫人を旭町二丁目の御宅に伺つたのは今年の夏だと記憶て居る爾來二三度帝劇の夫人を御宅に楚々たる姿を宴席に又は幽麗たる飛模樣を召した御化粧を劇場に認めたが其度毎に記者の脳裡に現はるゝものは美しい方だ華奕な方だも少し強い言葉で云へば艶麗人の魂に舞ふと云ふ樣な方だと云ふ感じであつたそして快活な江戸子風を以てシエクスピヤ、ユーゴー、トルストイ、モーパッサン、オイケン、ベルグソンなど云ふ樣な文豪又は思想家の人物を論じ作品を評せらるゝ所なんぞは到底三文文士の企て及ぶ所でない其上御洋に印度に御君と共に殖民地を歴遊されただけあつて交際の術にも却々捲け人を外さぬ應接振りには何時もながら感心して引退るを常として居る。

婚禮奇風俗

今では女子の位置も上り相當の人格を認めらる樣になり、一夫一婦の制が行はれ、道德も大に進んぜらるゝ樣になつた。我國に行はれてゐる婚姻法の如きも、餘程進歩したものであるが『所かはれば品がはる』で、其地其地の習慣によつては、隨分奇態な話を聞くことがある。

△しりたたき　美作國眞島郡高田（舊勝山藩城下）では、婚禮式の夜、若者等はその目出度き家に石塊やら墓地に落ちた茶碗かけなど、忌はしきものを投込む風がある。又翌年五月しりたたきと唱へて、家中の子供が各々手に菖蒲もて作りたる叩き棒（五月の菖蒲刀の如きもの）を以て、前年五月節句以後に婚姻せる婦女の尻を打ち廻る。それが爲に婦女等逃ぐるときは其家に亂入し、父母でさへもこれに對することは出來ません。故に嫁は辨當持參で藏の中に逃込み、内より堅く鎖して此一日を過すと云ひます。又町家にては正月十五日に同樣のことをするさうです。

△處女は共有　美作國勝北郡遂　一村の處女は若者等の共有物の如き習ありて一處女が若し嫁せんとする時は、此事を先づ若衆頭に屆出で、全村の若者はこれについて協議の結果、許可するを例とします。若し此例に從はざれば、若者より亂暴を受けます。よし婚約成りてより當日は『契り式』を行ふ、此時は室の障子を閉ちて、一村の若者等は前庭に整列し、其上に座し、婚式終る時、一度に障子を開き、酒を飲みながら婚式を見物するといふことです。

△新夫を胴上　相模國大住郡公所村にては、毎年大晦日の晩、其年内に結婚せし新夫新婦を迎へる奇習があります。先づ一場所を選び筵を張り、席を設けて、村内既婚の若者等は、生藁一束計りを取り『打ちもの』を作り、衆人の面前にて新婦の尻を打ちます。打手は二人で一緒を打ち、一人各五度に限ります。これは新婦に取りては一度は免れざることです。亦打手は其婦人が平素交情の度の如何によつて稍々殴ち度の差あるさうです。此の新夫は一同の若者に胴上されて、田圃の小な溝ざ廻され、時によると隨分ひどい目にあつて、水溜の中などに落されて、全身泥まみれにされ、果ては殆ど死に至るほどの事もあるさうです。近頃は大變少なくなつたやうです。此式を見物する爲に近隣四方よりの群集は山をなします。

△凶禮を用ゆ　信濃國佐久郡邊にては、新婦の夫家に入り來る時、門内にて同道の媒妁人及び近親の人たちと分れ、媒妁の婦人に誘はれ、勝手口に至りますと、そこには留守番女等數の松明を持ち、左右に立ちて新婦を迎へます。新婦は其間を通り敷居を跨ぎ床に昇らうとする時、かねて待構へたる家婢は冷水一椀を盆に載せて新婦に呈します。新婦はこれを受けて待婚禮の席につきます。先にお明を持ちし男女は席上に雌蝶雄蝶の銚子を取ります。然して松明は一時の通途後束ねて燒き捨てます。同地の人の說によれば、新婦の嫁するは父母の家に死し、夫家に生るゝわけで、父母の家を出しより、夫家の勝手口に至るまでは、凶禮を用ひ、そこに冷水を呑み、始めて蘇生し、それより吉禮に從ふわけださうです。

謹賀新年
元山府石隅洞
咸鏡農工銀行
電話三三六番
元山本町一丁目
朝鮮銀行元山支店
電話一一番
元山春日町
十八銀行元山支店
電話一八番

謹賀新年
元山港
旅館 愛媛館
電話二三三番

謹賀新年
名譽金牌受領
朝鮮唯一の安州炭
▲安州炭は朝鮮特産の半有煙炭にして瀛罐其他一般工業中に適する廉價なる燃料なり
▲安州炭は煤煙少なき爲め『ストーフ』溫突に使用して室内の清潔を保ち煙道掃除の煩なし
▲安州炭は木炭代用をなせば便利有益にして家庭用には理想的なる好燃料なり
明治鑛業株式會社朝鮮支店
安州炭鑛
販賣部
安州郡立石面新里（電信開通）安州炭鑛新安州貯炭所
滿州江口岸 安州炭鑛販賣所
平壤本町（電話一二六番）石炭商 安州松本商店石炭販賣所
鎭南浦三和町（電話三〇〇番）
京城大和町一丁目（電話九五五番）白上商店
右數量の多少に不拘御注文の程願上候
附告
▲朝鮮鐵道各主要驛所在地に於て安州炭特約販賣希望の御方は御相談に應じ可申候
▲京城平壤鎭南浦には特に當社經營の内地産豐國明治赤池多久の各炭種多量常備御高需に應可申候

謹賀新年
平壤電氣株式會社

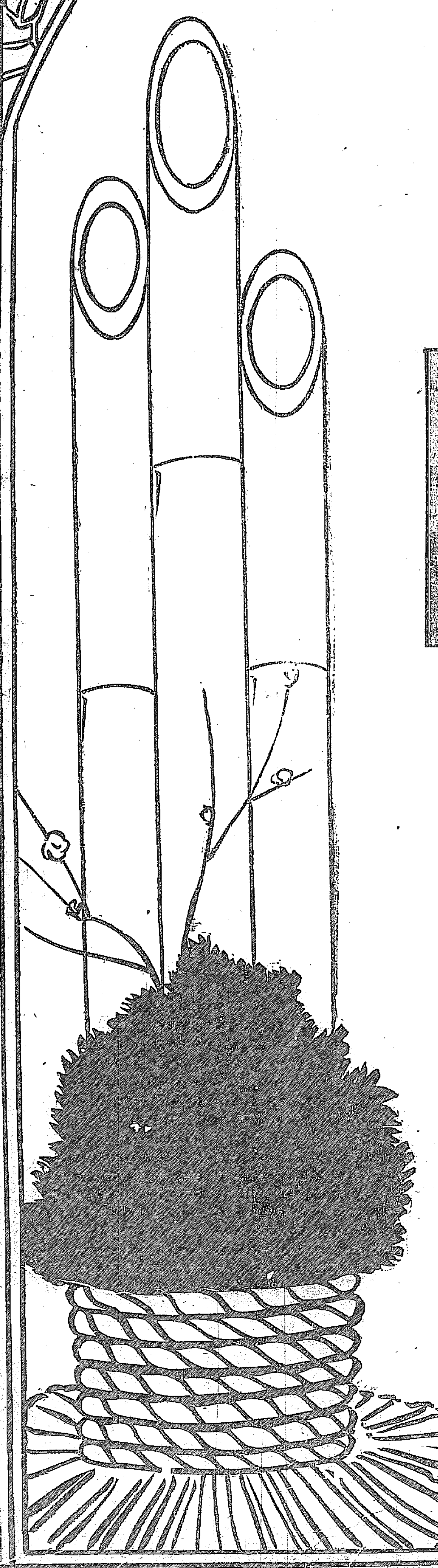
謹賀新年
長朝農工資金貸付一般銀行業務
平壤
株式會社平安農工銀行
振替貯金京城一二三三番
電話長一五五、一二三〇番
大和町支店 電長四五三
支店 鎭南浦 海州 沙里院 安州 寧邊 博川 義州 新義州

謹賀新年
平安北道廳
川上常朗
尹炳甲
泰秀作
松本誠
佐藤政治郎

謹賀新年
土木建築請負業
中平工業所
中平岩藏
平壤本町
電話五四九番

謹賀新年
撫順炭
平松亮三
平壤本町
電話一六一番

謹賀新年
安東縣六道溝
鴨綠江製材無限公司



賀正

名譽金牌受領記念大景品附大賣出し

景品方法

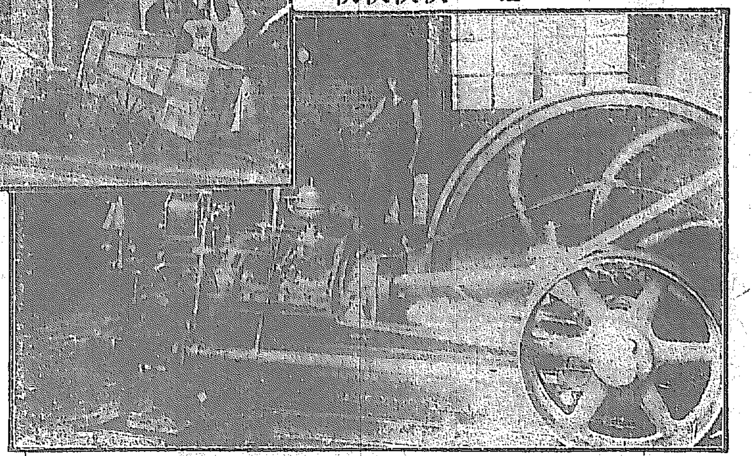
賣出品中何れの品にても一包中に各品名入りの抽籤引換券一枚宛封入して有ますから左記枚數に達しますれば一枚の抽籤券と御引換を願ます今回の賣出は從來の方法とは其趣を異にし一ボール分に達して一枚の抽籤券を得られる故御忘れなき樣御注意を乞ふ

●金剛 二十枚 ●しらぎ 二十枚 ●日本兜 四十枚
●百圓 三十枚 ●十圓 四十枚 ●一圓 廿五枚
●菊水 二十枚 ●八島 二十枚 ●スワン 五十枚
●神代 二十枚 ●二鷹 二十枚 ●常盤 四十枚
●コンクスト 五十枚

◈賣出品名

▲金剛 ▲壹園
▲しらぎ ▲菊水
▲カブト ▲八島煙
▲百圓 ▲スワン
▲十圓 ▲神代
▲二鷹 ▲常盤
▲コンクスト

賣出期間 大正五年一月十五日迄



上 廣江商會及分工場

下 廣江商會工場機械室

景品種目

特等	二本	十八金側時計（ウォルサム會社製）	一個
壹等	十七本	額面十五圓債券	一枚
貳等	五十本	額面五圓債券	一枚
參等	四百本	莫大小シャツ	一枚
四等	七百本	巻煙草入	一個
五等	千五百七十本	靴下	一足
六等	二千四百本	西洋手拭	一本
七等	三千三百本	金剛煙草	一包
八等	五千五百本	しらぎ煙草	一包
合計	一萬三千九百三十九本		

抽籤券は最寄御買付けの小賣店にて御引替被下度候

抽籤施行日 大正五年一月廿五日

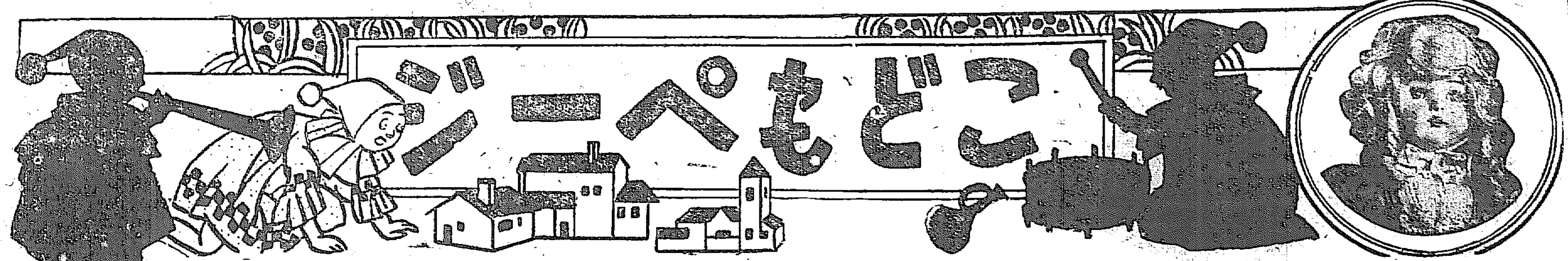
景品引換期日 自同五年一月廿五日 至同五年二月末日

捲煙草製造元

廣江商會

京城日報 新年號

第六



お伽噺 小蛇將軍

鬘のおち樣

■はしがき

『お母樣、妾れ、すぐにお嫁樣に成りますのよ、お女中になるのは厭やなの。』花ちやんが或時そう申しました。何を言つてるのかと思つてよく〳〵訊き正して見ますと花ちやんはお嫁樣に成るには一度女中に成つてからでないと成れないものだと思つてたのです。

『太郎さん、貴方大きくなつたら何になるの？』そう聞かれるさ太郎さんはすぐに肩を怒らせて『僕は大將に成るんだ』と申たます。太郎さんは大將に成るには少尉から中尉に成り大尉に成りして段々に進んで行く事を知らないのです。此花子さんと太郎さんがおぢ樣にお噺しろ〳〵と八ケ間しくせがみ立てますのでおぢ樣はお正月になつたら面白いお噺をすると約束致しました其お噺が是なのです

一、二萬二千年

今年は辰年でせう、辰と云ふのは龍の事なのです、龍ツて言ふのは蛇が出世したのです。蛇が豪くなると龍になれるのです。丁度花ちやんがお嫁樣に成つたり、太郎さんが大將になつたりする樣に、小蛇が龍になるのです、花ちやんも太郎さんもお母樣やお父樣の言ふ事を聞いてよく勉强しないとお嫁樣にも大將にもなれない樣に、どの蛇も皆龍になれるとは限られないのです百萬も千萬もゐる蛇の內で一番豪い蛇が唯一匹龍になるのです。

海に千年、山に千年、河に千年、沼に千年、其れから森と野と其他いろ〳〵の處に千年宛、都合一萬二千年の間苦しい思ひや辛い思ひをした末に其內から一番豪い事をした一匹が龍になれるのです。

其試驗が十二年目に一度宛あります、其れが辰年なのです。だから今年は其試驗があるのです。試驗と言つても花ちやんや太郎さんの兄さん姉さんが學校で受ける樣なのと違つて、一萬二千年の間生きて難行苦行をして來た蛇のうちから一萬二千年の間に何の蛇が一番豪い事をしたかを檢査するのです、其試驗をするのは龍王なのです。龍王が龍宮にゐる事は花ちやんも太郎さんもよく知つてるでせう。浦島太郎が行つた處で乙姫樣のゐる處なのだから――。

二、登龍宮の登龍式

此處は龍宮の入口です。登龍門と書いた額の揭げてある門の上には、丁度昔の支那の旗の樣な旗が澤山翻つてゐます。番兵もゐます。護衞兵もゐます。其れが皆蛇なのです。ニョロ〳〵ニョロ〳〵盛んに蛇が其門を入つて行きます。いくつも〳〵門を通つたり殿堂をぬけたりして一番奧まつた大宮殿は其上に登龍壇と云ふ壇の築かれた登龍宮なのです。何百何千何萬何億何兆……とまあ到底人間の數では數へられない位の澤山の蛇が集つてゐます。眞黑な烏蛇や黃い斑のあるのや赤い縞のあるのや、さうかと思ふと尾の先に鈴の樣な玉のついた響蛇―ガラ〳〵蛇―だの蝮だのハブだのゐます一段高くなつた處には龍になつた豪い許りがゐます。雲を卷き起す龍だの、船を覆へす海龍だの、翼のあるのや山の樣な大きなのや……そして今年龍になる一匹がどんな蛇か其發表を待つてゐます。

軈て龍王は眞中の立派な椅子に腰を据えました。其側には一匹の見るも無い小蛇がゐます。是れはいつもの例で新に龍になる蛇は斯うして龍と蛇とに紹介されるのです。だから龍も蛇も此見る影もない小蛇が龍になる事が不思議で堪りませんでした。王は其金の條の樣な鬚髯を撫で上げた上咳一咳して申しました。

『俺は今此處に一眷屬を皆の者に紹介する事を悅ぶのぢや。堂々とした立派な姿を持たなくても、雲を捲き雨を復す力が無くても龍には爲る事が出來る。其れは智慧と仁義と勇氣の備はると云ふ事ぢや。』

其外龍王は長々と其考を叙べ立てました。『一體蛇と云ふと一概に惡く思はれる事は甚だ殘念な事だ。殊に人間の社會では我々眷屬が此世に生れ出るとすぐから目の敵にしてゐる是れは我々の姿も醜い譯だが人間の考へも間違つてると思ふ。何とかして此人間の考を取消してやり度いものだとは我々の長い間思つてゐた事であつた。』

三、獨軍大攻擊軍

龍王はかう長々と話しました。そして傍の小蛇を指して

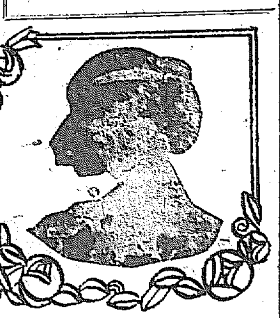
『俺は今日から此一小眷屬の策を容れて人間に對する我々仲間の名譽恢復をやる事にした。』

蛇共は一齊にニョロ〳〵と此新龍に敬禮して御辭儀をしました。そして龍の書記官が進み出て恭しく一卷の卷物を取出して讀み上げました。

『今や人間世界には天下分目の大戰爭があつてゐる。是れと云ふのも皆カイゼルと云ふ男が自分勝手な事をしようとしてゐるからだ。若しもカイゼルが勝つと我々仲間は人間社會は眞闇になる。我々の仲間の者は今日から直ぐに獨逸を亡ぼしに行く事になつた。是れは龍王の御命令だ。』

さう讀んでしまつた後で又更に今日龍になつた小蛇を總指揮官に命ずと云ふ命令を小蛇に渡しました。そこで小蛇は恭しく立つて其御禮を申上げました上で、自分の考へてゐる攻擊策を演說しました。其れに依りますと、飛行機や飛行艇を攻擊する一隊、潛水艇を始め水雷艇や潜航艇を攻擊する一隊、陸軍を打つ一隊、カイゼルを病氣にさせる爲めの一隊……などいろ〳〵ありました。

花ちやんも太郎さんも每日お父樣や兄樣によく伺ひして新聞にそんな事が無いかをお聞きになつて御覽なさい。乾度何か出て來ますから。



賀正　西崎商會　京城西小門町　電話七二七番

賀正　曾我商會京城出張所　京城南大門通り五丁目　電話二六八番

賀正　松原商店（松原築藏）　京城南大門通り三丁目　電話二一八三番

賀正　大正足袋京城支店　京城本町三丁目　電話一八六五番

賀正　岩城馨商店　京城旭町一丁目　電話八四二番

賀正　梶原商店（梶原末太郎）　京城本町三丁目　電話三六七番

賀正　增田商店（增田利作）　京城本町二丁目　電話四二五番

賀正　荒木藥房　京城本町一丁目　電話一〇六二番

賀正　村山商行　京城明治町一丁目　電話一〇五一番

謹賀新年

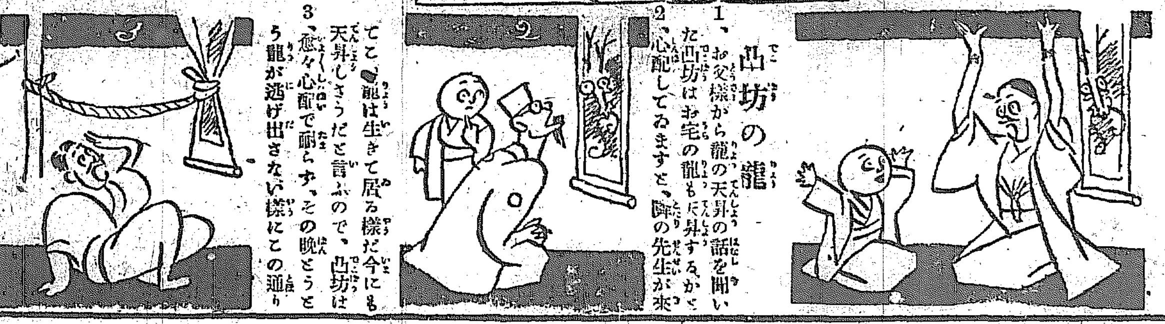
京城醫會

池田病院（內科・小兒科）　岩崎虎雄　池上醫院（內科・小兒科）　伊藤耳鼻咽喉科醫院　今村醫院　石川醫院（內科・婦人科・小兒科）　今本醫院（內科・胃腸病科）　爲春堂醫院　飯塚齒科醫院　二宮產婦人科醫院　本田眼科醫院（小兒科・內科）　德濟病院　中央婦人病院　小川醫院（內科・小兒科）　和田外科病院　若槻醫院（內科・小兒科）　金井眼科醫院　川崎朋子（女醫）　漢城病院　高井醫院　多々見醫院（內科・小兒科）　鶴田外科醫院　中島耳鼻咽喉科醫院　中村病院（內科・小兒科）　村上醫院　宇野天壽堂醫院

山口醫院　矢崎信重　松本診療院　松岡醫院　京城婦人病院　京城醫院　舟津醫院（贊化病院內）　小林醫院（內科・小兒科）　弘仁堂醫院　江頭眼科醫院　安東醫院　安藤醫院　安商浩（皮膚病・花柳病）　贊化病院　佐藤病院　佐々木胃腸病院　酒井婦人病院　宮地醫院　瀨戸島醫院（外科・皮膚科・花柳病）　杉本醫院（外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・花柳病）　須古醫院　山田醫院（內科・小兒科）　上野醫院　淺川醫院（內科・外科・婦人科・小兒科・產科）

謹賀新年

朝鮮銀行



謹賀新年

花莚業

京城漢芝面

早島物産商會

電話長二三八八番

謹賀新年

和洋紙販賣

朝鮮京城南大門通二丁目

㊀ 土佐紙株式會社京城支店

電話長三一五番 電略(〇一)
二二七〇番 振替京城八五九番

印刷製本

謹賀新年

▲良品は經濟なり
▲我社の製革は强靱にして舶來品を凌ぐ
▲我社の製革は堅牢にして耐久力に富む
▲而して其價格は頗る低廉なり

朝鮮永登浦

朝鮮皮革株式會社

京城南大門通り一丁目

朝鮮皮革株式會社販賣店

電話一〇八二番

謹賀新年

京城酒商組合 (いろは順)

京城永樂町二丁目
一鶴發賣元
本莊酒店
電話[illegible]

京城永樂町二丁目
富の壽
菊世界發賣元
富安京城支店
電話[illegible]

京城南大門通二丁目
清酒金露長春
釀造發賣元
大塚京城支店
電話[illegible]

京城本町三丁目
菊正宗 白鶴
二羽鶴 澤龜
大日本誉特約店
田中支店
電話七六四番

京城明治町二丁目
櫻正宗
櫻魂發賣元
山邑京城支店
電話[illegible]

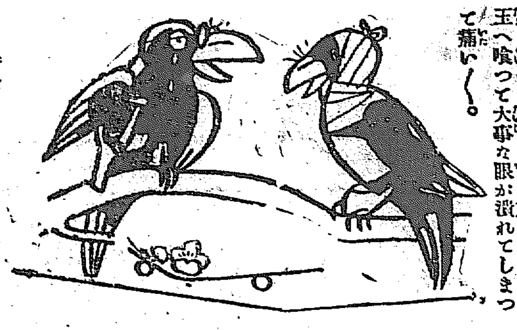
京城本町二丁目
菊正宗 白鶴 白鹿
金露 折鶴 正宗
參酒特約店
前田酒店
電話[illegible]

京城黃金町一丁目
金釜、銀釜、富久娘、稻正宗、比翼鶴、楠正宗、加茂正宗、花鳥移入發賣
サッポロビール特約店
三巴商會
電話[illegible]

京城南大門通三丁目
百合正宗發賣元
百合正宗京城支店
電話[illegible]

京城本町二丁目
清力正宗發賣元
清力京城支店
電話[illegible]

京城黃金町二丁目
有薰發賣元
首藤支店
電話[illegible]



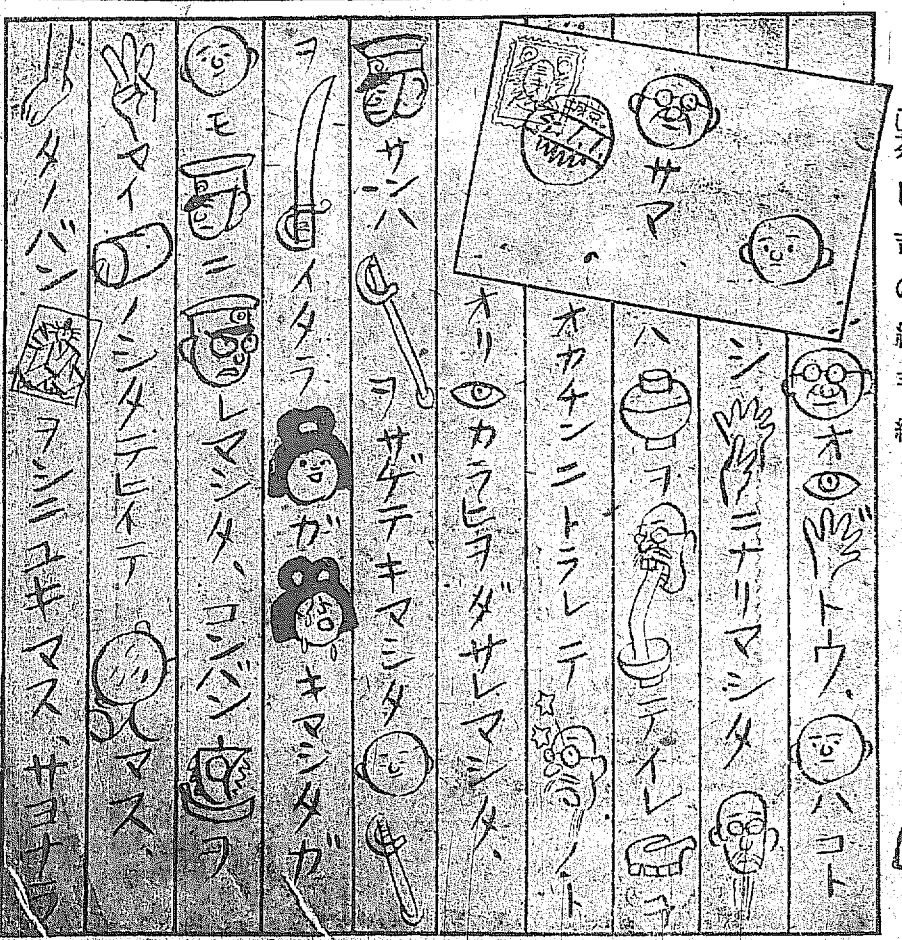
太郎さんこかるた

太郎さんとかるたをすると、兄さんでも姉さんでも滅多に太郎さんの札が取れません、不思議だと見ると、太郎さんの札は疊にのり付けでした。

手袋

『紳士の伯父樣は無禮千萬だわね、お正月でも手袋を穿めて居るわ』『へ……だつて私は昨日迄仕事をしてゐたんですもの……』

茶目吉の繪手紙



謹賀新年

鐵道局承認貨物運送取扱

京城運輸組合

電話一四九〇番

中村運送店 電話二三〇番
協同組運送店 電話一四三番
河村運送店 電話一七九六番
友田運送店 電話三〇一七番
朝鮮運輸會社 電話一二八二番
華興公司運送店 電話二四七三番
三光運送部 電話六二九番
朝日組運送店 電話一九一二番
近藤運送店 電話一二五九番
川井田運送店 電話六七二番
中條運送店 電話九七九番
松原運送店 電話四七四番 ／ 電話一一七〇番

謹賀新年

三菱合資會社朝鮮賓炭總代理店
英國サン火災保險會社代理店

泉商會

京城南大門通三丁目
電話四三九〇番

謹賀新年

地方常設特約御希望の方は便宜御相談に應ず。

日本活動寫眞株式會社滿鮮地方部
京城櫻井町二丁目

新田演藝部（電話五百七十番）

營業主 **新田耕市**

直營 京城**大正館**。仁川**瓢館**

特約 京城**優美館** 平壤**櫻座** 元山**壽館** 釜山**寶來館** 大邱**錦座**

◎**新春劈頭の特撰大寫眞**

日活會社苦心の大傑作 尾上松之助市川延一郎合同大一座

◎**舊劇** 桃山御殿血天井 **地震加藤** 全四卷

英國ヒクペン會社移入品

◎**泰西大活劇 一等運轉手** 全三卷

●正月五日間は午前十一時ゟ晝夜三回開演

櫻井町 **大正館**

謹賀新年

仁川本町一丁目
朝鮮銀行仁川支店
電話一二番・三二二番 長距離京城三四〇番

仁川本町二丁目
十八銀行仁川支店
電話四一八・二九一番 長距離京城三六七六番

仁川本町二丁目
百三十銀行仁川支店
電話五八・二〇一番 長距離京城五一二番

仁川本町三丁目
朝鮮商業銀行仁川支店
電話八・四一〇六九番 長距離京城二一番

謹賀新年

仁川病院
電話一六番

內科主任 廣瀨併二 電話六〇九番
外科主任 鶴田秀穗
眼科主任 荒川正雄
耳鼻咽喉科主任 山田宗左
產婦人科主任 三輪敏
齒科主任 飯塚喜四郎
藥劑部主任 川崎藤太郎
庶務會計主任 眞崎季正
醫員 伊東種三
看護婦長助產婦 古屋ヤスノ

謹賀新年

營業科目
沿岸帆船並に解船取扱
鐵道承認貨物取扱
免許稅關貨物取扱
穀物斗量人夫請負
三井物產株式會社專屬荷扱
スタンダード石油會社專屬荷扱
不二興業株式會社專屬荷扱
奥田精米所專屬荷扱
朝鮮鐵道運輸聯合加盟店

朝日組本店 仁川本町四丁目
川手今吉 電話五二九番（了）・振替一六一一番

朝日組京城支店 京城南大門驛前
仁川稅關構內出張所（電話五一六番）
檜崎伊勢吉

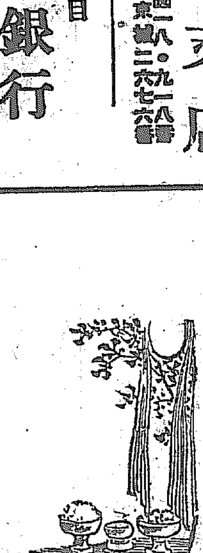
朝日組出張所 鎭南浦西六丁目
電話一五九番 振替口座京城二六三七番（電話三三番）

謹賀新年

會席御料理
仁川仲町 **朝日樓本店** 電話五三三番
仁川濱島 **朝日樓支店** 電話二三三番

謹賀新年

仁川ホテル 電話五二一番



阿波國共同汽船株式會社

本社 德島市中洲
出張所 大連市監部通り

各港代理店
大連 芝罘 仁川 元山 城津 清津 浦鹽斯德

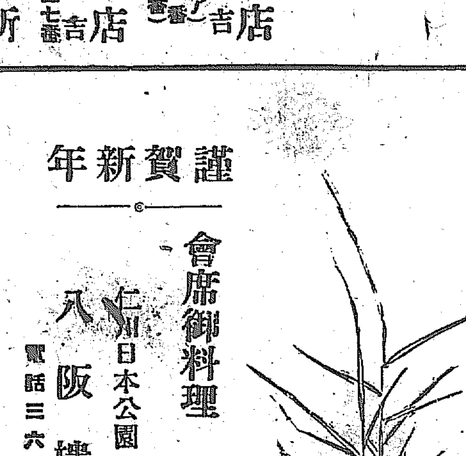
謹賀新年

登錄商標 石拔手選 **擦精磨白米**
於大共進會金牌受領

仁川本町二丁目 **奥田貞次郎商店** 電話五一番
仁川山手町三丁目 **奥田精米所** 電話六〇八番
大連岩代町 **奥田精米出張所** 電話四八五番
東京神田區佐久間町三丁目 **奥田出張店** 電話下谷四六五二番

謹賀新年

會席御料理
仁川日本公園
八阪樓
電話三六番



謹賀新年
京城鐵路道一丁目
東洋生命保險株式會社
電話六五一番

謹賀新年
京城
南山商會

謹賀新年
昨年中は格別の御愛顧を蒙り難有御禮申上候
尚本年も不相變倍舊御引立の程伏而奉希上候
大正五年一月元旦
洋酒洋食料品直輸入商
キリンビール發賣元
株式會社明治屋京城支店
京城本町三丁目三番地
電話二二番一七二三番
振替貯金口座京城四四番

謹賀新年
商品種目
▲砂糖麥粉
▲サクラビール
▲サクラタイヤ
▲森永製菓子
京城長谷川町三丁目
中島京城支店
電話四九六番
龍山元町二丁目
中島出張所
電話三五二番

謹賀新年
京城明治町一丁目六六番地
建築請負業
辻萬八

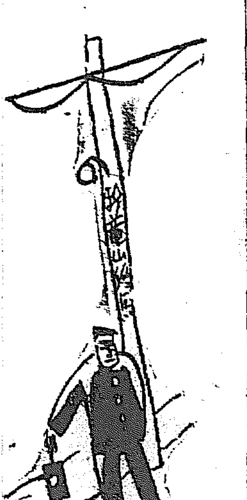
謹賀新年
京城本町二丁目
巴城館
電話三五〇七一番

謹賀新年
京城昌德宮門前
毛織物洋服調進商
角田支店
電話二八九番

謹賀新年
京城新町遊廓
組合員一同

京城日報 新年號

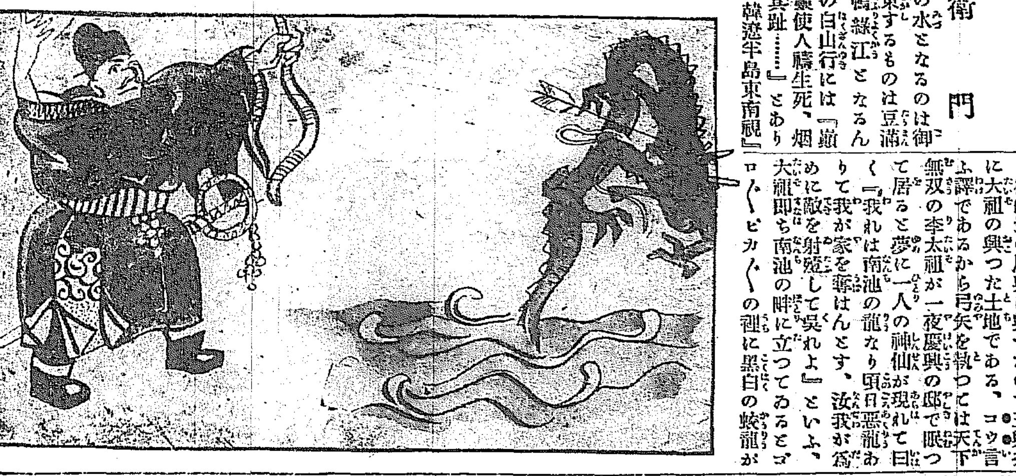
第七



朝鮮龍づくし

辰衛門

『新年お芽出度う』『新年お芽出度う』『大正五年の丙辰年は隨分景氣が好さ相ですな』『ハア、好さ相です』『一ツ辰年に因むで芽出度い處を一席伺ひませうか』『伺ひませう』『エ、ツト、私の友達に原野辰也と云ふ男が居りましてな』『ヘ、イ原野辰也は餘り芽出度相でもごあせんせ』『ハ、ア然らば本町通り龜屋の主人公、進辰馬氏は如何でせう、まだ〳〵ありますせ、理科大學講師朝鮮總督府囑託人類學者鳥居龍藏先生から性相學者石龍子、李王職事務官村上龍吉氏、朝鮮漢城銀行專務韓相龍氏はどんなものでせう』『否、なか〳〵面白い、併し辰つた其れ丈けでは物足りませんな』『宜しい、其れではお待ちなさい、細工は龍々仕上げを御覽じられませうかな』『ハ、、、あなたも下らぬ駄洒落を云ふ人ですな、お話とあれば一つ奇抜な處で始政五年共進會最高名譽金牌といふ奴を一つ願ひませう』『宜しい、辰は龍に通ず卯は兎に通ずるが、今年は辰の龍ですな』『如何にも辰年の龍でごあすな』『ハ、ア、然らば手近い處で龍山は如何でせう、龍山は昔し龍山浦と稱し漢江の舟著き場なりしが、內地人の此の地に移住せしは明治二十年前後にして、日淸戰爭に至り戶口に漸く增加し、更に明治三十七八年役戰勝の餘波は、突如として一大市街となり、駐劄軍司令部は素より、師團司令部、鐵道局、總督官邸、練兵場あり、一度に朝鮮二箇師團問題の師團所在地として流產せしが、大正四年は案ずるより產むが易く師團と決まつて大繁昌なり』『成程、併し丸き案內記其儘の文句ですな、モ少し面白い處を願ひませうか』『宜しい、それでは一足飛びに白頭山上の神龍潭に參りませう、神龍潭は白頭山頂の湖水にして、周圍約二里半、削り立てたる如き斷崖絕壁に圍繞されて、四時雪を絕たず、其の北に流るゝ瀑布は大松花江の源となり、露西亞女郎衆の紅鐵漿化粧の水となるのは御承知の通り、更に東するものは豆滿江、西するものは鴨綠江となるんである、國友陸軒の白山行には『巓有深潭龍所止、奇靈使人驚生死、烟霧湧其裏、雷霆走其趾……』とあり『滿蒙大野西北指、韓遼半島東南視』と言うて居るが湖畔には昔し一人の仙女が居つて、それが鳥の啄みたる木の實を食し孕むで產んだのが滿朝の大祖愛親覺羅の先祖であるといふ爲めにも何か出相なものであるが、最近見て來た人の談では、折惡しく近頃袁世凱皇帝の孕み相な仙女も居ないとのを、尤も湖水には昔しから五色の魚が居ると言ふまで昨今では此處にも新らしい魚が出來て大に自覺したやつも出來たといふをであるんである『否、これは面白い、龍山から白頭山に飛ぶあたりは飛行機も裸足ぢや』『面白うごわすかな、然う見えても私お博學ぢやからな』『否、全く、博學ぢやお次を願はう』『宜しい、次は龍城の平野ちう事を御承知かな、龍城の平野は朝鮮の歷史にやかましい處、咸鏡北道の淸津港から大軍營地羅南に越く間、砂ッ原の輸城平野が其れである、苟も朝鮮の國防を論ずる者は誰れしも此處を閑却する事の出來ぬ處であつて、現に日露戰役に於ても我が北關軍は此處に露兵と衝突し、今の淸會線に沿うて國境會寧に進んだのである、而して五百年前大宗の時に當つても、李朝の軍が大に北狄と戰つた處である『次は慶興龍池の故事に行かう』咸鏡北道の國境豆滿江岸に沿うた慶興に、今でも餠の大きな奴が澤山溜れる龍池といふのがある、これは李朝大祖李成桂の武勇傳に是非一席やらねばならぬ所であつて、大祖は今の咸鏡南道永興に生れ咸興で育ち後國境の慶興に興つたので三興共に大祖の興つた土地である、コウ言ふ譯であるから弓矢を執つては天下無双の李太祖が一夜慶興の邸で眠つて居ると夢に一人の神仙が現れて曰く『我れは南池の龍なり頭白惡龍あり我が家を奪はんとす、汝我が爲めに敵を射殪して呉れよ』といふ、大祖即ち南池の畔に立つてゐるとゴロ〳〵ピカ〳〵の裡に黑白の蛟龍が摑み合つてゐる、併し何方が南池の龍やら判斷が着かぬので止むを得ず家に歸ると其晩また神仙が現れて曰く『我れは南池の龍なり、白い方が我である』といふ其處で翌日又復南池に出かけてナンチも同じ所で見てゐると果せる哉又二頭の龍が、ゴロ〳〵ピカ〳〵の裡に摑み合ひを始めた、大祖即ち弓矢おつ執りはつしと許り射たりければ黑龍は忽ち天地を鳴動させて死し、白龍は蒼嚴の大ニコ〳〵、大祖もお陰で半島を平定したといふのである』『否、これはなかなか面白いあんたも其稈の物識なれば神田伯龍の弟子入りが出來よう』



新年文藝

□和歌□

一等　群山竹城里　山城錦川

大君の御座に立しゝよき年の年重ねつゝ祝ぎ奉る

二等　京城南米倉町一六四桑原方　香阪兼夫

またさらに國の光りのまさる哉あまつ日嗣のみのり終りて

同　本町一丁目五二　渡邊武

四方の海いかに嵐のすさぶともうごく世あらじ浦安の國

三等　京城黃金町三の二四三　河內山はたを

治めます國も年ごと賑ひていよよ榮ゆく君が御代かな

同　京城元町二丁目引六　中村半助

外國の曇れる空はすめ國の光ならでは晴れ渡るまじ

同　京仁鐵索砂　福崎はる子

新帝立たせ給へる御代の春祝ふ民人國の榮えを

秀逸

四方の海仇波風に荒めども神の御勅の國は靜けき　京城　副島明卿

西の海波さわげどもしきしまの大和しまれは動かざりけり　京城　西貝正周

千代も曇ることなき日の御旗實に日の本のしるしなりけり　京城　小川錦補

皇の我が大君のおはします國の御旗に逢ふで嬉しき　京城　大崎寛

曙や日の本なれば此の國はよろづの國に光り輝く　京城　高橋榮明

外國のゆるぎいやます世なりしを大和島根はさゝ波もなし　忠南　神崎多願子

としく〳〵に外國人も靡かむわかひの本の開けゆく世に　水原　高橋靜代

旭うけさずかに國の御光は神世ながらに千代も八千代も　京城　久保田天南

內外の大海原の新潮にいや照り榮ゆる天津日の影　京城　千草女

おのころの島根に幾も若さびて初日長閑き御代を仰ぐらむ　京城　吉武貞世

日に月に民のかまどの賑ひて御代の榮えも限しられず　仁川　碧影生

■西洋馬車の輸入　馬車は六七世紀の頃英國で發明されたと云ふが詳かでない初めは簡單なものであつたのだが次第に改良を加へられ千八百二十五年イギリスのマカダムと云ふ道路改良家によつて頗る完全なものになつたと云ふのが信ずべき說の樣である彼の彈機鐵込丑衣など用ゆるものは何れも西洋で發明されたのである支那では古くから有つたので驃馬に鞍うつなど云ふ語もある、我が國では古から馬に牛車を牽かせる事は行はれたが貴人が牛車に乘る外乘用馬車を用ふる事は無かつた、外國と交通するに及んで西洋馬車が輸入され其を用ふる樣になつた、安政條約後開港場に居留せる外國人間に使用されたのが嚆矢かも知れぬ

謹賀新年

醬油の撰擇を誤るは年中の損
試み給へ關東唯一の絕品キハク醬油
釀造高全國に冠たり年額六萬二千石
最大の釀造高は最大の購買力に基けり
最大の購買力は品質優越の證

最上　醬油　（キハク印）

下總國野田町
茂木七郎右衛門釀造
特約店
明治町一丁目
牧野商店
電話二五三番

謹賀新年

株式會社 漢湖農工銀行　京城南大門二丁目　電話五二七番 五五五番 六一六番

株式會社 朝鮮商業銀行　京城南大門通一丁目　電話六五番 八一八番

株式會社 漢城銀行　京城南大門通一丁目　電話二八六二番 三三九番 六四六番

株式會社 韓一銀行　京城南大門通一丁目　電話六一八番 九五三番

株式會社 第一銀行京城支店　京城本町二丁目　電話六一番 一一二番

株式會社 十八銀行京城支店　京城黃金町二丁目　電話五四番 八二番 二三番

株式會社 京城銀行　京城本町二丁目　電話四三一番

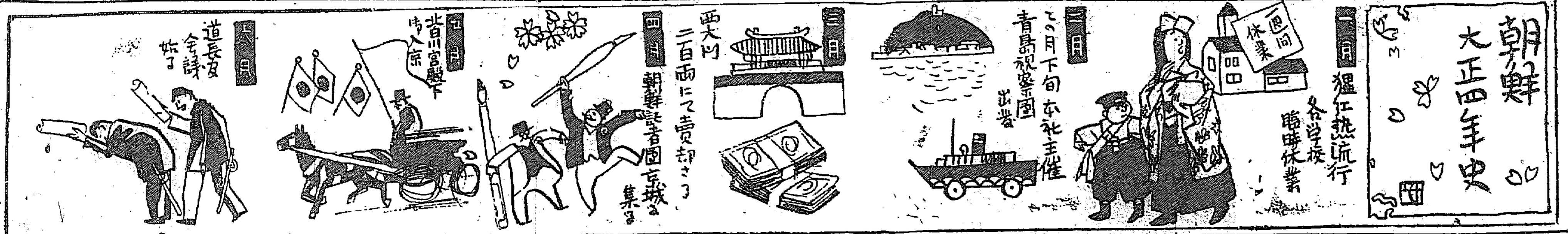
株式會社 百三十銀行京城支店　京城本町一丁目　電話一五番 九八四番

謹賀新年
營業概目　各種艦艇、船舶製造及修理、各種汽罐、其他の諸機械の製造及修理、汽車汽罐車、電車車輪新造及修理、鑛山用機器一切新造及修理、油房用豆油豆粕製造機械の製造及修理、鑄鋼鑄鐵、海難救助
本社　神戶市東川崎町二丁目　株式會社川崎造船所
分工場　神戶市兵庫東尻池村　兵庫分工場
出張所　大連市濱町四十號地　大連出張所
電話七一〇番　電略ドック

謹賀新年
大連起業倉庫
大連山縣通五十二番地（電話一八四番）
庫主　小島鉦太郎
當倉庫は市內山縣通六十二番地六十四番地四十五番地百四十七番地百四十九番地紀伊町五十四番地に於て煉瓦造完全なる建築にて五百坪を有し新式地下庫を設け冬期結氷物を完全に保管致すべく候
當倉庫は低廉なる保管料を以て迅速叮嚀に特に一部出庫には至極便利に取扱可致候
當倉庫は發行の質入證券は銀行の割引を受け得る金融上の便利有之候
當倉庫は埠頭及第二ホームに接近せる爲めに貨物取引積出し等至極便利に御座候

謹賀新年
大連　青島　安東　天津　龍口
定期航路開始
大連汽船株式會社
大連市山縣通り一丁目
電話　九六六六　六四三番

謹賀新年
羅紗、板硝子直輸入
塗料、金物
東京川崎工場製金網滿州特約店
合資會社 加藤洋行
千代田生命保險會社代理店
大連市山縣通四十八號地（電話四二八三番）
本店　天津
支店　北京、營口、長春、京城、大阪



「大正五年」の四字

高等普通學校教諭 黒柳勳

年こゝに新まり大正五年となつた陛下大禮を行はせられて初めての新年であるから朝鮮によく見る囍の字の如く喜の自乗を以て此年を祝せねばならぬこゝに吾人は以上の四字につきて思ふ所をのべて祝意に代たい

大正の二字は一世一元の制によつて先帝陛下崩御の翌日即ち　今上陛下踐祚の當日を以て改元せられた年號であるこの語は易の臨卦彖傳の

大亨以正天之道也といふに

取つたのである臨とはのぞむことで上から下に視る義であつて上の四陰爻（爻とは易の卦の上下にならぶ六つの畫段の稱にして陰とは中の切れて二つになつた爻をいふのであるが上から下の二陽爻（陽爻とは陰爻に對する稱にて中の切れざる長き爻をいふ）を臨み見る象である即ち䷒であるさて臨とは人君が天下に臨御し臣民を監視し政刑を正し貴賤老幼をしてその處に處らしめ各其業を樂みその分に安せしむることで大陽の天より照して萬象皆熙々として樂むが如き有樣をいふので明君上にありて治國平天下の美しき目的を達せられたことをいうたのである誠によい卦ではないか　陛下の御代は正にこの卦の象を實現しつゝある億兆の民昇平靜代の德澤に浴し皇恩を歡び皆良國民の誠を捧げて居る民亦この心を以て司へて居るされどこの卦の裏には大なる戒も含まれて居る即ち人君が天下に臨むにあたり若し微塵ほどでも偏和愛憎があつては大に政に害があるから

貞正にして利しく戒めて居る

夫れ臨は元亨利貞で彖傳に之を解釋して元亨の元を大とし貞の字を正と通せしめ以の字を以て利に解釋して居る即ち卦の元に亨る所以は正しきを以てするにある其正きを以て大に亨るは則ち天道であるからである大正の二字は此外左の出典をも有して居る何れも目出たいもので意も略似て居る

一、周易山天大畜の卦に曰く大畜利貞不レ家食一吉、利レ渉二大川一、彖曰、大畜剛健篤實輝光、日新二其德一、剛上而尚レ賢、能止レ健大正也、不レ家食一吉、養レ賢也、利レ渉二大川一、應二乎天一也

一、公羊傳に曰く君子大レ居レ正

一、雷天大壯の彖傳に曰く大壯利貞、大者正也

一、澤火革の彖傳に曰く文明以說、大亨以正

さて又大正の文字一字一字に離して之を說文學上より意義を求めて見ると誠に面白い

「大」といふ字

說文に亣天大地大、人亦大焉、象二人形一とある如く大の字は人の象形である即人の正面向に立た形で一頭二足二手が明かにかゝれてある人の字は古文亻で大の半形即ち人の立つた側面の象形であるあたかも木の半形爿が今牀將字の偏となつて用ひられ又その半形片は片の字となつて居るやうなものである故に古は人といふ字に大人の古文亣亻の二種あつたわけだ而して此二樣の字の行はれて居たことは左の數例に徵して明である

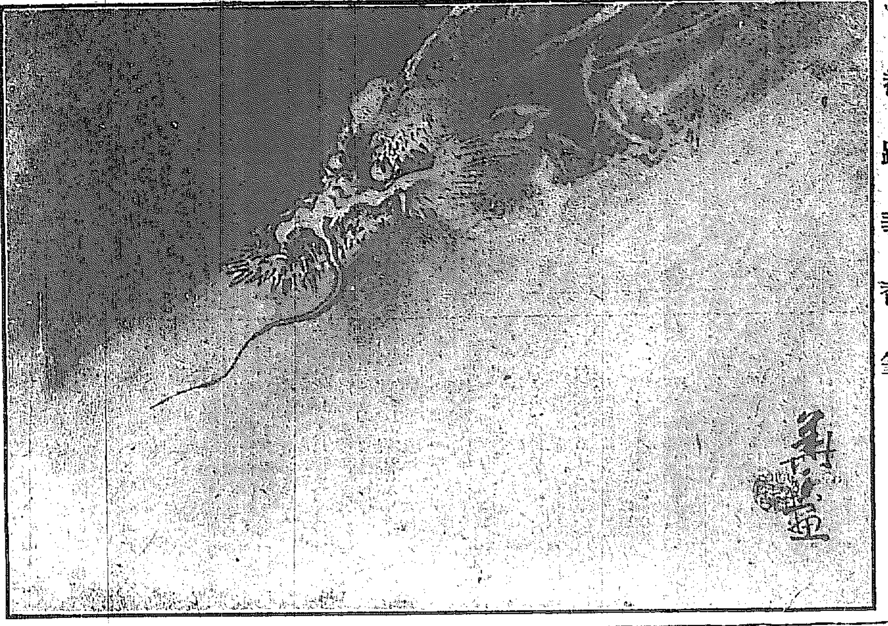
立　立の字である下の一は地平線にして人の地平線上に立ちたる形である（指事）

夫　夫の字である說文に冠而既冠二十而冠成人也と見え上の一は簪をさすと云意である（指事）

文　交の字である說文に交脛なりと見えて居る即ち人の脛を交へた象である（指事）

天　天である人の上に一なる想像の線を加へて天といふことをあらはした字である（指事）

さて宇宙間に於て天地人の三才が最も大なるものである



都路華香筆

古人が大といふ觀念に對し

此三者を捉へ天大地大人大といへるは未開の頃の人智としては上出來である故に大といふ字の創作に就て先づ天といふ事を思つたに違ひないが天は容にして象ることが出來ない次に地に思ひ至つたがこれ亦複雜にして象ることが出來ないそこで人を以て大を表はすことにした故に大は六書の中の假借に當る文字でその義に借りて大の字となしたのである故に初の間は此亣に人と大と兩樣の義があつたに違ひないが遂に其本義である人といふ意が忘れられてしまつた宛も人に軒をかして遂に家まで占領せられたやうなものである文字の中にはこの樣なものは往々ある

現今我國の形勢を見るに明治の半頃から我國民の大くなつたことは實に驚くべきほどである洋中の一孤島に蹐跼して居たのが大陸を濶歩するやうになり臺灣に樺太に朝鮮に手も足も届き滿蒙にも手を出し我々の足の響きが世界につたはるやうになつて歐米人に比肩し得るは勿論今や戰に疲れたる諸國に對し耿々雄視するの大人となつた子供あつかひにした歐米人をあべこべに子供扱ひにするの時は將に至うとして居る此時に當り

人字なる大字 大字なる人字

吾人豈一の希望抱負なくしてよからうかそれと同時に雙肩にかゝる責任を思はずしてよからうか搦又大字には左の意味がある

（イ）小に對していふ意莊子に不レ同レ之前レ大又老子曰く道大天大地大人亦大、法レ地地法レ天天法レ道と

（ロ）多しの意漢書に何奴必以レ晉爲二大軍之誇一とある

（ハ）長しの意莊子に小年不レ及二大年一と見ゆ

（ニ）甚しきこと史記に大風起兮、雲飛揚とある

（ホ）肥美也儀禮に士盞二燕盞一、皆有二大一、贊者辨三取燕盞之大一以治レ賓、註に大以二肥美者一特爲レ禮所二以祭一也と見ゆ

（ヘ）ゆたかなること易に大哉乾元、萬物資始と見ゆ

（ト）高し即ちすぐれたる意戰國策に無レ大二大王一とある

（チ）初めの義禮記に天子視レ學大昕鼓徵と見ゆ

（リ）强勢なること左傳に國小而偪、族大寵多とある

（ヌ）尊きこと富めると孟子に說大人則レ藐レ之と見ゆ

（ル）あまねきこと荀子に夫是謂二大化至一一と見ゆ

（ヲ）逞しきこと立派なること唐書に骨利幹處二澣海北一、産二良馬一、筋骼壯大、日中馳二數百里一とある

（ワ）常ならぬこと容易ならぬこと。史記に項氏世々將家、有レ名二於楚一今欲レ擧二大事一とあり

（カ）年長けたること大人少年の義にて知るべし

（ヨ）系統上に一級を加ふること史記に李少君見二九十餘老人一、言下與二其大父一其遊射處上、一座盡驚とあり

（タ）美稱に用ふる大日本大英國の如きこれである韓愈の文に大唐受レ命有二天下一と見ゆ

（レ）ふとし杜甫の詩に仙李盤根大とあり

その外備求めなば種々の意義があらうが要するに積極をいひあらはして居る膨脹をいひあらはして居る發展向上的國民を包括する我國我時代の冠字として實に剴切なる文字といはざるを得ない

「正」といふ字

說文に從レ一以止とある如く一と止とを合した文字である上の一は正直正道の意であつて想像の線である。即ち正直正道に止まるを正といふのである止るは定と同じ意である說文註に守レ一以止也とある如く之を記數の一と見てもよい一には初め、まこと、もつはら等種々の意義がある其何れを持て來ても面白い意をなすのである、古文には又二と止とに從つたのがある此二は古の上の字である

上とは天である

禮記の曲禮に太上貴レ德と見え左傳に太上有二立德一とあるおもふに正は德である故に其道を指して上の字を置いたものであらう而して正は是の字と同じで左の意義がある

（イ）偏倚なきこと即ち眞直なること易に剛健中正と見え左傳に正直爲レ正と書の洪範に一曰、正直とあり

（ロ）亂れざること詩に朝廷自然嚴正と見ゆ

（ハ）邪ならぬこと史記に堅直廉正とある

（ニ）充分なること即ち不足なきこと書經に咸以レ正罔レ缺とある

（ホ）正直のこと或は正しきこと孟子に順以レ正、妾婦之道也とある

（ヘ）眞實なること即ち僞ならぬこと北史に眞正者少と見ゆ

（第三面に續く）

謹賀新年
大正五年一月元日
清州憲兵隊本部 櫻井茂三郎

謹賀新年
鍋釜 陶器 雜貨 忠北清州市場
那須彌七

謹賀新年
大正五年一月元旦
忠清北道廳
鈴木隆
兪星濬
齋藤禮三
佐々木志賀二
宮本政藏
石丸優二

謹賀新年
一月元旦
公州地方法院清州支廳
宇野美苗
山田俊平

謹賀新年
清州慈惠醫院
一月元旦
石川國幹
田中半二郎
沖津亘
田中秀穗

謹賀新年
一月元旦
清州警察署 齋藤金藏

謹賀新年
一月元旦
清州分監 三上哲丸

謹賀新年
一月元日
清州地方金融組合 齋藤清治

謹賀新年
一月元日
株式會社 漢湖農工銀行清州支店
北原彥次郎

謹賀新年
大正五年一月元旦
忠清北道清州本町四丁目
忠北自働車運輸組合
電話五五番
○清州英江間 毎日四回往復
○清州忠州間 奇數日往復
○堅牢ナル自働車四臺ヲ備付ケ
○出來得ル限リ臨時發車ヲナシ
○極力乘客ノ便利ヲ圖リ途中安全ヲ期ス

謹賀新年
御料理 忠北清州
一北樓
電話三五番

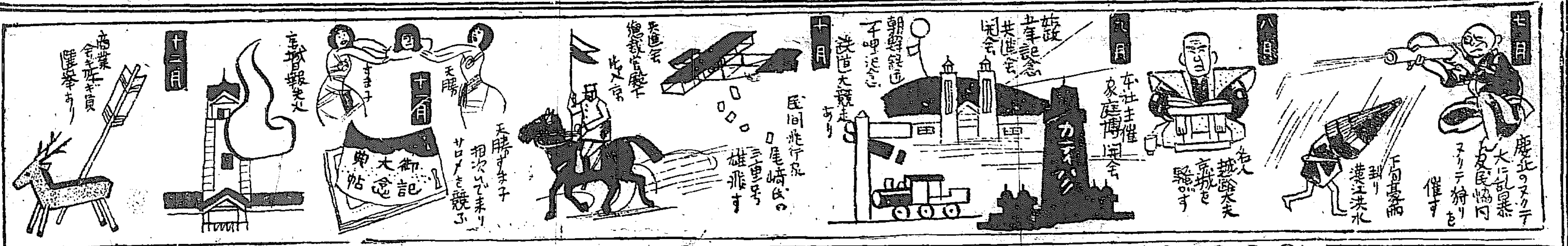
謹賀新年
諸官衙御指定
忠北清州自動車前
清州舘
電話六一番

謹賀新年
清州本町
醬油釀造場
小木曾忠朗九

謹賀新年
忠北清州郵便局前
糸島屋旅館
あら玉の御慶目出度く申納候さてや舊年中は一方ならぬ御引立に預り難有御禮申上候尚本年は特に一層の勉強仕可く候得者倍舊御引立の程奉懇願候

謹賀新年
和洋菓子製造卸小賣
忠北清州清水町
山口大正堂

謹賀新年
本店東京
忠清北道清州本町三丁目
稻本製靴舖



鶴田櫟村筆

(第二面よりの續き)

(ト)標準即ちのりのこと書經に所レ取レ正と見ゆ
(チ)正中なり詩に乃四方之中正也とあり
(リ)直きこと周禮に上三直と見ゆ
(ヌ)方形なること屈平曰く不レ量レ鑿而正レ柄分とある
(ル)平かなること屈平曰く指ニ九天一以爲レ正とある
(ヲ)正しき人徳高き人賢人のこと昔先正保衛とあり
(ワ)たゞす易に各正ニ其性命一
(カ)決定すること周禮に宰夫令ニ群吏一正ニ歳會一正ニ月要一註に曰く正猶レ定と又詩に維龜正レ之とあり
(ヨ)罪を糺す周禮に賊殺ニ其親一則正レ之と見ゆ
(タ)是非をたゞす論語に就有道而正とあり
(レ)かしら即ち長官のこと左傳に翼九宗五正杜註に曰く五正五官之長又同書に木正曰ニ句芒一火正曰ニ祝融一金正曰ニ蓐收一水正曰ニ玄冥一土正曰ニ后土一
(ソ)嫡子のこと穀梁傳に諸侯與レ正而不レ與レ賢也と見ゆ
(ツ)釐め辨ふること論語に必也正名乎とあり
(ネ)常なること即ちあたりまへなること朱子曰く物以レ正爲レ常、又正人尋常之人也と
(ナ)平凡なるを書經に凡厥正人あり
(ラ)まさしく、ちやうど、たゞしくの意の副詞なり史記に正中ニ其正一
(ム)政と通ず禮記に仲春班ニ馬正一又書經に亂正四方とある

右によれば正はどこまでも正しいといふことを離れない正義堂々事に從ふ日本國日本人の上に頂く文字として間然する所はない吾人このめでたき字を冠する須らくその字義を實行して可なりである否實行しなくてはならぬ

『五』といふ字

鐘鼎古文×⊠⊠⊠とある說文に五行也從レ二陰陽在ニ天地間一交午也と見えて二を天地に象り×は陰陽の交午する樣を示したものとして說明して居る即ち指事の文である段註に古の此字─也とあつて元此字は五といふ記數の文字ではなくて陰陽五行の五字であつたが後には假借して記數の識であつて之を斜にしてその半なる五に用ひたものである又×は十の斜ことを示したのだそれが今日の五即ち記數の五の先祖であるさて十の字は說文に一爲ニ東西一│爲ニ南北一則四方中央備とあつて四方の上に中央の一つを加て五とするのである今日四つ辻を十字街といふのは字の古義にもかなつて居る古人は多くこの說に從つて說文に反旗をあげたものが多いされど余はこゝに

十字の成立について破天荒

の說を立てようと思ふ說文學は古きを踏襲するが能でない温故知新─吾人はこゝに左の說を立てようと思ふ古の算木の計算法を聞くに一より九まで數へ十に達すると上位の一にすゝめ又一より十に達すると之を上位にすゝめて上位に一を加へる即ち算木は九までは橫に置くが十になると縱の一本とするのである今の西洋の算術と同じである一位の一は一であるが十位の一は十であり二は二十であるさうすると十の字の橫畫即ち一は一より十迄數へたといふ意をあらはすためのもので竪畫即ち─はその十まで數へた度數をあらはしたものと思はれる廿卅卌の字にまで考へて見ると此義愈々明かになる

年賀状 前川千帆筆

であらうさて五の字は此純粹の記數の十を斜にした轉註（或擬字を立ててそれに反對とか對比とかの形を以て文字をつくる方法である例へば上と下とは地平線の上にトを置きて上とし下に置きて下とするがやうなものである又末と本との如きも何れかの一つが擬字となつて作られたのだ何れも木といふ字により

末はこゝなり 本はこゝなり

と指摘の一を加へたものである故に一方は指事の文であるが一方は轉註字である、七の字の尾をまげて十にたりぬ意をあらはしたのと同じ工夫である要するに五は十の半といふ意でもつて作られた字であるべて十を揣若しくは完體と見るのは支那でも日本でも古代よりある思想である十分とか十中八九とか千か十までとか十人十色とか九死一生とかいふのはその思想から出て居る五は十の半である滿若しくば完體の半であることとするこれ亦人々の頭にあることで一寸の虫にも五分の魂とか喧嘩は五分五分とか半といふことを意味して居る語が少くない又五の數を記すに古横畫を五本ならべたこともあつたが三横畫に二斜畫を加へたこともあつたが今通用しない事だから說明を省いておかう。以上のべ來ると五の字の成立には三樣の徑路があるさて第一說の如しとすれば五行交互して天地全きわけで

五風十雨政通じて人和する

今日には至つてふさはしい字である第二說を可とせんか四方に臨むに中央の我國にあるといふことに牽強も出來るし又四方と中央といふわけで充實といふことを意味する我國今日の形勢は正にこれに近からうとして居る第三說を取らうか事の半であるのでいさゝか物足らぬ心地はすれど盈つれば缺ぐるといふことがあり又吾等に滿といふ將來あるを示して居るのだと思へば腹も立つまい何れにしても縁起のわるい字ではない天子の位を九五と稱へる九五とは易卦にて下より數へて五ツ目の陽爻をいふのであるが九五の爻は君の位に配當するから君位の稱となつたのである天子即位してこゝに五年の春を迎へた御幣をかつぐわけではないが何だか吾人の成物をそゝるのであるいざや目出たい言葉の五の字盡しを以て祝意を表さう先づ地神五代をはじめとして五節句五節の舞五日の節五穀七五三繩五十鈴川五風十雨

『年』といふ字

年は古文秊とかき禾に從ひ千を聲とする形聲字である即ち禾は稻といふ形をあらはし千は其の呼聲である而して千は大數の極であるので禾と千とを配してみのる、熟する、豐年などの意の字を作つた穀梁傳に五穀皆熟爲レ年五穀皆大熟爲ニ大有年一と見えて居るさて稔ることは年に一度であるからこゝに歲の義に假借して用ひる爾雅に夏曰レ歲商曰レ祀周曰レ年唐虞曰レ載とかいてあるこれより年はみのるといふ義をすてゝ歲月の年となつて今日に至つたのである古義を辿つて見るとこれも目出たい字である

新年文藝

─□俳　句□─

課題「門松」

一等　京城本町二佐藤喜一方　雫二
神代めけば夕門松の雪となり

二等　京城鍾路畑古眞太郎方　汗人
門松や松林の中にある我家　龍山漢江通一三西村方　關口孤月

三等
旅情うたゝ門松に月日數へけり　淸州　片岡桿花
門松や鵲遊ぶ畑の家　京城明治町藤田合名會社内　久津見斗星
由緖ある家繼ひぬ門飾り　同　元町三六一藤田組　師田秋部
門松や番犬嬌々として砂嗅げり

秀逸
水撥ふ水鳥旭の門の門松に　京城　佐藤光
門松を出て大山の霧に醉ひ吐　大田　風骨
門松や昔榮えし長家門　京城　凪村
牛島の御代の頁や松飾り　沙里院　卿山
門松や村の長者の一構へ　仁川　曙海
白砂に朧膜の轍や松飾り　馬山　桂仙
門松や富士背景に朝日昇る　京城　無相庭
小松より明る家並や灰か也　仁川　李米吉
門松に千鳥篩せけり湖畔　京城　路齋
門松を潜る風伯師かなり　龍山　宣治
門松や萬世橋の傾き　平康　晶佛
國片々客門松に隠れたり　公州　如風
天盃の光りや門の松の國　京城　明
松飾り國門に國降り積る　京城　林玉里
曉の國を呼びけり松飾り　木浦　仲川
門松に旭拜みて今年こそ計む　密陽　さむろう
門松や旭な浴びて鶴鳴る　京城　天碧
門松や卸拾ふ鳩の肥えてあり　京城　部湖
門松や門に遊みし日の跡　土城驛　梅岡
おごそかに海庫の門や松飾　馬山　蘇仙

謹賀新年
朝鮮水産組合長
大原庄太郎

謹賀新年
銅鐵及雜鑛商
釜山本町三丁目
㊝福田又支店
電話二〇二番
振替京城四六九番

賀正
石炭、木材、セメント、機械類及電信、電話材料、三綾棉布及金巾、未綿、銑鐵、亞鉛板、金物類、燐寸、麥粉、パインアップル、ライオン印サルタン印滿鮮一手販賣
本社　東京日本橋區駿河町
三井物産株式會社
釜山出張員
電話六五五番

謹賀新年
糖粉直輸入和洋菓子卸問屋
釜山辨天町一丁目
寺田安太郎商店
電話長五〇六番電略(テ)
振替京城五一二番

謹賀新年
釜山埋立新町十四番地
大池回漕部
電話長一三番

謹賀新年
朝鮮瓦斯電氣株式會社
電話番號
瓦斯電氣　九四九
會計　四一〇
倉庫　四〇九
瓦斯電氣發生所　六〇六
古館　九六六
絕影島　一五
四七二

謹賀新年
平壤本町
齒科診療技工專門
藤井齒科病院
電話二六一番

謹賀新年
陸軍御用達
牛肉味噌漬販賣元
山田牛肉店
平壤大和町電話二三一番

謹賀新年
私立密陽蠶業傳習所長
蠶系製造販賣
桑苗販賣
戸田果樹園主
戸田德次郎
慶南密陽城内

謹賀新年
活版印刷並紙類販賣
密陽印刷社
門田正勝

謹賀新年
合資會社密陽銀行

賀正
京釜線密陽南門江畔
密陽醫院
長崎醫學士　齋藤　徇

賀正
諸官省御用達雜貨食料品煙草清酒金露特約店廣江煙草特約店
小野商店
密陽城内

謹賀新年
安全燐寸
双鹿票製造販賣元
釜山埋立新町
兵庫淸燧社釜山支店
電話長一〇八番

謹賀新年
倉庫業
代理店營業
東洋生命保險株式會社
ニユージランド保險株式會社
サン火災保險株式會社
ノルウキツチユニオン保險株式會社
帝國海上運送火災保險株式會社
釜山佐藤町(電話四九二四番三四一番)
朝鮮興業株式會社釜山支店

賀正
消化と毒けし
醫學博士三輪先生 醫學博士井上先生御方劑
仁丹
發行所大阪市森下博藥房
活用
食過ぎ腹痛に……仁丹二十粒
過飲二日醉に……仁丹三十粒
遊びつかれに……仁丹五六粒
聲のカレタ時……仁丹四五粒
頭痛逆上の時……仁丹二十粒
正月はわけて仁丹離されぬ!!
手近い例が……
■お祝酒の飲み過ぎ宿醉の時……仁丹飲で氣分爽快!
■お雜煮御馳走の食もたれに……仁丹飲で消化迅速!
■羽子突タコ揚げ雙六遊びに……仁丹飲で大々元氣!
■宴會、觀劇、旅行、訪問の時……仁丹飲で愉快々々!
仁丹飲む人徳な人
(仁丹四季容器二倍大圖)
仁丹五十錢包に添付す
仁丹四季容器
最新式仁丹の三粒出し裝置
日本四大名所を優雅に浮出
ようじ入、鏡、爪磨を備へ
携帶至極便利!
金言
衆に超へんと欲せば
常に精勵なるべし
(ワシントン)

京城日報 新年號 第八

藝界回顧
刎返つた京城演藝界 今年は更に大發展か

兎は刎ねッ返るもの、龍は雲を呼んで暴れるもの、茲に比較的事の多かつた大正四年中の京城演藝界を回顧し更にヨリ以上の波瀾を生まうとする大正五年の演藝界を想像して見る昨年は例の朝鮮統治五年の治蹟を示すべく物產共進會が開かれた、久しく麗宮の嘆を喞つてゐた景福宮裡忽ち化して光榮ある朝鮮統治の成績を現はし出せる繪圖の展覽場となれば、引續いて愛れば賑る觀樂郷、僅かに五十日間に百三十萬の人を吸ひ寄せた勢ひも凄まじい、平素から肺病患者の樣に

▽活氣のない京城の演藝界か△

僅かに勢ひづいて昂奮し出したのは此の前後なのである。今、新春を迎へ過し來つた一年間を振回つて見る時、京城に於ける是迄の事例に徵して如何にその演藝界の多事多忙なりしを憶ひ吾等は其處に愉快な微笑を浮べないわけにはゆかない。それ程朝鮮といふものを見縊り馬鹿にして來た事のない、朝鮮といふ事を口にするさへ快からずとした連中內地に於て一藝の首班に在り又は天下の視聽を一身に蒐めてゐる、所謂大きな藝人が來たのであつた。即ち共進會前の越路、會期中の奈良丸、天勝、閉會後の須磨子等である。斯う書いてくると本文の記者はそのいづれにも趣味を有ち且つ是等に對して矢鱈に感服してしまつて涎を繰らんばかりに隨喜喝仰してゐる樣に思はれても致し方がないわけだが事實は大反對で

▽假令串戲にも其麼風に誤解△

されるのは厭だから此處に少し立場を明かにして置きたい。記者は藝術座一行は兎に角天勝のサロメに至つては生唾が出る程嫌ひなのだ、あの人を喰ひきつた横著な態度、一座と共に未熟な惡劣な所を發揮しながらヨカナアンお前の首をキッスをするよなど、黄色い聲を振絞られる時ヨカナアンならずとも怒鳴りをつけてやりたい位心持が惡い、而己ならずあのケバ〳〵しい色彩やら白痴じみた道具衣裳で人眼を眩まさうとばかり考る奇術なるものが嫌ひだ、又奈良丸だらうが雲右衛門だらうが浪花節は性來蟲が好かず、越路が如何に天下の名人でも義太夫その物に深い興味を有ち得ない僕としては涙を流して有難がる程の事はなかつたのだ。併し斯う自分一箇の好き嫌ひから割り出して來ては際がない。そこで僕の茲に

▽昨年の演藝界の盛況を謳歌△

するのは一般の人を土臺としたものだと思つて貰ひたい。越路、奈良丸、天勝、須磨子共に非常な成功を收めて行つた、殊に越路、天勝に至つてはその人氣に於ても實收に於ても恐らく彼等が豫想してゐた以上の結果を見たに違ひない。ところで茲に障る事がある、彼等の人氣なりを欽仰する或る一部の人達が唯だ物珍しさ一方から夢中に擔ぎ上げる調子に乘つて直ぐに豪くなつて了ふ事である、高く止まつてしまふ事である、第三者の立場から冷靜に彼等の態度を見ると如何にも小生意氣な人を踏みつけにした樣な容子が見える。幾ら玄界灘を越した朝鮮でも高の知れた寄席藝人の稍進化した程度の手合に舐めてかゝられては心外だ。

▽今年からは是迄の經驗に鑑△

み來る藝人に對して始めから無暗に持上げる事はお互ひに愼しまなければならぬ、玆に言ふ所の範圍の藝人は實際純然たる一個の藝術家であつても下らない從來の習慣やら情實やらに囚はれてゐる者ばかりなのだから人格を傷けるとか神聖を冒すとかいふ顧慮は少しも要らぬ。唯彼等の持つてゐる藝そのもの丶價値を認め敬意を拂つてやればそれで澤山なのだ。扨て共進會の前後に於て以上の連中が素敵な成績を擧げて行つたに就いて今更殘念で堪らぬ事はあの當時一流でなくとも二流所乃至は三流でもいゝ、觀るに足るべき歌舞伎俳優の來なかつた事だ。經費の關係もあつたらう、完全な劇場のなかつたといふ事も原因したらう、とは思はれるが多少の困難を排しても

▽是非見榮のある所謂舊芝居△

なるものが見たかつたと思ふのは敢て吾々のみではあるまいと思ふ、朝鮮——少くとも京城に居る人達の中には土地に於て純歌舞伎劇の豐麗な氣分を味はひたいといふ希望を抱いてゐる者も尠なくなからうと思ふ。あの殺風景な活動寫眞が舊劇をかけて竹本何太夫出語りといふ樣な馬鹿げた眞似をしてもそれに滿足する人は恐らくあるまいと思ふ。兎に角今後は多少潤ひのある劇が望ましいといふ事は一般の輿論でもあり又今日萬般の事物の發達した京城としての當然の要求ではあるまいかと思ふ。それにつけても惜しい事をしたのは壽座だ、此の道に餘り經驗のない二三の人が經營に當り一時非常に有望らしく見えた活動熱にかぶれて折角の建物を改築して棧敷も態々土間にして腰掛風にしたり二階棧敷を

▽無暗に突出して活動常設館△

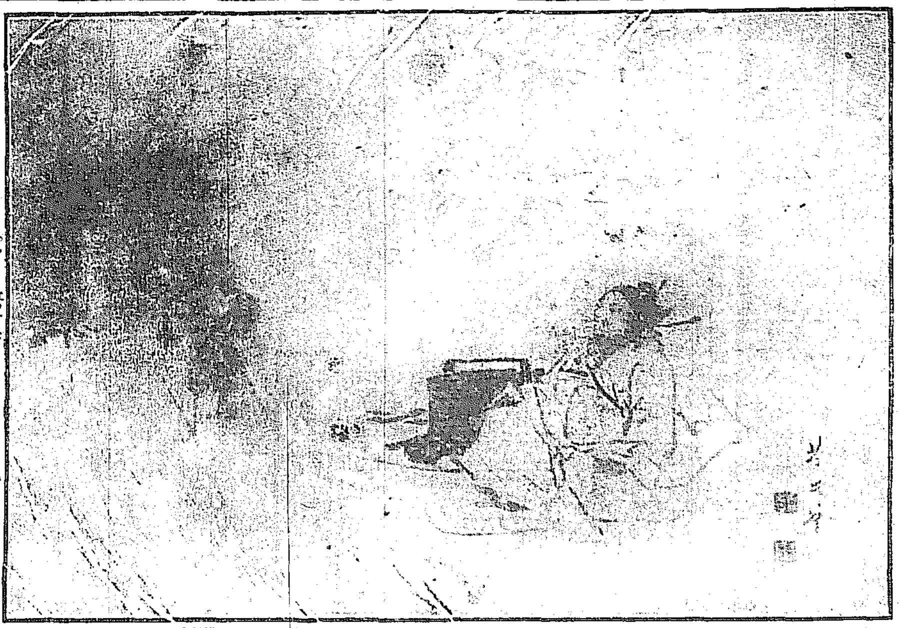
風にしてしまつた事だ、壽座が今少し確かりした劇場であつたら昨年の京城演藝界には前に列記した以外の或る者が現はれて更に一層面白い記錄が殘された事と思ふがそれも今となつては愚痴に過ぎない。聞けば此頃壽座の經營者にその邊の事情が解つて來て更に修繕して元の劇場本位に復す積りだといふ。年初に當つて甚だ賴もしい事を聞くものだが果してこれが事實として現はれてくれば洵に結構な事と言はねばならぬ。更に又本年は例の延び〳〵になつて來た釘本氏一派の京城座もどうやら目鼻がつくらしく、遲くも秋頃までには華々しい舞臺開きが行はれる事であらうと想像される、全くその舞臺開きには鴈治郎一派がよからうイヤ延若（延二郎）が當るなど丶取らぬ先きの皮算定、今から

▽役者の詮議までする氣早者△

もある位だから案外早く纏まらうも知れず、昨年に劣らぬ好況が見られるかも知れないと思ふのだ。劇の方では藝術座一行の外にこれぞと指を屈するものもなく僅かに今では活動役者に成り濟ましてゐるが新派當年の雄將村田正雄が壽座に楯籠り少し毛色の變つた所では教育劇と銘打つた愚にもつかぬ大橋某が現はれた以外には御成座に何とかいふ壯士役者が一年間何の變哲もなく舞臺に登らねば飯が喰へぬ慘めな姿を金五錢也の木戸錢で隱すばかりで何の奇もなくうら寂しいのに引替へて色物の方は正月に浪花館へ馬生が來たのを始めとして文左右衛門が來る、圓遊が來る三木助が來る、目外馬生と一座して來た際に或識者にからかはれたのを

▽本紙が鳥渡書いたのが馴染△

になりそれ以來時計や眼鏡の稱號を頂戴に及んで朝鮮ッ子に成り濟ました圓坊、歌六が舞戾るやら三木助がちよい〳〵顏を出すやら小南が來るやら大分賑かだつた、色物の少し頭のあるのが來て可なりに當りを取つてゆくのはいゝ傾向と言ひたい。刎ね返りの兎の年も逝いて茲に迎へた勇ましい辰の年、新興の機運に向つてゐる、この先きの京城の演藝界こそ注目に價するものが十分ある事を豫言して置く。



菊池芳文筆

新年文藝

—□俗謠□—

課題『松の內』

一等

○御題模樣に因んだ春著、著るも嬉しい松の內　京城光煕町二ノ二四五　窪田いつ子

二等

○お酌振袖綺麗に粧ひお禮廻りや松の內　新龍山鐵道官舍　山本正一

○おめで大正一イ二ッ御代を明けて五ツのたつの春　京城本町二ノ一內田方　高野浪廼家

三等

○昇る旭日に心も年も光りかゞやく松の內　龍山元町金子商店內　三村秋月

○家內揃うて三寶を圍ひ居蘇に味ある松の內　京城光煕町　窪田未晚

○まゝに逢へてもまだ物足らぬ晴れて添ふ日を松の內　新町春の家　かをる

秀逸

○凧に歌留多に追羽子手毬御代は長閑な松の內　京城本町二內田方　高野浪廼家

○雀忠と囀きや烏が孝と啼いて日の國明けの春　京城　長谷川うつゝ

○松の內だとがまんをしてりや主は浮氣で飛び廻る　仁川ホテル內　やよひ

—□川柳□—

課題『かるた』

戀歌をそれと言はねど送り札（一等）　水原　逝金五曉

お手付と見せて娘に觸れたがり（二等）　京城本町　海月

かるた會亭主宵から寢てしまひ（同）　公州　龜山如風

落第はしさうでもないかるた取（三等）　京城旭町　松浦敏村

箱入がかるたで腋臭見破られ　京城元町　師田秋郊

思ひ內にある間につゝぬかれ　京城明治町　長谷川うつゝ

秀逸

假睡の夢にかるたの聲を聞き　瑞興　酷鳥

かるた取り行く先々で戀を知り　平康　友敬

戀敵者か睨み合つてるかるた會　龍山　秋郊

若い血が眼に散つて睨み合ひ　京城　敵倖

かるたよりメツと握た手の迦さ　平壤　獸水

娘等の前になる札はそつと取り　坡州　節男

危機一髮にしてお手附となり　楊州　翠雨

名の知れぬ禍に觸る歌留多會　京城　無我相

若坊は時鳥ばかり狙つてる　同　露次郎

お手附のそこに目のある歌留多　沙里院　薄花

其夜よりむへ山颪が身の明き　京城　呆坊

甘いのがわかれ年ら悦に入り　同　尼子

歌留多會杯と夜な〳〵出て歩き　同　三郎

かるた會讀んでる方が汗になり　仁川　雨汀

生白い顏が女に負けてやり　龍山　鳥石

—□ものはづけ□—

課題『目出度いものは』

一等

四十過ぎての初產　湖南線井邑本町　深谷鋼造

二等

餘る齡に恩賜の天盃（先著）　京城明治町　岸溪舟

初詣に大吉の神籤　京城社稷洞東拓社宅　鎌田禾公

三等

御大典當日の出產　釜山寶水町　谷梅友

新夫婦の初詣　京城永樂町一の七　朝長尼子

無事に着陸した處女飛行　平壤慶上里七九矢野內　默星

子寶の正月　京城　坂本敵倖

陸海軍の土屋父子　京城　窪田いつ子

櫻閣の御沙汰　京城　鶴木鶴男

發殿の許秋　大田　錄山

ゆるぎなき御登極　京城　罄二

みかの釜に朝蜘蛛　同　虎木

郵便局で安產　鎭岩浦　劍牛

三夫婦揃つて祝ふ元旦　京城　うつゝ

—□一口噺□—

課題『新年に因める』

○『正月は何故お芽出度いのだ』△『それは鬼が皆居なくなるからだよ』（一等）　京城瓦斯會社龍山營業所內　猿竜小僧

先生『元日に門松を何故立てるのです』生徒『それは新年の看板であります』（二等）　京城永樂町二丁目佐藤方　中村喜明

五つになつた子供元日の朝表へ飛出して『母ちやんお正月は何處へ來たの』（二等）　仁川本町日下部方　矢谷雨汀

○熊『お前初夢を見たか』與太『昨宵寢てしまつたので忘れた』（二等）　京城本町三　吉岡憲次郎

母『坊やも一つお年をとつたのだから少し温なしくおしなさい』坊『母ちやんもお年を一つとつたから少し叱らない樣にして頂戴』（三等）　京城社稷洞　鎌田禾公

座敷に通つた賀客『明けましてお目出度う』傍の惡太郎襖をぴしやりと閉めて『閉めましてお目出度う』（三等）　平安价川　濱田生

謹賀新年

京城明治町二丁目

寫眞機並材料商　長崎屋商店

電話二二二〇番

謹賀新年

京城永樂町二丁目　平山牧場　電話一三三番

崇仁面敦岩里　平山牧場畜牛部　電話一八五六番

謹賀新年

京城府吉野町一丁目九十一番地

土木建築請負業　三津田吉太郎

電話二〇七番

謹賀新年

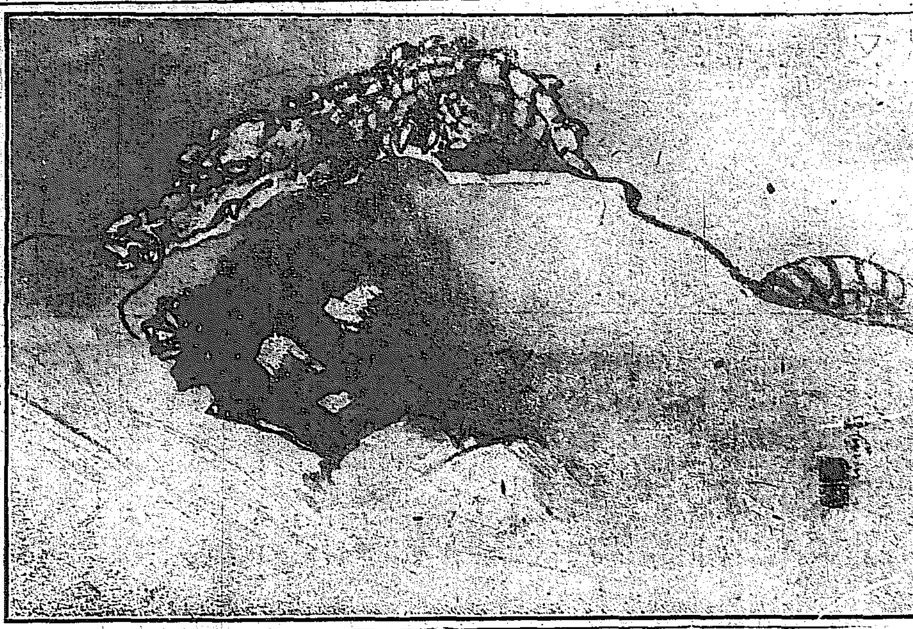
京城水標町五〇（黄金町入）

京春自働車商會

電話二三八番

京城春川發　午前八時　午後二時

支配人　松田壽男


竹内栖鳳筆

大正五年索數判斷

天明流算術　堀越秀穗

東京神田松住町の堀越秀穗氏は天明流算術に精通し潮流に關する占考法を以て運命、吉凶、禍福を判斷し本社の九星も氏の判斷に依るものなるが同氏は大正四年十二月廿三日午前六時四十七分の潮流より起算して大正五年を占て左の索數を得たり

一月

本月は清美の潮流にして世間靜にして人心美麗なれども下流濁を生じて諸事進むに疑心を以てす故に專ら信實を旨として事を計らるべし潮流美なれば時に大鱗の游泳するあり電の如き巨浪を興催せんとす政治海の諸氏大いに注意して可なり諸商取引の緒を得て金融豐なり政海は美激にして米價高きを含み株式蠶絲は好況なり

二月

本月は順潮にして久しく夸の人漸々の中に選ばれて事に當らば必ず大利有れども油斷大敵なり百事運遷通泰にして進士文章の喜び有り又貴人を見るに利有病者瘥を得て行人遠く至る月末商事盛んにして多く財帛を得る農は種苗に縁有倘婦人の慈善事業を起すに利有政海は頻繁にして金融は寛なり米價は氣配よく蠶糸は高く株式は月末に高し

三月

本月は滯流にして諸事遲延するの象有り潮流不廻にして婦人に病を生せんとす大に注意を要す又心下遲疑を含ん

四月

本月は大吉の月にて潮流麗にして諸事圓備するの月也古き志願を有する人く多く本月中に成就の悅び有り各自營業を創立し門風を改る等調はずと云ふことなし潮流美なれば訴訟の和……で絞約不利の事ども多し謹まざれば是非の災禍を主る事有時に滯流逃して政海の風騷を起さんとす宜敷節を守りて其全きを計らるべし米價は持合金融は忙敷蠶糸は好況株式は上下ありて高からず

五月

本月は潮流穩健にして百事進み利有災滯の己に散じ名利を求むるに宜し商事盛んにして各濱大漁を報ず人心美にして道德を守り奉公孝養の義を欣慕す女子は健氣なる心底を知らして立身出世の道に出づ茶業蠶業の收穫豐にして輸出頗る有望也政海は靜にして金融は忙敷米價は平均を保ち株式絹系は共に好況なり

（以下挿畫の傍）を爲し舊族の全治を見る又若き人々の婚約を結び良き主人取りを爲すが大慶の月、漁業鑛業大利を得て政海は美にして金融は寛なり米價は好況株式蠶系は高し

六月

本月は淹流にして物の不進を意味す又外見美にして内醜なる義を含めば豫約取引に注意せらるべし經營百出精神を費て却て損失を招かんとす誠に謹を要する月、又女子は惡美の誘惑を受けんとす萬事長者に計るにあらずんば獨斷を以て事に當るを忌む心を小にして行儀作法を守り天與の美を保たるべし政海は靜にして金融は閑散米價は小低株式蠶系は持合ならん

七月

本月は上美の潮流にして下流淀みを生じ人の心下に疑惑多き月也諸事疑の中に往來し決せざるを多し故に進むに奮心を要す渾て外見を飾て正味尠きを意味す商事取引に注意せらるべし又陰潮憂りあれば水分に害を生せんとす釀造家諸氏大いに注意を要す但月の十六日より後順潮となりて圓滿なる運びに至らん宜敷靜に事を處せらるべし政海は水の如く金融は寛し米價は安し株式蠶絲は月末景氣よし

八月

本月は靜美の潮流にして善に從て諸事成就するを得又再び事を起すに妙也又人の天術厚ければ榮譽進轉を司り官海上位の方々自然と榮進の福を得らるべし又心下再婚を望むの諸姉貴縁綴りて常の理想を遂らるべし孕は男子を産し商事盛大なり水利應用業の發展實に華々敷ものあらん政海は靜にして金融は無事なり米價は安く株式蠶絲は月末に高し

九月

本月は渦流にして物の不定を主る故に不退の事多く求る所遲し宜敷齊發して事を計らるべし渦流激して血潮浪を促し時に卒暴の疾を起さんとす謹まざれば蹟を生せん殊に衞生の注意大切なり各自昏迷にして小過を生じ易し宜敷靜念に事を處せらるべし政海は無事金融圓滿米價は貴く株式蠶系は持合に終らん

十月

本月は融和の潮流にて名利倶快にして更に阻滯なし貴賤團欒の悅を啓き福利自ら湧出す潮流美なれば船舶業の發展廣大なり又政治海は美にして賑は敷學事優秀にして宗教教育の事業大いに振ふ參商有利にして土木工鑛業盛んなり金融は繁忙にして米價は小高株式は持合蠶系は好況なり

十一月

本月は大吉の月にて物の成立を主り事業の原資幸然として調ひ文章潮溜にして紳士學士の諸氏宿昔雪の志を遂し又病者醫藥の福を得て全治す又永く勤續を爲したる手代番頭の諸氏一時に其效を顯し立身出世を爲し一箭二鳥を得るが如きの慶有り農工程を得て輸出品の賣れ行旺盛なり金融は豐富にして米價は持合株式蠶系は漸々に高し

十二月

本月は澄流にして人心清く事物調和を得て福利自ら生じ四民大平を賀して俯仰優游の樂み有り前程順理にして各自其分を守り國主宗教家の諸氏大いに名聲を博す人の矢祿富貴にして金穀財寶の融通頗る心田に叶ひ海外取引の業益振ふ誠に國恩の辱きを拜すべき也政海は大滿なり米價は高く株式蠶系は好況也

各人年廻吉凶

月割にて三月迄

正月、二月、三月の各年齡に應じ、「右の人々は大吉にて萬進で有利」「右の人々は一寸謹の年注意新事は手控」「右の人々は中進にて控目の方吉」「右の人々は平運なれども新事は控目」「右の人々は本命にて謹の月新事は見合」「右の人々は上運にて萬進で有利」「右の人々は妨なし」「右の人々は大吉にて萬進で有利」等の判斷を掲ぐ。[illegible]

婚禮奇風俗

△掠奪婚姻の影

肥後國飽託郡本岡

皆大明神は、神武天皇第六皇子（一說に安寧天皇の皇子或は皇孫）を祀りし者にて、其祭日には神官が眼を閉ぢて林に入り、兩手を擴げ觸る木を探ります。そこで最初觸れた木を切り女體に削り、之を阿蘇明神の妻とすると云ひます。倘此の女體を神とすべきは、同地方にて婦女の田植の折、男子の通過するを見れば、何人たるを問はず、泥土を抛げます。同明神は婦女を掠奪せし神といふ聞によりて、祭日には木製の女像を供するは神意に適ひたる事で、亦田植の婦女が男子に泥を投付くる如きは、掠奪神を妨げる様を示す名殘ださうです

△娘を掠奪す

淡路國津名郡由良

御天川組邊にては、結婚するに同村内の者を選び、女子の諾否如何を問はず、媒妁人なしに仲の突然求婚者即ち男子が、平生懇意にする友人數名を伴ひ、女子の宅に至り、女子を肩に背負ひ、掠奪して男子の家に連れ行き、強いて結婚します。そして女子の父兄も一向咎めぬことです。これは同郡灘村にても行ふさうです。

△地藏尊搬入

備中國哲多郡井村

にては、婚姻の夜北家の前に石塔或は六地藏尊の類を擔ぎ込みます。其時主人は上下を着し地藏に向つて『久振りで御出いますよく御出で下さいました有りがたう存じます』と云ふて、牡丹餅を供へ、禮拜し、若者輩に酒肴を供して厚く饗應し、然る後に家人をして石塔や地藏尊を送りかへさせます。これは新婦が死去するまでも、其家に居ることを祈るわけださうです。

謹賀新年
仁川海岸町三丁目
堀商會回漕部
同石炭販賣部
電話一〇番
原鹽 再製鹽 獨逸原鹽
仁川萬石町
Ⓗ 堀製鹽工場
電話一八五番
仁川海岸町三丁目
同販賣部
電話一〇番

謹賀新年
海陸運送業
仁川海岸町
田中回漕部
電話四〇番 振替京城六六〇番

謹賀新年
仁川通關組合（いろは順）
堀商會 電話一〇番
川井田通關部 電話八〇番
內國通運會社 電話三八番
平山田通關部 電話三四八番
田組 電話七三番
慶島組 電話五三番
福田組 電話二九番
朝日組
協同組 電話五二番

謹賀新年
仁川松函石油組合（いろは順）
井上商店
河野商店
赤松商店
鬼頭商店
鈴木商店

謹賀新年
仁川花房町二丁目
三宅回漕店
電話六七番

謹賀新年
一月二日午前正六時より初賣仕候
御買上高に應じ添物進呈
仁川呉服商組合

謹賀新年
京城南山町
森勝次
電話一五六番

謹賀新年
京城南山町三丁目
合資會社 清水組出張店
電話二四九番

謹賀新年
京城明治町二丁目
京城魚市場
電話一四八番

謹賀新年
京城南大門通り五丁目
横山商會京城支店
電話一八七五番

謹賀新年
京城本町三丁目
近藤金物店
電話一五六二番

謹賀新年
京城蓬萊町二丁目
京城鐵工場
電話一二三番

謹賀新年
京城南山町一丁目
松葉亭
電話二三九番

越後大評定

第八十九席　早川貞水口演

成瀬作十郎の自白

闕根彌二郎、ズル〳〵、ズル〳〵、曲者を引摺つて我居邸へ連れ戻り、彌『コリヤ門を開けえ』〇『ハイ〳〵』と門番門を開け〇『先生御戻りで御座いますか、大層御緩り』彌『伴れて參つた者がある、燈火を持て』〇『ハイ』直ぐに門人が提灯を出す。そこで道場へ伴れて來て、此奴を柱に結び付け、蠟燭を出し面の容子を見て彌『コレ、見馴れぬ奴であるが、汝は何と云ふ奴だッ、何の遺恨あつて此の彌二郎義任に弾丸を向けた、有り體に白狀いたせ』△『拙者とは九州浪人にて、初めて當國に參つたもの、闕根彌二郎といふ先生は、鞍馬八流一刀流、兩流の名人とのこと、依つて御手並を試めさんと存じ、鐵砲向けたので御座る』彌『默れ名人の腕前を試すならば、何故尋常に名乘つて試合を致さぬ』△『ム』彌『鐵砲にて萬一此方に中れば、忽ち一命を亡ふではないか、左樣なる無法の行り方は、武士道にあるまじきことなり、又それも眞劔を以つて試し斬りに來るならば未だしも、飛道具を用ゐるとは卑怯未練な汝の振舞、こりや腕を試すのではあるまい、サア有體に白狀いたせば、汝の命は助け遣はす、左も無くば命を申受ける、必ず頼まれた者があるであらう、何者なるか白狀いたせ……言はぬか、何言はぬければ斯う致してくれる』蠟燭を取て奴の鼻の先をジュッ△『熱ツ』彌『サア熱ければ白狀いたせ』△『熱ツジュッ』△『熱ツ』彌『如何だ熱いか』△『ム―イヤ此曲者、鼻の頭が眞黑に焦げ、眉毛は蠟燭の火で燒て了ふ△『ム―然らば白狀いたす』彌『サア何者に頼まれた』△『拙者は成瀬作十郎と申す者にて小栗美作殿から頼まれまして御座る』彌『ナニ、さては汝は小栗美作から頼まれたか、ハアさもありなん、さも然うず、實は何人か途中に待受け、此彌二郎義任を討つ奴が出るであらうと、用意いたして、態と高聲に諷を歌ひ、釣り出しを掛けたのであるが、果せるかな鐵砲の闇討、却つて計略に掛つて、汝は生擒、しかし汝ごとき者の生命を取るは、蟲螻を殺すも同然なり、生命は助け遣はす、だが作十郎、小栗は今宵如何いたし居る』△『ハイ』彌『何うして居るかッ』△『ハイ、今晩は月見ケ岡の白雲閣に於て、美作殿はじめとして、御同意の御方々が集まつて、拙者が其許樣の首を討つて行くのを、御待受けで、其間は多分御酒宴で御座らう』彌『ム左樣か、それでは何か、確かに其事に違ひないか』△『左樣で御座る』彌『然らば其方の生命を助け遣はす』△『ハア有り難い仕合せで御座る』彌『繩を解いて『ソレ行けッ』云はれたから『誠に御厚恩有り難し』と兩手を支いた所を『エイッ』ビシッ、一擊もろとも、成瀬の首は前へパッタリ、落ちた　彌『萬五郎』萬『ハッ』彌『此屍骸は其方舁いで、彼の御金藏の前通の土手に捨て、參れ』萬『ハイ提げきして御座る』と抱き上げ萬『先生、なか〳〵大きい奴で御座いまして、』彌『ム、幾ら大きくても仕方がない、只ひと討だ』萬『どうも先生に掛つちや及ぶ者は御座いませぬ』

婚禮奇風俗

△水を濺ぐ事

長州[illegible]の頃には新婚せしもの、年禮に來れば、之に水を濺ぎかくる風習があります。これは大抵婦人ですけれども、往々男子も行ふと云ひます。そして水を注ぐ器は盃若しくは椀等に限ります。はじめ門口にかくれて、人の來るを窺ひ、不意に濺ぎかけるのです。故に其年は覺悟して禮服數着を準備し、物馴れたる從僕を伴ひます。物馴しにもなれば待構へたる所を見出し、主人に注意せしめ、打避ける樣にします。併し婦女の方も其謀を覺り、遂には近隣合併の上、兩側の前に出ることもありますから、幾杯かの水をかけられることは免れません。

△尻打祝ひ棒

讃岐國高松にては正月十五日に男子は朝より夕まで祝ひ棒を以て婦人の尻を打ちます。これは産婆だけは打たぬ定めです。産婆は出産の時必ず外出せねばならぬ務があるからです。婦人は此祝棒を恐れて、當日は止むを得ざる事の外は出ぬそうです。これがすんで翌日になると、女子は卑猥な泥を交ぜて、大根に塗り付けてこれを男子の面に塗ることを例とします。ですから此日は男子は出せぬさうです。

▽嫁叩きの棒

越後國古志郡[illegible]村邊にては『百日紅』の如き木にて嫁たゝき棒を作り、婚禮の晩若衆等大勢にて新婦の尻を打ちます。明治廿年頃までは此事も中々盛でしたが、維新後漸々なくなりました。

△頭上に竈蓋

肥前國佐賀邊にては新婦の入りし時、かねて設けし席に暫時休息させて後、竈に廚房の竈より竈蓋を持つて新婦の頭上を覆ふことを例とします。これは新婦をして竈神の守護によらしめ、恣に歸ることなき樣にとの呪だと云ひます。

一月二日九星

舊十一月廿七日戊戌　本命八白　艮開　先勝

[illegible]

□一月三日九星

舊十一月廿八日己亥　本命九紫　南閉　友引

[illegible]

謹賀新年　各地物産委託　朝鮮雜穀移出業　京城南大門通四丁目　駿府商會　電話二六一番　電略（ス）（ン）

謹賀新年　京城本町二丁目　近藤貴生堂藥房　電話一三八番

謹賀新年　京城黃金町一丁目　藤原京城支店　鮎川衛之　電話一八九番

謹賀新年　京城南大門通五丁目　野澤工務所　建築技師　野澤藤吉　電話一〇三二番

謹賀新年　京城黃金町二丁目　高等寫眞館　土山小平　電話四三四番

謹賀新年　銅鐵銃器機械商　京城南大門通四丁目　坪内岩吉　電話六九六番

謹賀新年　和洋金物商　京城本町二丁目　中村商店　電話六八四番

謹賀新年　和洋小間物　毛織物　石油　京城南大門通三丁目　㊣高瀨支店　電話三八番　振替京城一九五番

謹賀新年　各種石炭販賣　林田石炭部　仁川本町四丁目　電話四〇七番　林田貯炭場　仁川濱町四丁目　旭屋旅館隣

謹賀新年　會席御料理　すし辨當　仁川宮町（電話一七八番）　二福

謹賀新年　仁川仲町一丁目　土井醫院　電話七二六番

謹賀新年　小間物化粧品　糸物諸雜貨　卸問屋　仁川本町四丁目　安保商店　振替京城六六番

謹賀新年　仁川新町三丁目　高雄仁川支店　電話二七七番　京城黃金町三丁目　高雄京城支店　電話七一六番

謹賀新年　仁川新町　つちや足袋代理店　野田紙商店　電話四四番

謹賀新年　仁川本町　北島藥店　電話二三四番　振替口座京城六七番

謹賀新年　仁川宮町　會席御料理　榮亭　電話四二九番

謹賀新年　酒精アルコール直輸入　仁川花町一丁目　坂倉商店　電話六五〇番　京城吉野町一丁目　坂倉支店　電話二四四一番

謹賀新年　京城南山町二丁目　御料理　一休庵　電番八八九番

謹賀新年　洋燈商　㊧長門屋商店　橋本信次郎　京城本町二丁目　電話一三二番　振替京城一八七三

謹賀新年　點燈請負　瓦斯製造　石油販賣　京城明治町一丁目　光進舍京城支店　電話三八八番

謹賀新年　咸鏡南道支部　朝鮮水産組合　元山海岸通二丁目　井上陽一　電話一四九番

謹賀新年　平壤慈惠醫院　内村安太郎　大河内雪　太田作治郎　及川邦治　大迫純太　中尾廉　原俊雄　黃潤　竹下正雄　李元珪　高竹義夫　一家新吉　外職員一同

謹賀新年　松元鶴熊

謹賀新年　仁川水道事務所　松田耕作　永井良作　佐治爲敬　兼行藤市　田中貞　楠見戸喜次　早川巍　濱守清作

謹賀新年　平壤旭町　宮川醬油特約店　小森酒店　電話三二番

謹賀新年　新義州營林廠　齋藤音作　澤永彦四郎

謹賀新年　牡丹臺の雪景綾羅島大同江の各景色を一眸に收め得る　お牧の茶屋

謹賀新年　平壤里門里　伊藤佐七　電話一二〇番

謹賀新年　東洋拓殖會社平壤出張所長　西島新藏

謹賀新年　朝鮮元山港本町二丁目　舶來雜貨商　飯山商店　電話六五番

謹賀新年　元山　姫野小兒科内科醫院　電話三六一番

謹賀新年　壬生一夫

謹賀新年　久水三郎

謹賀新年　櫻井小一

謹賀新年　朝鮮元山港春日町　合資會社　田口回漕店　電話二四番　四七番

謹賀新年　會席御料理　仁川濱町　醉月　杉浦あさ　電話一三九番

謹賀新年　西洋雜貨洋酒食料　各國煙草直輸入　台泰棧　仁川支那町　電話四九番

謹賀新年　下駄麻裏足袋卸商　虎屋商號　村上貞市本店　仁川宮町二丁目　電話六一二番　振替京城六三七番

謹賀新年　日鮮向雜貨、鍋、釜　諸金物直輸入卸商　合資會社　仁川京町一丁目　玉植商店　電話[illegible]　振替京城[illegible]

謹賀新年　協同郵船會社仁川支店　丁致國　電話七四番

謹賀新年　會席御料理　並に仕出し　大勉強　仁川宮町　食道樂　電話二九五番

謹賀新年　朝鮮仁川　中華商務總會

謹賀新年

全羅南道

務安郡守 柳冀亮
同郡書記 山崎信之

光州慈惠醫院

氏家參顯
石藤文七
境田民彌
杉山貞二
沼倉孚
高橋重矩
伊藤清毅
澁谷才喜
水島小一郎
金鍾燮

光州憲兵隊本部 全羅南道警務部 職員一同

長興郡

郡守 安鍾哲
郡書記 北濱源助
學校組合管理者 金子暹

羅州郡羅州

郡守 金晃秀
郡書記 牛島熊記
同 森谷堅郎
同 根本行三
同 石丸里夫
技手 永見鐵造
畜產敎師 小林大吉
農蠶敎師 杉崎資次郎
普通學校長 田代萬吉
公立小學校長 田中茂吉
金融組合理事 小林省三
十八銀行出張所 澁谷敏夫
學校組合管理者 山口米太郎

木浦府

府尹 橋本豐太郎
府書記 大槻綱俊
同 湯淺友三郎
同 藤野十太郎
府吏員 佐藤安次郎
警察署長 道野能運
警部 岩井是作
同 吉野暈平
郵便局長 岩城竹治
勸業模範場木浦支場技師 三原新三
同技手 石塚峻
同書記 柳準藏
稅關支署長 岡本利三郎
無線電信所 尾木金次
公立小學校長 吉村貫之
普通學校長 吉田勝久馬
金融組合理事 杉山信雄
水產組合支部 關平馬
府關醫院 淺海庄一
同 新妻由五郎
同 保見貞太郎
商船會社支店 鈴木龜藏
電燈株式會社 松井邑次郎
商業會議所

光州

郡守 金禎泰
郡書記 倉品益太郎
警察署長 鈴木貢
普通學校長 山本哲太郎
郵便局長 近藤正彥
學校組合管理者 松田德次郎

順天郡順天

郡守 李秉輝
郡書記 佐山義太郎
同 惠藤晴治
憲兵分隊長 原卓爾
判事 鹽野良晴
郵便局長 小笠原康三
公立小學校長 大友喜幸
普通學校長 米野康太郎
金融組合理事 土屋泰助
學校組合管理者 大楠清
酒造業 森谷馬吉
雜貨商 谷哲之助
熊本盛吉
北川農場
根本內記

康津郡

郡守 曹秉瑤
郡書記 中島梅藏
同 關國三郎
同 千々松勝藏
農蠶敎師 宗像熊次
警察署長 新明中庸
普通學校長 澁谷福四郎
公立小學校長 川上治郎
郵便所長 渡邊眞二
學校組合管理者 今村藤助

麗水郡麗水

郡守 金鍾休
郡書記一同
警察署長 山田貞吉郎
公立小學校長 深谷定省
普通學校長 荒木猪熊
郵便局長 宇野英雄
農銀支店長 岩倉守男
金融組合理事 堀內光芳
學校組合管理者 今木武一郎

海南郡廳

郡守 趙重觀
郡書記 角張四平
同 吉浦千吉
同 守谷納
同 近藤長房
同 朴勝源
同 孫甲偵
同 金仁培
同見習 丁斗會
金融組合理事 石塚良藏
技手 橋川不二雄
書記 金有縹
警察署長 南鱗次
警部 具滋瑔
巡查部長 村上赤心
同 本田親則
公醫 大庭慶雄
獸醫 佐藤吉右衛門
公立小學校長 鈴木銀藏
普通學校長 清家中枝
海南運輸株式會社
雜貨商 駒田謙次
同 大久保清太郎

木浦府務安通
辯護士 平田司郎
電話三五三番

寶城郡廳

郡守 金東佑
郡書記 廣瀨直三
同 高宗勝喜
同 深尾八次郎
農蠶敎師 相馬鐵五郎
道技術員 松尾正馬
學校組合管理者 小坂禮一郎

全南木浦府
木浦棉業株式會社
朝鮮棉業株式會社
天平棉業株式會社

東山農場全南支部
矢嶋生三
(榮山浦)

榮山浦東拓出張所
肥田穰三郎

叺繩 莚苫 製造 販賣
全南榮山浦
全南 繩叺製造販賣組合
電話四十五番 振替京城二七四七
出張所 木浦、松汀里、順天 南平、光州、鶴橋

榮山浦

憲兵分隊長 馬場龜格
學校組合管理者 杉本恒五郎
米穀商 阿部萬吉
同 松前爲之助
同 古賀貞雄
運送業 森崎胖一
醬油釀造業 飯田清次郎
菓子商 海見我樂多堂

全南筏橋浦

農銀支店 鹽津留止
學校管理者 瀧本信夫
小學校長 小玉政五郎
汽船運送業 三榮商會
米穀商 中島辰三郎

株式會社光州農工銀行
森悟一
佐藤恒太郎
荒木健之助
石川潔

株式會社光州農工銀行
榮山浦支店
藤原建樹
信岡壽吉
竹下太路
金盛太浩

木浦海岸通
日鮮人向白米 精米搗精 卸小賣
福田精米所
電話十九番
貨物取扱 稅關
福田通關部

大阪商船株式會社專屬荷扱
海陸貨物運送鐵道貨物取扱
免許稅關貨物取扱
朝鮮總督府鐵道局承認運送店
木浦府
木浦組
木浦組運送部 (電話一二二番)

尼ヶ崎汽船專屬荷扱
海陸貨物運送業
榮山浦行汽船明神丸木浦扱店
木浦
長門組
長門組回漕部 (電話二五番)

朝鮮郵船株式會社專屬荷扱
海陸運輸鐵道局貨物取扱
諸官衙人夫供給並に汽船給水業
木浦府
吉田組
吉田組運送部 電話三一番 振替京城二八四〇番

木浦府壽町
齒科醫師 大關兼記
電話三四四番

清酒 日光 並四十五錢 上五十錢 特五十五錢
酒 松の壽 燒酎あり 醬油味噌
光州府
松田釀造場
電話八番

木浦
木村健夫

銃砲火藥 時計雜貨 西洋家具 自轉車 商
木浦常盤町
丸岡佐次郎
電話二四九番 振替京城一二三八

銘酒 澤之鶴 全南一手特約店
木浦
岡村商店
電話一六四番 振替京城二四二三

芳酒 舞鶴。極東
丸越釀造場
南平 電話八番 振替京城二五五七番
光州 丸越支店 電話百二十二番
木浦 丸越支店 電話三一八番
太田 丸越支店 電話 番
京城 丸越支店 電話二八四四番

木浦榮町一丁目
山野運送部
山野回漕部
大正五年一月元旦

磨擦精米 精撰玄米 委託賣買
木浦府祝町
太田孫三郎
太田精米所
電話五十三番

丁寧確實
木浦本町
富永洋服店

朝鮮總督府鐵道局承認貨物取扱店
朝鮮鐵道運輸聯合會巡計加盟店
光州
大正運送店
湖南線 松汀里驛前 | 光州花園町 電話一三三番
振替京城二六五八 | 略電〇タイヌハタイ

日本生命保險株式會社
帝國公債信託株式會社
徵兵保險株式會社
代理店
光州花園町
相馬自動車部
電話五十三番

木浦榮町
西洋御料理
一陽亭
電話一二一番

光州
東雲旅館

木浦府
近江屋旅館
三吉野旅館
柴田屋旅館
木浦ホテル

木浦
麻生醬油釀造場

確實正札
木浦
㊂吳服店
電話二三八番

謹賀新年
木浦幸町
松本寫眞館

光州西門通
萬屋旅館
電話一〇九番

新年の御慶
芽出度申納候
大正五年一月一日
御料理
東雲樓
(木浦府)

全南各官廳會社御指定
康津旅館
(康津郡邑內)

羅州
藤屋旅館
電話十番

白鶴印清酒
全南特約店
木浦
沖永商店
電話六一番 振替京城五一五番

全羅南道府郡廳 警務部憲兵警察 御指定
麗水港
御旅館 富士屋

道府郡廳 憲兵警察 諸會社 御指定
長興郡邑內
いろは旅館

全羅南道 各府郡廳 警察署 憲兵隊 東洋拓殖會社 御指定
海南大和町
常盤旅館

全羅南道府郡廳 警務部憲兵警察 東洋拓殖會社 御指定
順天
大盛旅館

全羅南道 各府郡廳 諸會社 御指定
海南邑內
富田屋旅館

京城日報 新年號 第九

釜山港灣の大施設
本年三月第一期設備完成

釜山港が港灣としての設備著々完成の域に近づき現に鐵道連絡棧橋に上陸する者をして其の堂々たる施設の如何にも大陸經營の第一足繋りとして首肯せしむるに足るべきものあり更に大正五年度を以て竣工すべき新棧橋は延長二百間幅員二十一間左右に二萬噸級及び七千噸級の汽船各二隻宛を同時に繋留せしむるの大設備にして之にて釜山港の港灣設備の第一期は完成したる事となれり今茲に至れる

□釜山港々灣設備 の發展狀況及び現在設備の歷史を記さんに釜山港は明治二十九年の開港に係り逐年發展して當に朝鮮半島に於ける日鮮貿易の重要港たるに止まらざるに至れるに拘はらず當時の港灣狀態は殆ど天然の儘に委せられ何等の施設なく到底貿易の港として發達に伴ふ能はざるより明治三十九年以降六箇年の繼續事業として工費百四十八萬八千圓を以て海陸連絡設備其他之に附隨する工事を施工せり更に總督府は鴨綠江架橋と共に鮮滿歐亞の最捷路となるや釜山港は實に其の關門として

□世界的港灣たる べき事實の現れ來れるより明治四十四年度より五箇年の繼續事業として工事費豫算三百八十二萬四千六百六十圓を以て港灣設備を施すの計畫を爲し現に之れが施設中に屬せり而して明治三十九年以降六箇年の繼續事業に屬するものは明治四十五年三月完成せり其の主たる工事は稅關敷地其他急要の設備に充當すべき一萬四百坪の海面埋築を行ひ埋築地の一部は幅十八間長さ百六十一間餘の突堤となし突堤の南側に沿ひ幅十二間長百五十二間の

□鐵道棧橋を架設 し三千噸乃至四千噸の汽船二隻を同時に繋留するを得るの設備を爲し尚突堤上には鐵道線路二線を導き貨客の海陸連絡を完からしめたり現に第一棧橋と稱し鮮滿急行列車の著發に供せるもの之れなり此の他對外貿易に充てんが爲め埋築地水際に延長百八十五間の物揚場を築造し二臺の起重機を設置し又沿岸貿易地區としては北濱に於て延長二百八十一間の北濱物揚場を修築し起重機を設置す而して

□陸上設備として は埋築地に於て道路を隔て丶停車場に對し稅關廳舍及び附屬家建坪合計二百九坪餘を建築し第一棧橋に近く稅關監視部廳舍建坪百十二坪餘を新築し更に貨物の集散に供する爲め木造上屋四棟建坪六百五十八坪及び煉瓦倉庫二棟建坪三百三十六坪を新築し又龍尾山下に稅關構內船入場を整理し各種の建築施設を行ひ又

□海港檢疫の設備 としては港口神仙臺下に於て完全なる檢疫所及び之れに屬する諸般の設備を完成せり之等は從來天然を利用せる外多く見るに足るべき設備なかりし釜山港に對する第一次の港灣設備にして釜山港の旺盛なる發展に應ずる當面の急務として關稅行政の圓滑を期せんが爲に經營せられたるものなり之に次て起りし釜山海陸聯絡設備工事は第一期計畫として明治四十四年より大正五年三月迄六箇年に亙る繼續事業として大棧橋及び

□之れに伴ふ埋築 即ち現今の第一棧橋北方に於て一萬六千八百十坪を埋築し陸上設備の地區に充て其の地先には大棧橋を築造し其の水際には物揚場石垣及び護岸石垣を設け棧橋は此の埋築地先に於て第一棧橋沿突堤に並行し之れと百十五間の間隔を存して幅員二十一間延長二百間の鐵道棧橋を築造し中央に鐵道を通ずる鐵道線路を挾み兩側には幅二十二尺長八十二間半の平家建鐵道上屋四棟を設け貨物處理の便に供す此の新棧橋附近は二十七尺及び三十六尺の水深を保たしめ七千噸の汽船二隻

□二萬噸の滊船二隻 の繋留に支障なからしむ海底の浚渫は第一棧橋前の水面々積五萬三千百六十四坪を二十四尺に浚渫し第二棧橋沿及び鞫の瀨港口にて面積二十萬八千三百十一坪を二十七尺乃至三十六尺に浚渫して豫め大船巨舶の出入に備へ棧橋上の設備としては第一棧橋突堤上には幅六十三尺長百五十二間の鐵道吹拔上屋を設け內部に旅客待合室事務所小荷物取扱所切符賣場貨物藏置場喫茶店等の設備をなし新造中の第一棧橋と相俟て此の地點に於ける海陸連絡の設備を完成するものとす猶稅關構內に煉瓦倉庫二棟各百六十八坪の設置ありて

□連帶貨物の保管 處理を爲す埋築地には幅十間乃至十五間のマカダム式築造法に依る道路を設け貨客の交通運搬に便じ猶第二棧橋上の鐵道は草梁釜山間の線路より分岐して棧橋に通じ猶草梁釜山間の舊線路を撤去して釜山驛平埋築地上に一直線の新線路を敷設するの計畫あり海面施設としては釜山鎭豫定埋築地の前面に於て總延長六百十五間に亙る二條の

□防波堤を築造し 面積約十二萬坪の船溜を形成し小型汽船及び帆船の碇泊所に充つ現今工事中の釜山鎭埋築地竣功の後に至らば頗る有要なる地區の一たるべし、第一第二棧橋上及び埋築地上には孤光燈を配置し船舶給水の爲には四吋鐵管を棧橋上に敷設す尚浮標三箇を設置し船舶の碇繫に供す第二棧橋に

□要せる全工事費 は三百八十二萬四千六百六十圓にして六箇年間の繼續事業として工費の內譯は棧橋費百十八萬七千七百六十圓埋築二十八萬千百七十二圓浚渫費二十一萬三千八百十一圓九十五錢上屋倉庫費三十九萬四千七百五十圓道路費五萬二千二百二十圓鐵道費四萬千三百五十八圓九十一錢防波堤費三十五萬六千七百十二圓器械費七十七萬八千三百十圓雜工費十七萬三千十圓十四錢土地買收費三千圓事務費十三萬餘圓なり猶此の他に釜山港の港灣設備として

□民間施設の工事 甚だ多く北濱埋築工事は釜山埋築株式會社が第一期工事を明治三十五年七月起工し面積三萬二千六百二十七坪を埋築し第二期工事は同四十年四月起工し八千七百四十坪を埋築せり現在の釜山停車場敷地の一部及び其以南の佐渡町大倉町高島町中の町池の町新町岸本町等は皆此の埋築地に屬し釜山港樞要の地區なりとす此の他釜山棧橋會社あり明治三十七年起工し幅員五間半延長百間の鐵道棧橋を造築し同三十九年竣工現に沿岸航路出入船舶の旅客の便に供しつゝあり

賀正　京城明治町二丁目　宇治屋茶舖　電話四一二番

賀正　京城明治町二丁目　木村屋支店　電話二八七〇番

賀正　京城本町二丁目　ちゝぶや　電話八九〇番

賀正　京城黃金町二丁目　米井商店出張所　電話一六九六番

賀正　京城本町二丁目　三浦天龍堂　電話一〇〇二番

賀正　京城明治町二丁目　鳥久京城支店　電話一四四四番

謹賀新年
古河合名會社朝鮮總代理店
久原鑛業株式會社日立製作所販賣店
東京電氣株式會社マツダ電球販賣店
十文字式瓦斯水道メートル一手販賣店
安州炭坑京城代理店
白上商店
營業主　白上貞一
京城大和町一丁目　長電九五五番

謹賀新年
一、本社　東京日本橋駿河町壹番地
一、內地各地支店及出張所
横濱、横須賀、新潟、舞鶴、吳、佐世保、小樽、室蘭、砂川、樺太、名古屋、大阪、神戶、岡山、門司、三池、唐津、口ノ津、長崎、倫敦、紐育、漢堡、里昂、香港、ボートランド、孟買、カルカッタ、蘭貢、盤谷、泗水、新嘉坡、シドニー、馬尼剌、廣東、厦門、福州、香港、漢口、芝罘、青島、上海、天津、浦鹽、ハルビン、長春、鐵嶺、奉天、牛莊、大連、安東縣、臺北、臺南、打狗、臺中
三井物產株式會社京城支店　京城黃金町
一、主要取扱業務及品名
內地輸出入仲次、運送業、代理業、問屋業
石炭コークス、棉花、綿絲、綿布、綿棉毛織物、米穀、豆粕、種粕、砂糖、金物、葉煙草、燐寸、木材、麥粉、黑鉛、藥品、諸器械及附屬品、鐵道材料枕木、船舶、自働車、建築材料、苛性曹達、紙、セメント、人造肥料、火藥、爆發物

謹賀新年　銘酒清力發賣元　清力平壤支店　平壤大和町　電話一〇四番

謹賀新年　東拓元山出張所　都渡千三郎

謹賀新年　京城南大門外　洋鐵輸入商　白神洋行京城支店　電話一五一七番　龍山元町一丁目　鐵工鑄造業　白神鐵工所　電話三四番

謹賀新年　京城西大門町　旅館　優翠館（並二高等下宿）　電話二六二五番　吉岡露下

謹賀新年　咸鏡南道德源郡廳　梅田宗二郎　石村守衛

謹賀新年　咸鏡南道德源驛前　大河內農園

謹賀新年　元山旭町　貿易商　龜谷商店　愛介　電話一〇二番

謹賀新年　安東縣市場通九丁目　貿易商　精米業　㊁日東洋行　電話　貿易部用二二七番　同支那用五五六番　精米部用四五六番　振替口座大連一二三八番　電略（ニ）又ハ（ニト）

謹賀新年　新義州府尹　深川傳次郎

大阪財界の回顧

大正三年下半期の株式界は歐洲戰爭勃發の影響をうけて我が財界の恐怖と不安に充たされたりし當時の沈衰期なりしに加へ、歳末の暗雲掩被し遂に議會解散となりしを以て既往の不況時代に次で現はれたる最不況時たりしなり然も戰爭によりて招きたる恐怖と不安は我が財界心理に整理的氣運を投じ一方戰爭の刺戟に基づく部分的生產の活運を促したるが故に大正四年に入りては却つて諸株昂騰の序幕を開くに至れり先づ

□新春劈頭の相場

は其發會平穩なりしも右の如き事情によりて金融界は緩和の趨勢を現はし公債市價の昂騰貿易の順調電燈統一問題米價調節案等の好材料により諸株漸く活氣を呈し來り折柄公債二千萬圓の償還ありて人氣に好感あり宇治川大電株を先頭に諸株何れも上伸を告げたるが三月に入りては金融の大勢更に良好なるものあり殊に久しく鬱結したりし株式心理はいよいよ啓發せらるゝの時期に會したるが人氣は頓に樂觀に傾き市況繁榮にして賣買出來高も激增を示すに至りたるが一面に於ては動もすれば因はれたる人氣の萌芽するあり大手筋の買玉を引かんとするに急なるの振合を示し相場又斯る人氣によりて支配されんとしたるも對支交涉の樂觀又は日銀利下げ說の好材料出づるに及んで又

□復景氣を盛返し

三月を迎へたるが諸株は大凡一巡高を示したる揚句にて強弱仕手は或は形勢を見送らんとするの態度ありて出超貿易の連續、宇治川水電の大擴張說海運界の活動に伴ふ商船郵船の昂騰等も部分的に終り一般的には好響を齎さず殊に此の際對支外交危險を傳へ鐘紡當株等の惡轉と共に人氣亦險惡の調を崩さんとしたりしが漸くにして人心緩和し再び前記の好材料を迎ふるの人氣を喚起し商船株當株等の暴騰を招きしが只人氣は相場高けれど歐洲戰爭の成行に對し注意を拂ふ處深刻にして値頃問題への觀を呈する氣味を生ぜしも衆議院議員選擧の結果は與黨多數を占め對支問題の樂觀、斂料問題の解決等は彼此相俟ち勃然たる買人氣を喚起し市場亦活氣を呈する事となりて四月に入る

□未曾有の商盛

大正四年の相場が既に大底を入れたるものとすれど、大勢良好にして金融の緩漫、對外貿易の順調、諸物價の漸騰對支交涉の進捗、諒聞問題後の人氣更新等枚擧に遑なき好材料を數へ立てらるゝ時に際して、爭でか買氣を刺戟せざるの理由かあらん、市況は前月の活況に引續き更に

□殷賑の度を加へ

相場昂進の氣勢を揚げたるが賣買出來高も從つて夥しき數量に上り二十二萬株と註せられ明治四十二年以來曾て見ざる商盛を演じ來る仕手關係に於ても相場が斯の如く良好の姿勢を呈して歇まざるにおいては自然の結果として放資能力に餘裕を加へ所謂株高が株高の原因となりて現はるゝが故に買方の鼻息却々に凄まじきものありしが又斯る裡にありても諸株に對する採算的觀念は之を抛棄せず只管に冷靜を保ちて進退したりしを以て相場は時々

□一高一低を繰返

したるが獨り當株のみは異りたる觀點に立ちて買進まれたるの振合ありて毫も怯むの形勢見えず、市場全般の氣配は之によりて保たれたるの觀さへあり而して月末に於ては商船株の巍然たる大活躍ありて當株又大に勢ひを得大奔騰を呈したるが此の月百四十七圓五十錢の高値を示して五月を迎ふ買人氣旺盛なる折柄とて新甫は上鞘に發會し就中當株に對する買氣は益々

□炎上的氣勢を昂

げ東新と併せて獨得の強味を發揮せるが尚交涉中なりし對支關係は此の時に至つて或は談判破裂に終るべしとの情報に接し人氣は頓に沮喪するに至りしも一方不時向ひに買物を飛ばさんとする向も尠からずして其割合には手堅き商勢を失はず加ふるに東京市場は大阪の商勢に應じて漸次高潮を呈し來りしを以て主力株の買流行的傾向は又諸株の昂進を促し一般を通じて商狀甚だ健全なるものあり折柄久しき間洞ヶ峠をキメ込み居たりし伊太利の愈々宣戰を布告したりとの飛報ありて聯合軍の新なる強味を叫ばれ

□新材料待の人氣

に油を注ぎかけたるの觀あるに更に對支問題の落著によりても覿面の効果なかりし人氣は此時南滿株に對し漸く買氣を發露し累進的の高潮を促したるを以て諸株又甚だ形勢良好になれり六月に入りては當株遂に春來の高値たる百五十二圓九十錢を示したるが殆んど半歲に亙りて活躍を擅にせる買方も茲處に至つて聊か疲勢を覺え出したるの觀あり相場又反動的氣勢諸株を瞰んで商狀甚だ面白からず議會の無事終了、電燈統一問題の再現氣構、郵船株增資期迫南滿の增配等の好材料ありて東京商と共に一時沮喪せんとしたりし買氣復活の望みなきにあらざりしも

□餘りに樂觀し過

ぎて仕手關係に買方の猛進に過ぎたるの觀ありしを以て買方にとりては其の買玉の負擔聊か重きに過ぎ隨つて賣方は所謂喰合悲觀を目錄として長期派の軍陣を固めんと努めたりしが故に、受渡上疲勞倦怠に堪へざる買方は甚だ憂色深く、七月初旬より下旬に亙りて相場は頗る不味の調を呈出し殊に月末に至りては大浦內相の辭職に次ぎ、閣員一同袂を連ねて闕下に辭表を捧呈したると共に歐洲戰局の方面を觀察すれば聯合軍戰ひ利あらずして露軍は遂に獨軍の爲めにワルソーを陷落せられたりとの報傳はり、只さへ南風競はざりし市場は人氣頓に衰へ日々頹勢を現はして、當株東新等の主力株は從來人氣株たるの本領を發揮し來りたる株種なるだけ、その

□低落の度合も深

く當株百二十三圓三十錢の安値をさへ附するの有樣となれり、而も一般人氣は株界の大勢に對しては飽迄樂觀說を持して容易に下らざるため相場不味の裡にも安値狙ひに買注文を注ぐ向も尠なからず、從て何となく手堅き含みも見えざるに非ざりしが其の仕手關係に於て高値喰合の買玉が一掃するの期に至るまでは灰汁拔けの商勢に好轉すべしとも思はれざるの觀あり八月に入りても前月瓦落の反動的氣勢稍見る可きものありしも新市發會初頭未だ形勢甚だ良好ならず、然も周圍の事情に對し此頃の相場としては如何にも安きに過ぐるの觀念、一般市人の腦裡に刻まれ居れると買方大手の再び出動して大に策を用ひつゝありし等の理由に基き彼の貿易の大出超、續又は金融緩漫の好材料を又復唱へ出して相場に對し刺戟を與へ、明治製煉株の如き銅の商況影響大にありて突如大騰を呈し來り、諸株に對し

□好氣配を附與し

たりしを以て相場は茲に漸進的步調を現はしたるが一面に於ては殆ど極端なる强氣方針が偶々大怪我の基となりて、當時より歐洲戰爭に關する我が經濟界前途の警戒又は不安等を云爲する事深刻となりて、相場の漸騰的步調を眺むるもその割合には人氣の高潮を齎らさず、當株南滿等の特殊的活躍も從て何となく物足らぬ感ありし爲めに

□時に小反動相場

を現はす事ありしも先づ大體觀よりして形勢の好調せる矢先なれどドコとなく市況健全の氣含みあり而して獨軍の敗退又は同盟軍側の媾和希望說等の傳播は月末掉尾の活躍となり月初當株百二十圓二十錢の安値なりしも此の時百五十圓丁度の高値を附し納會値段は百四十八圓二十錢を示して月を越ゆ

賀正 京城旭町一丁目 (京)市場 電話四九九番

賀正 京城本町三丁目 田中吉友商店 電話九九三番

賀正 京城明治町一丁目 北村皮革店 電話一八四六番

賀正 京城本町一丁目 浪花堂菓子店 電話七六九番

賀正 京城南大門通二丁目 吉野兄弟商會 京城支店 電話圜七五七番 二九番

賀正 京城南大門通り五丁目 笑福旅館 電話一五五一番

賀正 京城黄金町一丁目 岩田寫眞館 電話五三番

賀正 京城本町二丁目 龜屋染工場 電話一五八五番

謹賀新年
サクラビール
帝國麥酒株式會社

謹賀新年
營業目種
▲和洋諸紙販賣
▲活版石版印刷
▲各種帳簿製造
▲印刷用インキ販賣
京城永樂町二丁目
播本商店
電話百十番
振替京城二二〇番

謹賀新年
京城本町二丁目
花月
電話五三七番 三三〇番

水道 瓦斯 電氣 鐵道 鑛山 鐵工 精米 製紙
各種機械品並に附屬品
諸塗料和洋金物品
日本ペイント製造株式會社代理店
大阪 堀田商 京城南大門通二丁目 京城支店
主任 堀田又三郎
電話二〇一九番
振替口座京城三一二番

謹賀新年
朝鮮物産毛皮貿易商
京城永樂町二丁目
馬場商店
電話長九八六番
電略(ハ)(又八)(バ)

謹賀新年
李王職總督府御用
遠藤洋服店
京城永樂町二丁目
電話三一三番

謹賀新年
人力車製造附屬品一式並に販賣
京城黄金町三丁目
辻商店
電話一二九〇番

謹賀新年
東京市麹町區有樂町一丁目四番地
明治公債株式會社
電話本局五一八九番
振替口座東京八七七〇番
(電略メニ)
社長 駒林廣運
專務取締役 水品藤一郎
朝鮮京城府黄金町二丁目百九十四番地
株式會社 明治公債朝鮮支部
電話九〇八番
振替口座京城二五〇番
支部長 保木森之助

謹賀新年
大正式輕便 莚織機 定價四圓五十錢
實用新案登錄出願中 出願者 三宅署
京城南大門通五丁目(南大門外)
朝鮮農林商會
電話一四六〇番

謹賀新年
食料品 米薪炭 酒醬油 日用雜貨 荒物
京城黄金町二丁目
博多屋號
安藤商店
電話二五一八番
安東德三郎
新築移轉 業務擴張 確實勉強 博利多賣 趣意に御座候

謹賀新年
會席御料理
京城本町二丁目
大江戸
電話一〇一六番

冷たい家庭、惡い少年

警察官の活動寫眞に對する感想

京城本町警察署長　宮舘貞一氏談

郡會地に於ける犯罪の一般傾向に漏れず京城も詐欺横領等の犯罪に就ては年を逐ふて著るしく増加の傾向を示して居る、一米國人の近著中に經濟的發展の勢力旺盛なる獨逸及び墺地利等に在りては詐欺横領等の犯罪は年々激増しつゝあるも其の進運の極めて遲々たる若しくは殆んど休止狀態に在る伊太利又は西班牙の如きに至りては毫も増加の傾向なく殺人毆打强姦等の如き原始的犯罪のみは依然として大多數を占めて居ると要するに近世的生活の向上發展は

詐欺横領の犯罪率

を自然に膨脹せしむべきものであると言ふてゐる、此説の當否は暫らく之を措き近時の現象は識者の考究を要すべき重要なる社會問題の一つであると思ふ。京城に於ては商家徒弟の横領罪は比較的に多い、又少年の萬引の如きも少なくはない實に嘆ずべきの現象である、是等青少年者の犯罪は貧困其の他社會組織の缺陷よりも寧ろ直接に

風敎の弛廢に基因

するものである、自分は此關係に於て京城に於ける一般風紀の嚴格なる革淸を希望して止まぬのである、併合後京城に於ける風紀の糺正に伴れて一般の商取引も著るしく穩健著實になりつゝあるは言ふまでもない、併しながら朝鮮は殖民地たるの關係上、一般の風紀は内地に比して幾分か浮調子であるのと、商取引の上に射倖的配合が比較的多く混じて居ることゝは商家の徒弟を惰落せしむる一原因であると思ふ、商品の懸賞又は景品附販賣法の如きは勿論

絕對に禁止すべき

ものにあらざるも其の弊の及ぶところは穩健なる商取引の發達を阻害し商業道德の荒廢となり一面商家徒弟の射倖心を挑發して延いて犯罪の素因を作ると云ふことになる、更に第二の原因としては徒弟に對する獎勵及び監督の方法は多くは甚だ不完全なるを免れない、其の甚しきに至りては徒弟の給料を貯蓄の名義の下に主人の手に保管しありながら解傭又は歸國の際に本人に還附せぬと云ふ者もある、又日常須要の小遣錢をさへ渡さぬ爲に主家の

賣懸代金を横領す

ると云ふものも少たくないのである又商家の徒弟中仁川の米相場に手を出すものもある、是等は風紀上頗る憂ふべきことであると思ふ、商家徒弟の惡風潮を糺正することは實に目下の急務である、出來得るならば毎月一回又は隔月一回位商家の主人及び徒弟の會合を催ふし表彰及び慰勞を兼ねて名士の修養談等を聽かしむることは必要の措置であると思ふ又米豆取引所の如きは將來其の組織を變更して會員組織とするか若しくは商業會議所の如き

公共團體の經營に

移して公定相場なるもの、正確を期すると共に『繋ぎ』其の他商取引上の善良なる方面にのみ利用せしめ現在の賭博的弊風を掃蕩することを得ば社會風上の慶事此上もないことである。不良少年は内地の東京大阪等の如く未だ太甚しきには至らぬが學校生徒にして書店に萬引を働き之を古本屋に賣渡して活動寫眞館に出入し又は買喰ひ等を爲したる者最近に於て四五名あつた、其の多くは家庭の不仕鱈殊に

愛情なき冷かなる

家庭に養育せられたる者最も多いようであるが犯罪の直接の動機は孰れも活動寫眞を觀たいと云ふことに一致して居る、少年犯罪の動機は悉く此點に歸一して居るに徴しても活動寫眞なるもの、少年に及ぼす刺戟の深く且大なるに今更ながら慄然たらざるを得ぬのである、活動寫眞は實に三樣の形式に於て一般青少年に害毒を流しつゝある(一)は活動を觀たい爲に横領竊盜等の罪を犯すに至り(二)は活動寫眞館は不良少年の

巣窟として惡弊を

他に傳染せしむ(三)は俗惡なる「フイルム」及び活辯の直接觀客に與ふべき惡感化である、此事は活動寫眞に對する抽象的の斷定にあらずして自然等は警察官として日常遭遇しつゝある事實的現象である。

■バラナストルン　ヴオリンは元バイオラと云うたものから出たのであらうと云ふ事である、それはバイオリンと殆んど同形で形は更に大きく印度のバラナストルンに胚胎せるものらしい今のバラナストルンは既に五千年以前に用ひられた、今でも印度の賤しい僧で之れを弄して乞食するものがあるバイオリンが我が國に傳來したのはあまり古からぬ事である

■一千年前の食品　往時から海苔は著名な食品で紫菜四十八斤と賦役令に云うてあるのを見ると殆ど一千年も以前からあつたと云ふ事が明かである降て徳川幕府の頃は主に品川海から取寄せて淺草でそれを製し淺草海苔と云うたのであつた一説に昔は淺草の浦で採れたから淺草海苔と云つたとも傳へて居るが今云ふ淺草海苔は品川でもなく取ら羽田邊りから取れるのださうだ

賀正

舊年中は御引立を蒙り奉深謝候
今般濱町へ精米工場新築竣成仕候
新工場は從來のものより一層精搗力
多大に有之候條多數御用命被仰付度
御願申上候　敬白

仁川濱町
力武精米所
力武嘉次郎
事務所　電話七〇一番
濱出張所　電話三六二番
本宅　電話四四〇番

謹賀新年

貿易商 精米業
仁川海岸町二丁目
㊀庄野支店
電話局五四番
本店所在地 大阪市西區北堀江通四丁目
庄野嘉久藏

謹賀新年

仁川米豆取引所仲買人（いろは順）

㋑今村覺次郎　電話長三三七番 三六八番
⽻仲買店　電話三六九番 九〇八番
㊎高田仲買店　電話局一〇〇番 局一一九番
⊕仲買店　電話三九番
墨田中金兵衛　電話局六二八番 一五二番
𠮷仲買店　電話局三〇二番 六二五番
三巴仲買店　電話局一四一番 一二一番
今荒木助太郎　電話局二八五番 二六五番
仲買店　電話長六〇二番 五三六番
㊂行實秀吉商店　電話長九一二番 四二二番 三〇九番
㋮廣澤正次郎　電話長六五番 一六〇番 電話長六三二番 局(〇マ)又ハ(マ)
三仲買店　電話四三三番 五一二番

謹賀新年

京城黄金町三丁目
木炭。薪
石炭各種商
電話長一一二九番
川西商店

謹賀新年

京城旭町一丁目
山本鑑之進建築事務所
京城出張所
電話一九三六番

謹賀新年

京城黄金町
共保生命保險株式會社
京城出張所

謹賀新年

鑛業

本部　京城南米倉町
蛇目鑛業所
電話長九三〇番 二八〇八番
同分析所
所主　蛇目萬次郎
支部　元山旭町十六番地
電話三一八番

謹賀新年

京城旭町一丁目
人力車
白石組
電話七五二番

謹賀新年

京城本町三丁目
富士の里茶店
電話九九七番

謹賀新年

つちや足袋代理店
貿易商
今藤富國太郎商店
京城本町三丁目
電話三〇八番

謹賀新年

京城旭町二丁目
不知火旅館
長電話七一九番

謹賀新年

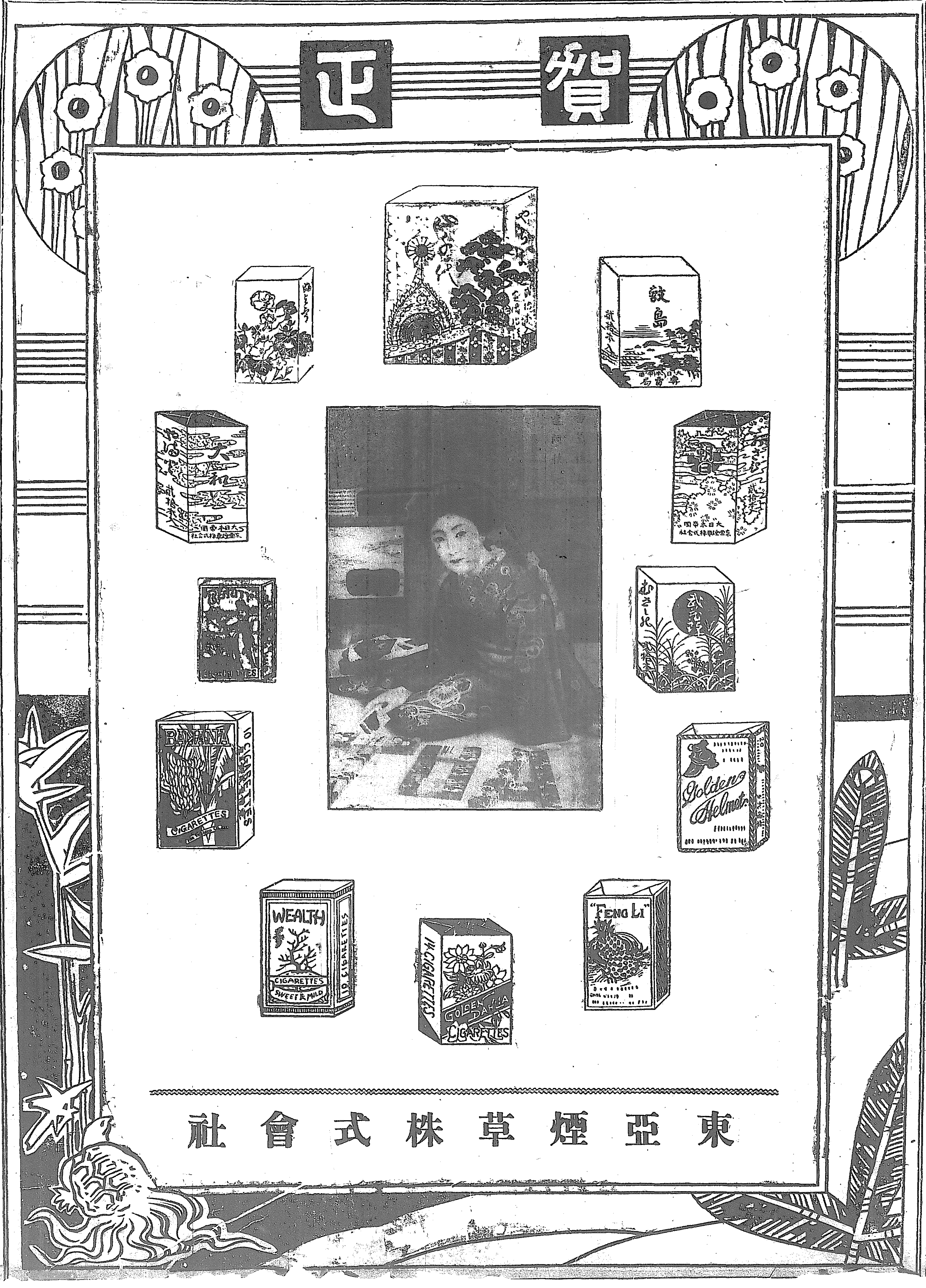
京城消防組
組頭　伊藤友松
小頭　安達友次郎

謹賀新年

京城南米倉町
安達精米所
電話一九一七番

謹賀新年

日本政府特許
毛筆謄寫版並に消耗品一式
鐵筆版附屬及び消耗品一式
京城太平通二丁目
朝鮮大氣堂
電話五七九番
振替口座九四一番


賀正
敷島
BANANA
10 CIGARETTES
CIGARETTES
Golden Helmet
WEALTH
CIGARETTES
SWEET & MILD
10 CIGARETTES
GOLDEN DAHLIA
CIGARETTES
"FENG LI"
東亞煙草株式會社